

- 一 宮津ノ港界ハ片島鼻ヨリ日置崎ニ引キタル一線以內
- 一 敦賀ノ港界ハ赤崎ヨリ蛭子崎ニ引キタル一線以內
- 一 七尾(南灣)ノ港界ハ能登島松ヶ崎ヨリ南東ニ引キタル一線以西及屏風崎峽以東
- 一 伏木ノ港界ハ燈臺ヲ中心トシテ一海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧以內
- 一 青森ノ港界ハ鼻線岬ヨリ正西ニ引キタル一線以內
- 一 小樽ノ港界ハ平磯岬ヨリ「カヤシバ」岬ニ引キタル一線以內
- 一 根室ノ港界ハ辨天島燈臺ヲ中心トシテ一海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧以內
- 一 釧路ノ港界ハ燈臺ヨリ正西二海里ニ引キタル一線以北及該線ノ西端ヨリ正北ニ引キタル一線以東
- 一 室蘭ノ港界ハ「エンルム」崎ヨリ大黒島ヲ經テ「ホテイシ」崎ニ引キタル一線以內
- 一 大泊ノ港界ハ燈竿ヲ中心トシテ二海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧以內
- 一 眞岡ノ港界ハ導標ノ紅光燈ヲ中心トシテ一海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧以內

**第二條** 各船舶ハ入港スルニ當リ其ノ國旗及信號符字ヲ掲クヘシ定期郵便船ハ會社旗ヲ以テ信號符字ニ代用スルコトヲ得

右國旗及信號符字又ハ會社旗ハ船舶ノ著港ヲ港長ニ届出タル後ニアラサレハ之ヲ引下スヘカラス  
著港届ハ日曜日及大祭日ヲ除クノ外著港後二十四時間内ニ之ヲ差出スヘシ但シ著港届ヲ差出シタル後ニアラサレハ如何ナル船舶タリトモ稅關手續ノ便利ヲ與ヘサルモノトス

**第三條** 各船長ハ其ノ著港ニ際シ自由交通ノ許可ヲ受クルマテハ其ノ船舶ト他ノ船舶或ハ陸地トノ間ニ於

ケル一切ノ交通ヲ差止ムヘシ

**第四條** 港長ノ端艇ハ港ノ入口近傍ニ出向キ居リ港長ハ各船舶ノ入港スルニ當リ其ノ泊船所ヲ示定スヘシ而シテ各船舶ハ止ムコトヲ得サル場合ヲ除クノ外特許ナクシテ其ノ泊船所ヲ去ルヘカラス但シ港長ニ於テ必要ト認ムルトキハ船舶ヲシテ其泊船所ヲ移サシムルコトヲ得

**第五條** 港長ハ其ノ執務ノ間常ニ制服ヲ著ク其ノ端艇ニハ別紙雛形ノ如キ旗ヲ掲クヘシ  
港長ハ何時タリトモ船舶ノ運動繫船ノ適否及碇泊所ニ關スル指揮カ果シテ實行セラレ居ルヤ否ヲ検査スルコトヲ得

**第六條** 如何ナル船舶モ公ケノ航路ニ投錨シ若クハ其他航海ノ自由ヲ障碍スヘカラス  
「ヂブ、ブームス」ヲ接キ出シタル船舶ニシテ其ノ「ヂブ、ブームス」カ航海ノ自由ヲ障碍スルトキハ港長ノ請求ニ從ヒ之ヲ取込ムヘシ

**第七條** 港界内ニ碇泊シ又ハ運航スル各船舶ハ日没ト日出ノ間ニハ海上衝突豫防ニ關スル法令ニ規定シタル各種ノ船燈ヲ掲クヘシ

**第八條** 暴風雨ノ來ラムトスルトキ或ハ警報信號ヲ掲ケタルトキハ各船舶ニ於テ直ニ一箇又ハ一箇以上ノ豫備錨ヲ投下スルノ準備ヲ爲スヘシ尤モ汽船ハ此ノ外別ニ蒸氣ヲ發生セシムヘシ

**第九條** 常用ニ超過シ爆發物又ハ容易ニ燃燒スヘキ物件ヲ積載シタル一切ノ船舶ハ港界外ニ來リ其處ニテ港長ノ指揮ヲ待ツヘシ斯ク指揮ヲ待ツ間右船舶ハ日出ト日没ノ間ニハBノ信號日没ト日出ノ間ニハ紅燈ヲ前檣ノ頂上ニ掲クヘシ



各船舶ハ港長ノ指定シタル場所ニアラサレハ前記ノ物件ヲ積入レ又ハ荷卸スヘカラス  
港長ハ港界内ニ於テ前項ノ場所ヲ指定シ難シト認ムルトキハ港界外ニ於テ適當ノ場所ヲ指定スルコトヲ  
得

前項ニ依リ指定シタル場所ハ港界内ニ在ルモノト看做ス

**第十條** 休繋中又ハ修繕中ノ船舶及總テ「ヤット」、倉庫船、貨船及端艇等ハ特ニ港長ノ指定シタル泊船所  
ニ碇泊スヘシ

**第十一條** 船舶カ港界内ニ於テ火ヲ失シタルトキハ救援ノ來ルマテ船鐘ヲ打鳴スヘシ且ツ日出ト日没ノ  
間ニハNMノ信號ヲ掲ケ日没ト日出ノ間ニハ斷エス紅燈ヲ上下スヘシ

警察官ノ救援ヲ要スルトキハ日出ト日没ノ間ニハGノ信號ヲ掲ケ日没ト日出ノ間ニハ藍火若クハ閃火ヲ  
示スヘシ

前記ノ如キ信號ニ用ユル場合ノ外港長ノ允許ヲ得ルニアラサレハ港界内ニ於テ銃砲及煙火等ヲ發スルコ  
トヲ得ス

**第十二條** 帝國政府ニ於テ流行病若クハ傳染病（虎烈刺病、天然痘、黃熱、猩紅熱、「ペスト」ノ類）アル  
地ト布告シタル地ヨリ來著シ又ハ航海中船中ニ該病アリタル船舶ハ港界外ニ來リ日出ト日没ノ間ニハ黃  
旗ヲ日没ト日出ノ間ニハ紅白二燈ヲ上下ニ連ネ前橋ノ頂上ニ掲クヘシ又前記ノ船舶ハ當該衛生官吏ノ臨  
檢ヲ受クヘシ  
衛生官吏臨檢ノ爲メ其船舶ニ近寄りタルトキハ適當ノ豫防ヲ施シ得ル爲メニ航海中現ニ該病發生ノ有無

及該病ノ性質如何ヲ該官吏ニ通知スヘシ

右船舶ハ自由交通ノ允許ヲ受クルマテ黃旗若クハ前記ノ燈火ヲ引下スヘカラス且ツ當該衛生官吏ノ允許  
ヲ得ルニアラサレハ何人タリトモ上陸セシメ又ハ一切他ノ船舶ト交通スルヲ許サス

前數項ノ規定ハ港界内ニ碇泊スル船舶中ニ於テ前記ノ流行病及傳染病ノ内何病ニテモ發生シタルトキニ  
之ヲ適用ス

右船舶ハ港長ヨリ其旨命令ニ接スルトキハ其泊船所ヲ移轉スヘシ

牛羊等傳染病アル地ヨリ來著シ又ハ航海中該病ヲ發生シタル船舶ハ當該衛生官吏ノ允許ヲ得ルニアラサ  
レハ牛羊等又ハ其ノ死體、皮革又ハ骨ヲ陸揚シ又ハ他船ニ積換ユルコトヲ許サス

**第十三條**

港界内ニ於テ死體、荷足、灰燼、塵芥等ヲ海中ニ投棄スヘカラス

石炭、荷足其他之ニ類スル物件ヲ積卸スルトキハ其海中ニ脱落スルヲ妨ク爲メ必要ノ豫防ヲ爲スヘシ  
何船舶ニテモ港ニ害アル一切ノ物件ヲ海中ニ投棄シ又ハ怠慢ニ依リ脱落セシメタルトキハ港長ヨリ其ノ  
旨命令ニ接セハ該船舶ニ於テ之ヲ取除クヘシ若シ取除カサルニ於テハ港長ハ該船舶ノ費用ヲ以テ之ヲ取  
除カシムルコトヲ得

**第十四條**

船舶出港セントスルトキハ其旨（港務局）ニ届出テ且ツ出帆旗ヲ引揚クヘシ

一定ノ時日ニ出帆スル汽船ハ其著港及出帆ニ對シ單ニ一回ノ届出ヲ爲スヲ以テ足レリトス

**第十五條**

一港内又ハ其附近ノ公クノ航路ノ妨害トナルヘキ總テノ難破物又ハ其他ノ物件ハ港長ノ指定  
セル時間内ニ其所有主ニ於テ之ヲ取除クヘシ若シ港長ノ指定セル時間内ニ此命令ヲ遵行セサルニ於テハ

港灣、河川法ヲ施行若ハ準用セサル河川



港長ハ所有主ノ費用ヲ以テ之ヲ取除カシメ又ハ破壊セシムルコトヲ得

第十六條

〔港務局〕ハ定期郵便汽船ノ爲メニ適切ニシテ且ツ充分ナル浮標ノ繫船器若干ヲ備ヘ置キ之ヲ使用スル所ノ船舶ヲシテ成規ノ使用料ヲ拂ハシムヘシ

第十七條

燈船、信號用浮標又ハ立標ニハ鏈、綱其他ノ船具ヲ繫クヘカラス  
船舶若シ燈船、浮標、立標、埠頭及其他ノ造營物ニ乗掛ク又ハ之ヲ毀損シタルトキハ其修繕又ハ再設ノ爲メニ必要ノ費用ハ該船舶ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

第十八條

本則ノ規定ヲ犯シタルトキハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條

船舶ニ科スル罰金、使用料又ハ費用ニ付テハ船長モ亦其責ヲ負フモノトス

第二十條

本則ニ依リ船舶ニ科シタル罰金、使用料又ハ費用ヲ完納スルカ或ハ之ニ對シ港長ノ満足スヘキ擔保物ヲ港長ニ差出スニアラサレハ其ノ船舶ノ出港ヲ許サス

第二十一條

本則ニ於テ港長ト稱スルハ助役及代理者ヲモ包含シ船長ト稱スルハ其名稱ノ何タルヲ問ハス船舶ヲ指揮監督スル者ノ義ニシテ港ト稱スルハ本則第一條中ニ列記セル諸港ノ一ヲ指ス

第二十二條

各港ニ於テ其ノ一部分ヲ軍艦ノ碇泊所トシテ取除ケ置クヘシ

第二十三條

本則ノ規定中軍艦ニ適用セラルヘキモノハ第四條、第六條、第十二條、第二十一條ノ規定及第十三條第一項及第二項ノ規定ニ限ル

第二十四條

本則施行ノ時期及場所ハ遞信大臣之ヲ告示ス  
本則實施ニ關スル細則ハ遞信大臣之ヲ發布ス

◎橫濱、神戸、長崎港ニ開港港則實施ノ件

(明治三十一年九月八日 遞信省告示第二三一號)

明治三十年勅令第三百三十九號開港々則ハ來十月十日ヨリ橫濱港ニ同十一月一日ヨリ神戸港及長崎港ニ之ヲ實施ス

◎門司港ニ開港港則實施ノ件

(明治三十三年十一月十日 遞信省告示第四四九號)

本年十二月一日ヨリ明治三十一年勅令第三百三十九號開港々則ヲ門司港ニ實施ス

開港及開港場ニ於ケル輸出入貨物ノ指定

(明治三十二年七月十日) 改(明治三十二年第四六〇號、三十七年第一〇四號、三十八年第三三〇號、三十九年第三〇號、同年第一五七號、四十年第三〇號、同年第一四號、四十二年第二四號、四十二年第二五二號、四十四年第一八七號、大正三年第一五四號、四十四年第一三三號、八年第三三八號、十一年第二二號、同年第二九號)

第一條

從來ノ開港ノ外左ノ諸港ヲ開港トス

- 駿河國清水
- 尾張國名古屋
- 備後國絲崎
- 周防國徳山
- 豊前國門司

- 尾張國武豊
- 伊勢國四日市
- 伊豫國今治
- 長門國下ノ關
- 筑前國若松

港灣、河川法ヲ施行若ハ準用セサル河川



- 筑前國博多
- 肥前國住ノ江
- 筑後國三池
- 薩摩國鹿兒島
- 對馬國佐須奈
- 琉球國那霸
- 伯耆國境
- 越前國敦賀
- 越中國伏木
- 後志國小樽
- 釧路國釧路
- 樺太大泊
- 肥前國唐津
- 肥前國口ノ津
- 肥後國三角
- 對馬國嚴原
- 對馬國鹿見
- 石見國濱田
- 丹後國宮津
- 能登國七尾(南灣)
- 陸奥國青森
- 根室國根室
- 膽振國室蘭
- 樺太真岡

第二條 (削除)

第二條ノ二 (大正十一年勅令第  
二九號ヲ以テ削除)

第二條ノ三 (同上  
削除)

第二條ノ四 (同上  
削除)

第三條 第一條ノ各港ニ於テ滿二年毎ノ輸出入貨物ノ價格五萬圓ニ達セサルトキハ之ヲ閉鎖ス

第一條ノ各港ハ交通ノ發達ニ因リ其ノ附近ノ地ニ新ニ開港ヲ設クル場合ニ於テ將來存置ノ必要ナシト認  
ムルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス之ヲ閉鎖スルコトヲ得  
閉鎖ノ時期ハ三箇月前大藏大臣之ヲ公告スヘシ

附 則

本則ハ關稅法施行ノ日ヨリ施行ス

◎開港閉鎖ノ規定適用ニ關スル件 (大正四年七月二十  
八日勅令第四二號)

明治三十二年勅令第三百四十二號第三條第一項ノ規定ハ戰爭又ハ事變ニ因リ輸出入ノ貨物ノ價格所定ノ額ニ達セサル  
場合ニ於テハ之ヲ適用セス

◎河川法ヲ施行若ハ準用セサル河川又ハ港灣ニ關スル件 (大正十一年五月二十六  
日內務省訓令第六號)

第一條 河川法ヲ施行若ハ準用セサル流域ニ府縣以上ニ跨ル河川ニ關スル事項ニシテ左ニ掲クルモノハ本  
大臣ノ認可ヲ受ケ處分スヘシ但シ他府縣ニ影響ヲ及ホスノ虞ナキモノ (對岸他府縣ニ屬シ又ハ上流若ハ下流  
除)又ハ關係府縣知事ノ間ニ協議調ヒタルモノハ此ノ限ニ在ラス (他府縣ニ連接スル場所ニ係ルモノヲ

港灣、河川法ヲ施行若ハ準用セサル河川



- 一 河川(支派川ヲ含ム)又ハ其ノ堤防ニ關スル新築、改築、除却工事
- 二 河川又ハ其ノ堤防ノ敷地若ハ流水ノ使用但シ一旦認可ヲ受ケタルモノノ繼續使用ハ此ノ限ニ在ラス
- 三 河川又ハ其ノ堤防ニ沿ヒ若ハ之ヲ横過シテ施設スル鐵道、軌道若ハ道路ノ新築、改築工事ニシテ洪水汎濫區域ヲ著シク縮少スル虞アルモノ

第二條

港灣ニ關スル事項ニシテ左ニ掲クルモノハ本大臣ノ認可ヲ受ケ處分スヘシ

一 左ノ港灣ニ關スル新築、改築、除却工事但シ輕易ナル工事ニシテ豫メ稟伺省略ノ認可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

東京港、横濱港、清水港、名古屋港、四日市港、大阪港、神戸港、下關港、門司港、若松港(洞海湾ヲ含ム)、伊萬里港、長崎港、鹿兒島港、高松港、小松島港、今治港、那覇港、伏木港、境港、敦賀港、新潟港、土崎港、船川港、青森港、鹽釜港(花淵港ヲ含ム)、函館港、室蘭港、小樽港、

二 前號港灣ノ外本大臣ノ指定スル港灣ニ關スル新築、改築、除却工事ニシテ其ノ港灣ノ利用ニ著シキ影響ヲ及ボスノ虞アルモノ

◎港灣指定ノ件

(大正十一年五月二十七日)  
(内務省告示第一三一號)

大正十一年五月内務省訓令第六號第二條第二號ニ依ル港灣左ノ通指定ス

京都府 舞鶴港 宮津港  
大阪府 堺港 岸和田港

神奈川縣	兵庫縣	長崎縣	新潟縣	千葉縣	三重縣	愛知縣	靜岡縣	宮城縣	巖手縣	山形縣	秋田縣	福井縣	石川縣	富山縣	島根縣	島根縣	
横須賀港	西宮港	高砂港	佐世保港	直江津港	木更津港	津港	武豐港(平坂、大濱、新川、龜崎、半田ヲ含ム)	下田港	萩濱港	宮古港	酒田港	能代港	小濱港	七尾港	魚津港	米子港	濱田港
浦賀港	尼ヶ崎港	洲本港	口ノ津港	柏崎港(北條ヲ含ム)	館山港(北條ヲ含ム)	鳥羽港			石卷港	釜石港		三國港				松江港(馬瀉ヲ含ム)	
	明石港		嚴原港	夷子港	銚子港	神社港	福江港										
	飾磨港																

港灣、河川法ヲ施行若ハ準用セサル河川



現行土木法令

岡山縣	玉山港	宇野港	糸崎港	吳港
廣島縣	宇品港	尾ノ道港		
和歌山縣	勝浦港	和歌山港		
德島縣	德島港			
香川縣	多度津港			
愛媛縣	宇和島港	八幡濱港	三津濱港(高濱ヲ含ム)	長濱港
高知縣	浦戶港			
福岡縣	博多港	小倉港	三池港	
大分縣	大分港	白杵港		
佐賀縣	唐津港(西唐津ヲ含ム)	住ノ江港		
熊本縣	三角港	内海港		
宮崎縣	細島港			
鹿兒島縣	古江港	留崩港	稚内港	根室港
北海道	釧路港	網走港		
	岩内港			

◎港灣區域決定ノ件(大正十二年八月二十三日) (内務省告示第二七六號)

大正十一年五月内務省訓令第六號第二條第一號ノ港灣並同條第二號及公有水面埋立法施行令第三十二條第一項第四號ニ

依リ内務大臣ノ指定スル港灣ノ區域左ノ通告示ス

道府縣	港灣	區域
東京	東京	江戸川右岸端ヨリ羽田燈臺ノ東南東一海里ノ點ニ引キタル一線ト該點ト羽田燈臺ヲ貫ク一線トニヨリテ圍マレタル區域
京都	舞鶴	横波鼻ヨリ三本松鼻ニ引キタル一線以内
京都	宮津	片島鼻ヨリ日置崎ニ引キタル一線以内
大阪	大阪	神崎川口左岸ヨリ南西微南ニ引キタル一線ト大和川口左岸ヨリ正西ニ引キタル一線トニヨリテ圍マレタル區域
大阪	堺	石津川口右岸端ヨリ大阪港南防波堤突端燈臺ニ引キタル一線ト大阪港南側港界線トニヨリテ圍マレタル區域
神奈川	岸和田	突堤ノ基點ヲ中心トシテ半海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内
神奈川	横濱	本牧鼻ヨリ羽田燈臺ノ東南東一海里ノ點ニ引キタル一線ト該點ト羽田燈臺ヲ貫ク一線トニヨリテ圍マル、區域中
兵庫	横須賀	神奈川縣管内ニ屬スル部分
兵庫	神戶	横須賀軍港區域
		島ヶ崎ヨリ燈明崎ニ引キタル一線以内
		妙法寺川口東岸突堤端ヨリ正東ニ引キタル一線ト夙川右岸端ヨリ南口ニ引キタル一線トニヨリテ圍マレタル區域

港灣、河川法ヲ施行若ハ準用セザル河川



長崎 新湯 千葉

西宮 尼ヶ崎 明石 飾磨 高砂 洲本 長崎 佐世保 口津 嚴原 新湯 直津 柏崎 夷崎 木更津

夙川右岸端ヨリ正南ニ引キタル一線ト申川左岸端ヨリ正西ニ引キタル一線トニヨリテ圍マレタル區域  
 武庫川左岸端ヨリ南東ニ引キタル一線ト大阪港北經界線トニヨリテ圍マレタル區域  
 燈臺ヲ中心トシテ半海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内  
 燈臺ヲ中心トシテ半海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内  
 東突堤燈臺ヲ中心トシテ半海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内  
 東突堤燈臺ヲ中心トシテ半海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内  
 小瀬戸浦ノ南東端ヨリ鼠島ノ外端ヲ經テ蔭ノ尾長刀崎ニ引キタル一線ト蔭ノ尾三角點(一五四呎)ヨリ正南ニ向ヒ香燒島ニ引キタル一線及香燒島石燈籠ノ鼻ヨリ深堀村堂ノ崎ニ引キタル一線トニヨリテ圍マレタル區域  
 軍港第三區線内  
 土平崎ヨリ宮津鼻ニ引キタル一線以内  
 虎崎ヨリ耶良崎(一名寢釋迦鼻)ニ引キタル一線以内  
 燈臺ヲ中心トシテ二海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内  
 永代橋ノ東橋臺ヲ中心トシテ一海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内  
 八坂神社ヲ中心トシテ四分ノ三海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内  
 椎泊村ヨリ北五十里村ニ引キタル一線以内  
 矢那川縣道橋北橋臺ヲ中心トシテ一海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内

三重 愛知 靜岡 宮城 岩手

館山(北條ヲ含ム) 銚子 四日市 津羽 鳥羽 神戶 名古屋 武豊 福江 下田 清田 鹽釜 萩濱 石巻 宮古 釜石

暴風信號標ヲ中心トシテ一海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内  
 千人塚ヲ中心トシテ一海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内  
 燈臺ヲ中心トシテ二海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内  
 燈臺ヲ中心トシテ四分ノ三海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内  
 答志島ノ最西端ヨリ日向島ノ最北端ニ引キタル一線ト同所ヨリ坂手島最東端ヲ經テ加布良古崎ニ引キタル一線トニヨリテ圍マレタル區域  
 大湊町南東端ヲ中心トシテ四分ノ三海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内  
 西突堤燈臺ヲ中心トシテ四海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内  
 阿和町大字布上ヨリ正東ニ引キタル一線以内  
 福江町大字古田ノ西北端ヲ中心トシテ四分ノ三海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内  
 赤根島ノ南端ヨリ正東ニ引キタル一線以内  
 眞崎ヨリ正北ニ引キタル一線以内  
 花淵崎ヨリ唐戸島南島ニ引キタル一線ト同島西端ヨリ寒風澤島長濱天測點ヲ見透シタル一線トニヨリテ圍マレタル區域  
 狐穴崎ヨリ割石崎ニ引キタル一線以内  
 燈臺ヲ中心トシテ一海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内  
 測候所暴風標ヲ中心トシテ四分ノ三海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内  
 鷺巢崎ヨリ釜ヶ崎ニ引キタル一線以内

港灣、河川法ヲ施行若ハ準用セザル河川



青	山	秋	福	石	島	島	島	三
森	形	田	井	川	取	境	根	島
青	酒	土	能	小	三	七	伏	魚
森	田	崎	代	濱	國	尾	木	津

鼻線崎ヨリ正西ニ引キタル一線以内  
 燈臺ヲ中心トシテ一海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内  
 新屋濱測點ヲ中心トシテ一海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内  
 船入場入口ノ北燈臺ヲ中心トシテ二海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内  
 天測點ヲ中心トシテ一海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内  
 赤崎ヨリ蛭子崎ニ引キタル一線以内  
 辰ノ口鼻ヨリ波懸鼻ニ引キタル一線以内  
 宿浦突堤ノ基點ヲ中心トシテ半海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内  
 緒崖ヨリ正東ニ引キタル一線以内  
 燈臺ヲ中心トシテ一海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内  
 大町地先突堤ノ基點ヲ中心トシテ一海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内  
 燈臺ヲ中心トシテ一海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧以西及外ノ江西北端ヨリ正西ニ引キタル一線以東  
 八尋鼻ヨリ西北ニ引キタル一線ト同所ヨリ西南ニ引キタル一線トニヨリテ圍マレタル區域  
 馬島ノ北端千疊敷鼻ヨリ矢野島東端ヲ見透シタル一線ト同所ヨリ入道鼻ニ引キタル一線トニヨリテ圍マレタル區域  
 末次鼻ヨリ嫁ヶ島ノ西端ヲ見透シタル一線以東大海崎ヨリ意宇川左岸端ニ引キタル一線以西ノ區域

岡	廣	山	和	德	香	愛
山	島	口	山	島	川	媛
玉	宇	宇	尾	糸	吳	下
島	野	品	道	崎	關	浦

柏島八幡神社ヲ中心トシテ養父ノ鼻南端迄ヲ半徑トスル圓圈ノ一弧内  
 池浦ノ最東端ヨリ廣湯ノ最南端ニ引キタル一線以内  
 金輪島ノ西北端ヨリ宇品島ノ最南端ニ引キタル一線ト日宇那ノ最南端ニ引キタル一線トニヨリ圍マレタル區域  
 松ヶ鼻ヲ中心トシテ半海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧ト岩子島ノ西端ヨリ北西ニ引キタル一線ト向島布刈鼻ト岩子島鷄小島トヲ連絡シタル一線トニヨリ圍マレタル區域  
 六本ノ鼻ヨリ犬吠ノ鼻ニ引キタル一線以内  
 軍港第二區線内  
 部崎燈臺ヨリ正北ニ引キタル一線ト六連島燈臺ヨリ黒崎ニ引キタル一線ト同島波止ノ鼻ヨリ赤坂突角ニ引キタル一線トニヨリテ圍マル區域中山口縣管内ニ屬スル部分  
 大石原鼻ヨリシヶ島鼻ニ引キタル一線以内  
 紀伊川口燈臺ヲ中心トシテ二海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内  
 津田浦東北端ヲ中心トシテ半海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内  
 根井鼻ヨリ辨天島ヲ見透シタル一線以内  
 西突堤基點ヲ中心トシテ一海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内  
 北突堤基點ヲ中心トシテ四分ノ三海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内  
 天保山突堤基點ヲ中心トシテ一海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内  
 戎ヶ島ヨリ正北ニ引キタル一線以内

港灣、河川法ヲ施行若ハ準用セザル河川



熊本	佐賀	大分	福岡	高知	八幡濱	三津濱	長濱	浦戸	門司	博多	若松	小倉	三池	大分	白杵	唐津	住ノ江	伊萬里	三角
----	----	----	----	----	-----	-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	----

城ヶ浦鼻ヨリ九三〇高地ニ引キタル一線以内  
 大可賀新田西北端ヨリ興居島黒崎ニ引キタル一線ト同島神崎磯ヨリ白石鼻ニ引キタル一線ニヨリテ圍マレタル區域  
 長濱港突堤基點ヲ中心トシテ半海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内  
 上龜頭崎ヲ中心トシテ半海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内  
 部崎燈臺ヨリ正北ニ引キタル一線ト六連島燈臺ヨリ黒崎ニ引キタル一線ト同島波止ノ鼻ヨリ赤坂突角ニ引キタル一端トニ依リテ圍マル、區域中福岡縣管内ニ屬スル部分  
 滿切ト天狗鼻ト碁石鼻トヲ連結シタル一線以内  
 燈臺ヲ中心トシテ二海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内  
 大山鼻ヨリ正西ニ引キタル線ト門司港界線及若松港界線トニヨリテ圍マレタル區域  
 諏訪川口橋梁北橋臺ヲ中心トシテ二海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内  
 東燈臺ヲ中心トシテ一海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内  
 板知屋ノ最北端ヨリ北端ヨリ北北西ニ引キタル一線以内  
 高島ノ北端ヨリ西北西ニ引キタル一線ト同島ノ南東端ヨリ正南ニ引キタル他ノ一線トニヨリテ圍マレタル區域  
 芦刈村南東端ヲ中心トシテ一海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内  
 浦ノ崎縣界ヨリ福島石岩鼻ニ引キタル一線及煤屋崎ヨリ西北ニ引キタル一線以内  
 瀬戸ノ鼻ヨリ大矢野島コシヒラ鼻ニ至ル一線、同島神崎ヨリ寺島燈臺ニ至ル一線同所ヨリ

名崎	鹿兒島	沖鼻	北海道	細島	内海	鹿兒島	古江	那覇	函館	室蘭	小樽	釧路	留萌	稚内	根室	岩内	網走
----	-----	----	-----	----	----	-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

野崎ニ至ル一線及戸馳島田井地内ノ西北端ヨリ正北ニ引キタル一線ニテ圍マレタル區域内  
 細島崎ヨリ松ヶ鼻ニ引キタル一線以内  
 燈臺ヲ中心トシテ四分ノ三海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内  
 燈臺ヲ中心トシテ一海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内  
 北防波堤ノ起點ヲ中心トシテ半海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内  
 先原崎燈臺ヨリ千ノ瀬ノ北端ニ引キタル一線ト安里川口右岸端ヨリ千ノ瀬ノ北端ニ引キタル一線トニヨリテ圍マレタル區域  
 穴潤崎ヨリ上磯村有川口東岸端ニ引キタル一線以内  
 (エメルム) 崎ヨリ大黒島ヲ經テ(ホテイシ) 崎ニ引キタル一線以内  
 平磯岬ヨリ(カヤシバ) 岬ニ引キタル一線以内  
 燈臺ヨリ正西二海里ニ引キタル一線以北及該線ノ西端ヨリ正北ニ引キタル一線以東  
 留萌崎ヨリ正北一海里ニ引キタル一線以東及該線ノ北端ヨリ正東ニ引キタル一線以内  
 天測點ヲ中心トシテ一海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内  
 辨天島燈臺ヲ中心トシテ一海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内  
 天測點ヲ中心トシテ一海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内  
 天測點ヲ中心トシテ一海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内

**第三條** 前條ノ港灣ニ關シ明治四年太政官布告第六百四十八號ニ依リ使用料ノ徵收ヲ許可セムトスルトキハ本大臣ノ認可ヲ受クヘシ

港灣、河川法ヲ施行若ハ準用セサル河川



第四條 本大臣ノ指定スル以外ノ河川又ハ第二條ニ該當セサル港灣ニ關スル費用ヲ府縣ノ支辨ト爲サムトスルトキハ本大臣ノ認可ヲ受クヘシ

◎河川指定ノ件(大正十一年五月二十七日 内務省告示第一三二二號)

大正十一年五月 内務省訓令第六號第四條ニ依ル河川左ノ通指定ス

澱川	野洲川	山科川	桂川	鴨川
小畑川	小泉川	木津川 <small>(京都、奈良、三重)</small>	天野川	寢屋川
水無瀬川	船橋川	穂谷川	檜尾川	芥川
木津川 <small>(大阪)</small>	左門殿川	尻無川	大和川	紀ノ川
神崎川	日高川	中津川	日和川 <small>(和歌山)</small>	雲出川
有田川	新高川	富田川	櫛田川	豐川
古座川	員辨川	宮川 <small>(三重)</small>	牧田川	敷地川
鈴鹿川	木曾川	揖斐川	矢作川	菊川
長良川	犀川 <small>(長野天龍支)</small>	庄内川	太田川 <small>(静岡)</small>	敷地川
天龍川	逆川 <small>(静岡)</small>	倉真川	初馬川	多摩川
原野谷川	安倍川	相模川	富士川	笛吹川
大井川	酒匂川	相模川	荒見川	入間川
狩野川	秋川	海老取川		

越邊川	高麗川	都幾川	中流川	養老川
小櫃川	利根川	烏波川	神田川	渡良瀬川
秋山川	思川	巴波川	谷田川	逆川 <small>(千葉茨城)</small>
權現堂川	江戶川	小貝川	鬼怒川	將監川
常陸川	那珂川	久慈川	阿武隈川	荒川 <small>(福島)</small>
白石川	名取川	鳴瀬川	吉田川	小湫川
北上川	江合川	追川	追波川	馬淵川
相坂川	岩木川	十川	早川 <small>(青森)</small>	小湫川
石坂川	三本川 <small>(派川ヲ含ム)</small>	岩見川	馬鹿川	山田川
米代川	雄物川	荒川 <small>(新潟、山形)</small>	子吉川	最上川
赤川	荒川 <small>(新潟、山形)</small>	小阿賀野川	阿賀野川	日橋川
湯川 <small>(長野信濃支)</small>	宮川 <small>(福島)</small>	西通川	加治川	信濃川
早月川	中ノ口川	神通川	關川	熊野川
庄取川	常願寺川	津幡川	井田川	黒部川
手取川	小矢部川	大聖寺川	淺野川	犀川 <small>(石川)</small>
天王川	淺水川	鞍谷川	九頭龍川	日野川
北川	遠敷川	南川	江古川	由良川

港灣、河川法ヲ施行若ハ準用セサル河川



武庫川	加古川	洗川	市川	夢前川
揖保川	千種川	圓山川	出石川	濱坂川
三原川	吉井川	砂山川	旭川	足守川
高梁川	小田川	蘆田川	沼田川	太田川(廣島)
木野川	錦川	佐波川	樵野川	厚東川
千代川	天神川	日野川(鳥取)	伯太川	飯梨川
斐伊川	大橋川	新川(鳥根)	島村定川(派川ヲ含ム)	
二十間川	南二十五間川	北二十五間川	神戶川	郷川
高津川	吉野川	別宮川	善入寺川	勝浦川
那賀川	海部川	土器川	中山川	重信川
肱川	野根川	物部川	國分川	仁淀川
波川	山國川	遠賀川	中元寺川	彦山川
泉河内川	犬鳴川	松浦川	鹽田川	六角川
嘉瀬川	筑後川	早津江川	矢部川	菊池川
白磨川	綠川	加勢川	嘉永新川	氷川
球磨川	驛館川	大分川	大野川	番匠川
五箇瀬川	美々津川	高鍋川	佐土原川	大淀川
廣渡川	肝屬川	新川(鹿兒島)	川内川	

**第五條** 河川法ヲ施行若ハ準用スル河川、水流若ハ水面ニ就キ府縣知事ニ於テ河川法第十七條若ハ第十八條ニ記載スル行爲ヲ爲サムスルトキ又ハ同一ノ行爲ニ付行政廳ノ協議ニ應セムトスルトキハ本大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ大正十一年六月内務省令第十一號第一條又ハ第二條ニ依リ府縣知事限リ處分シ得ヘキ行爲ニ付キテハ此限ニ在ラス

附 則

大正元年十一月十一日 内務省訓令第二十五號ハ之ヲ廢止ス

◎道路橋梁河川港灣等通行錢徵收ノ件(明治四年十二月十四日 太政官布告第六四八號)

治水修路ノ儀ハ地方ノ要務ニシテ物産蕃盛庶民殷富ノ基本ニ付府縣管下ニ於テ有志ノ者共自費或ハ會社ヲ結ビ水行ヲ疏シ險路ヲ開キ橋梁ヲ架スル等諸般運輸ノ便利ヲ興シ候者ハ落成ノ上功費ノ多寡ニ應シテ年限ヲ定メ税金取立方被差許候間地方官ニ於テ此旨相心得右等ノ儀願出候者有之節ハ其他ノ民情ヲ詳察シ利害得失ヲ考ヘ人費税金ノ制限等篤ト取調大藏省ヘ可申出事但本文ノ趣管內無洩可相違事

◎開港區域内ニ於ケル水面埋立其他土木

工事施行ニ關シ所轄稅關ヘ協議方ノ件(大正二年一月十一日 内務省訓令第一一號)

北海道廳、京都府、長崎縣、新潟縣、愛知縣、靜岡縣、石川縣、富山縣、島根縣、廣島縣、福岡縣、佐賀縣、熊本縣、沖繩縣ヘ開港區域内ニ於ケル水面埋立及工事ノ新築除却ニシテ本大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要セサルモノハ所轄稅關ヘ協議ノ上處分スヘシ

港灣、河川法ヲ施行若ハ準用セザル河川



◎水防ニ關スル件(大正五年四月十四日 內務省訓令第四號)

洪水氾濫ノ虞アル地方ニシテ未タ水防ニ關スル施設ノ完カラサルモノニ在リテハ市町村、市町村組合、町村組合又ハ水害豫防組合ヲシテ其ノ土地ノ狀況河川ノ狀態等ニ鑑ミ大體左ノ標準ニ依リ水防施設ヲ完備セシムルト共ニ之ヲ監督指導ニ努メテ水害豫防ノ實績ヲ舉ルコトヲ期スヘシ

一 地域廣闊其ノ他特別ノ事情アルモノニ對シテハ適宜水防區ヲ設ケシムヘシ  
二 水防ノ必要アル公共團體ニ對シテハ左ノ設備ヲ爲サシムヘシ

一 貯藏小屋 一 材料及器具 一 洪水標

三 貯藏小屋ハ堤防延長凡五百間乃至千間毎ニ堤防又ハ其ノ附近ニ之ヲ設置セシムヘシ

四 材料及器具ハ知事ニ於テ其ノ種類及數量ヲ定メ之ヲ藏置セシムヘシ

五 洪水標ニハ警戒水位ヲ表示シ出水ノ虞アルトキハ豫メ水防長ニ於テ選定シタル水防員ヲシテ之ヲ監視セシメ警戒水位ニ達シタルトキハ速ニ水防ノ準備ヲ爲サシムヘシ

六 材料及器具並洪水標ハ出水期前官吏吏員ヲ派遣シテ檢閲セシムヘシ

七 水防上警戒ヲ要スル場合ニハ水位ヲ時々下流公共團體ニ順次通報セシムヘシ

八 水防ノ必要アル公共團體ニハ左ノ水防員ヲ置カシムヘシ

- 一 水防長 水防事務ヲ掌理スル者 一名
- 一 水防部長 水防長ノ命ヲ承ケ水防事務ヲ分擔スル者 若干名
- 一 水防組頭 水防部長ノ命ヲ承ケ部下ヲ指揮シ水防ニ從事スル者 若干名

一 水防小頭 水防組頭ヲ助ケ水防組頭故障アルトキハ之ニ代ル者 若干名

一 水防夫 水防長以下ノ命ヲ受ケ水防ニ從事スルモノ 若干名

九 毎年一回若ハ數回水防員ヲシテ水防方法ノ練習ヲ爲サシムヘシ

水防ノ方法及練習ニ關スル規定ハ當該公共團體ニ於テ之ヲ定メ知事ノ認可ヲ受ケシムヘシ

十 水防ノ監督指導ノ爲官吏吏員ノ分擔區域ヲ定ムヘシ

十一 明治二十七年二月勅令第十五號消防組規則ニ依リ水防組ヲ設ケ又ハ消防組ヲシテ水災警防ノ事務ヲ兼テシムルヲ適當トスルモノニ在リテハ前各項ノ趣旨ニ準シ相當ノ施設ヲ爲サシムヘシ

地方稅規則(明治十三年四月八日改(各條項ニ) 太政官布告第一六號)正(揭記ス)

明治十一年七月第十九號布告地方稅規則左ノ通改正候條此旨布告候事

地方稅規則

第一條 地方稅ハ左ノ目ニ從ヒ徵收ス

一 地租三分一以内(明治十三年第四八號 布告ヲ以テ本項改正)

一 營業稅並雜種稅

一 戶數割

第二條 營業稅雜種稅ノ種類ハ別段ノ布告ヲ以テ之ヲ定ム(明治十五年第二號布告ヲ) 以テ及制限ノ三字ヲ削ル)

第三條 地方稅ヲ以テ支辨スヘキ費目左ノ如シ(明治十五年第二號布告ヲ) 以テ各項共改正)

港灣、河川法ヲ施行若ハ準用セサル河川



警察費

警察廳舎建築修繕費

土木費

(區)町村土木補助費

府縣會議諸費

衛生及病院費

教育費

(區)町村教育補助費

郡(區)廳舎建築修繕費

郡(區)吏員給料旅費及廳中諸費(明治十六年第七號布告ヲ以テ郡區長ノ給料旅費ハ國庫ノ支辨トス)

救育費

「浦役場及難破船諸費」(明治二十一年法律第一號ヲ以テ浦役場費ハ市町村ノ負擔トス)

諸達書及揭示諸費

勸業費

「戸長以下給料旅費」(明治十七年第一三號布告ヲ以テ本項改正)

地方稅取扱費(府縣廳ニ屬スル爲換方給料爲換方手數料現金遞送等ノ費用)

一 府縣廳舎建築修繕費

一 府縣監獄費

一 府縣監獄建築修繕費

以上費目互ニ流用スルコトヲ許サス

一 豫備費(豫算外ニ生シタル事件ノ費途及(明治十五年第六九號豫算ノ臨時不足ニ充ツヘキ者)布告ヲ以テ本項改正)

〔右ノ外特ニ費目ノ増加ヲ要スルトキハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事「縣令」ヨリ「內務大藏兩卿」ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ〕

第四條

〔其年四月ヨリ翌年三月迄ヲ一週年度トナシ府知事「縣令」ハ前年十月迄ニ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算並ニ地方稅徵收ノ豫算ヲ立テ翌年度ノ定額トナシ其ノ府縣會ノ議決ヲ取リ其年二月ヲ以テ

「內務卿」及「大藏卿」ニ報告スヘシ〕(明治十七年第二九號布告ヲ以テ改正シ同十九年度ヨリ施行ス)

〔地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事件數年ヲ期シテ施行スルモノハ初年ニ於テ其年期間各年度ノ經費豫算ヲ定メ府縣會ノ議決ヲ取リ府知事「縣令」ヨリ「內務卿」ニ具狀シ認可ヲ得テ其ノ年期間之ヲ施行スルコト

ヲ得〕(明治十五年第六九號布告ヲ以テ本項追加)

第五條

〔非常ノ費用ハ豫算ニ立ツルヲ得サル天災時變ノ費用別ニ賦課スルヲ得ルト雖モ其ノ府縣會ノ議決ヲ取リ「內務卿」及「大藏卿」ニ報告スヘシ〕(明治十四年第五號布告ヲ以テ報告スヘ)

〔前年度經費決算ノ場合ニ於テ已ムヲ得サル事故アリテ費目中不足ヲ生スルモノアルトキハ府知事「縣

港灣、河川法ヲ施行若ハ準用セサル河川



令」ハ府縣會ノ議決ヲ取り其ノ補充費ヲ徴收スルコトヲ得」(明治十五年第六九號) (布告ヲ以テ本項追加)

第六條 「地方稅徵收ノ期限ハ府縣知事「縣令」適宜ニ之ヲ定ムヘシ」

第七條 「府縣知事「縣令」ハ一週年度間ノ出納ヲ計査シ精算帳及計表ヲ製シ翌年通常會議ノ初メニ於テ之ヲ府縣會ニ報告シ然ル後「內務卿」及「大藏卿」ニ報告スヘシ」(明治十四年第五號) (號布告ヲ以テ改正)

第八條 (明治十四年第五號) (布告ヲ以テ削除)

第九條 「島嶼ノ地方稅ニ係ル經費ハ府縣會ノ決議ヲ經テ府縣知事「縣令」ヨリ「內務卿」ニ具狀シ其ノ裁定ヲ得テ本屬府縣ノ經費ト之ヲ分別スルコトヲ得」

第十條 (明治十三年第二十六號布告ヲ以テ追加) (同十四年第八號布告ヲ以テ削除)

◎縣稅ニ對スル金穀物件寄附處分方ノ件 (明治二十二年三月內) (務省訓令第二三六號)

〔地方稅〕ニ對シ金穀物件ヲ寄附シタルモノ其ノ寄附者指定ノ事業又ハ費途ノ廢絶シタル場合ニ於テ其ノ金穀物件ハ自今左ノ各項ニ據リ處分スヘシ

第一 一旦使用ノ後寄附者指定ノ事業又ハ費途ノ廢絶シタル場合ニ於テハ府縣會ノ議決ニ依リ其ノ事業又ハ費途ニ最モ近似ノ事業ニ充用シ若ハ寄附者ニ還付スルコトヲ得

同上ノ金穀物件ニシテ未ダ使用スルニ至ラスシテ寄附者指定ノ事業ハ費途ノ廢絶シタル場合ニ於テハ之ヲ寄附者ニ還付スヘシ

第二 元金又ハ現物ヲ委託シ其ノ收得ヲ寄附シタルモノ若ハ元金又ハ原物ヲ据置トナシ其ノ收得ヲ使用スルノ方法

ヲ以テ元金又ハ原物ヲ寄附シタルモノニ其ノ事業又ハ費途ノ廢絶シタル場合ニ於テハ其ノ元金又ハ原物ハ之ヲ寄附者ニ還付シ其ノ現存ノ收得又ハ之ヲ以テ支辨シタル物件ハ前項ニ依リ處分ス

第三 寄附ノ金穀物件ニシテ其ノ處分方ニ付特別ノ約束ヲ附セルモノハ各其ノ約束ニ依ル

第四 〔區〕町村費ノ支辨ニ係ル事業ニ對スル寄附ノ金穀物件ノ處分モ本訓令ニ準ス  
右訓令ス

◎縣費事業ニ對スル寄附金ニ關スル件 (明治二十二年五月內) (務省訓令第四四八號)

從來〔地方稅〕事業ニシテ寄附金ヲ目途トシテ計畫シ既ニ事業ニ著手シタル後其ノ金圓ノ完納ニ至サルヨリ忽チ蹉躓ヲ來タシ中途ニシテ其ノ措置ニ苦ムモノ往々之レアリ右ハ當初確實ナラサル收入ヲ目途トスルニ起因スル次第ニ付自今完納スヘキ確實ノ見込ナキ寄附金ヲ目途トシテ容易ニ之レヲ豫算議案ニ編入スルコトナキ様注意セラレ尙又寄附金ヲ目途トシテ事業ヲ起サント欲スルトキハ其ノ金圓ノ纏マラサル場合ニ於テ〔地方稅〕ヲ以テ之レヲ填補シ若ハ其ノ事業ヲ短縮スル等ノ目的ヲ定メ豫メ議會ヲシテ其ノ旨ヲ議決セシメラルヘシ  
右訓令ス

土木費負擔所屬區分方ノ件 (明治十一年七月二十) (二日太政官無號達)

今度第十七號、第十八號、第十九號ヲ以テ〔郡區〕町村編制府縣會規則地方稅規則布告候ニ就テハ施行ノ順序左ノ通り相心得ヘシ此旨相達候事

港灣、河川法ヲ施行若ハ準用セサル河川



(一)ヨリ十一迄略ス)

十二 「地方税」ヲ以テ支辨スベキ事件ト町村又ハ區限リノ協議費ヲ以テ支辨スヘキ事件トノ區分ハ凡ソ地方一般ノ利害ニ關スヘキモノハ「地方税」支辨ノ部ニ屬シ其町村限リ區限リ又ハ數町村共同ノ利害ニ係ルモノハ其町村又ハ區内限リ協議費ノ支辨ニ屬スヘシ

◎土木費舊慣施行ノ件 (明治十二年二月十日 太政官無號達)

河港道路堤防橋梁費ノ義ハ明治十七年七月第十九號布告ヲ以テ相定メ右施行順序ノ儀ハ同年十月二十二日號外達第十二項ノ通相達置候得共自然各地方ノ慣行ニヨリ右ニ準據シ難キ分ハ府縣會ノ決議ヲ以テ暫ク舊慣ニ因リ施行シ不苦候條此旨爲心得相達候事

◎土木費官費廢止ノ件 (明治十三年十一月五日 太政官布告第四八號)

今般歲計ヲ節約シ紙幣銷却ノ元資ヲ増加シ併セテ地方ノ政務ヲ改良スルノ要用ナルヲ察シ左ノ通制定布告候事

第一條 略ス

第二條 略ス

第三條 「地方税」ヲ以テ支辨スヘキ府縣土木 (即チ河港、道路、堤防、橋梁建築修繕) 費中官費下渡金ハ來ル十四年度ヨリ廢止ス

◎地盤ノ官有ニ屬スル堤塘道路竝木敷處分方ノ件 (明治二十四年五月二十二日 內務省訓令第四六二號)

地盤ノ官有ニ屬スル堤塘道路竝木敷ノ使用ハ自今其ノ費用ヲ負擔スル府縣及市町村ニ於テ處分スヘシ但市町村ノ處分ニ係ルモノハ府縣廳ノ認可ヲ請ハシムヘシ  
前項堤塘道路竝木敷使用料及堤塘道路用惡水路土居敷等ニ屬スル竹木其ノ他ノ收益ハ其ノ費用ヲ負擔スル府縣及市町村ノ收入ニ屬スヘシ  
費用ノ主擔定ラサルカ又年々負擔ヲ異ニスル堤塘道路竝木敷用惡水路土居敷等ニ關スル事項ハ府縣廳ニ於テ處分シ其ノ收益ニ屬スルモノハ府縣廳ニ於テ之ヲ徵收シ費用ヲ負擔スル府縣及市町村ニ配付スヘシ  
地盤ノ市町村有ニ屬スル堤塘ノ使用及堤塘ヨリ生スル收益等ハ市町村ノ管理ニ歸セシムヘシ

◎地方税又ハ區町村費ノ支辨ニ係ル

堤塘使用料等取扱方ノ件 (明治二十一年七月十七日 內務省訓令第一七號)

「地方税」又ハ「區」町村費ノ支辨ニ係ル堤塘使用料及道路竝木敷貸渡料其ノ他同上ノ竝木及堤塘道路用惡水路土居敷等ニ屬スル竹木拂代金ハ左項ニ準シテ取扱フヘシ  
但本文ニ抵觸セシ從前ノ指令訓令ハ取消ス  
一 修繕費ノ全部ヲ「地方税」ヨリ支辨スル箇所ノ收入ハ「地方税」ヘ其ノ「區」町村費ヨリ支辨スル箇所ノ收入ハ「區」町村費ヘ毎年度ニ於テ編入セシムヘシ

港灣、河川法ヲ施行若ハ準用セサル河川



- 一 修繕ハ〔區〕町村費ノ主擔ニシテ〔地方稅〕ノ補助ニ係ル箇所ノ收入ハ〔區〕町村費ヘ編入セシムヘシ
- 一 〔地方稅〕ト〔區〕町村費ト修繕ノ主擔ヲ定メスシテ分擔支辨ニ係ル箇所ノ收入ハ其ノ支出金額ノ歩合ニ隨ヒ編入セシムヘシ
- 一 〔地方稅〕ト〔區〕町村費ト年々修繕負擔ヲ異ニスル箇所ノ收入ハ該年度負擔ノ方ニ編入セシムヘシ
- 一 〔區〕町村費ノ支辨ニ係ル堤塘道路用惡水路土居敷修繕費及並木植繼及保護費ハ〔區〕町村費中土木費ヨリ支出セシムヘシ
- 一 前各項ノ收入金ニシテ府縣廳ヘ積置タル分ハ前各項ニ準據シ本年度中悉皆交付スヘシ

◎港灣工事ニ因リ生スル不用土地工作物處分ノ件（大正九年四月一日）  
勅令第八二二號

第一條 國ニ於テ施行スル内國貿易設備ニ關スル港灣工事ニ因リ生スル土地又ハ工作物ハ公用又ハ公共ノ用ニ供スル爲國有トシテ存置スルノ必要アルモノヲ除クノ外内務大臣ハ其工事ノ費用ノ一部ヲ負擔シタル公共團體ニ無償ニテ之ヲ下付スルコトヲ得

第二條 前條ノ土地又ハ工作物ニシテ公共ノ用ニ供スル爲國有トシテ存置スルモノハ内務大臣前條ノ公共團體ニ無償ニテ之ヲ貸付シ使用料ヲ徵收セシメ其ノ收入ニ歸セシムコトヲ得

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎土木工事起業者保證金納付ノ件（明治二十四年三月二十八日）  
勅令第一一六號

土木工事ヲ特許スルニ方リ當該官廳ハ其ノ起業者ヲシテ保證金ヲ納付セシムルコトヲ得  
但有價證券ヲ以テ代用セシムルモ妨ナシ

◎公共團體ノ管理スル公共用土地物件ノ使用ニ關スル件（大正三年四月四日）  
法律第三七號

第一條 公共團體ニ於テ管理スル道路、公園、堤防、溝渠其ノ他公共ノ用ニ供スル土地物件ヲ濫ニ使用シ又ハ許可ノ條件ニ反シテ使用スル者ニ對シ管理者タル行政廳ハ地上物件ノ撤去其ノ他原狀回復ノ爲必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

第二條 前條ノ場合ニ於テハ行政執行法第五條及第六條ノ規定ヲ準用ス

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ執行ス

◎河川法ノ規定ニ依ラサル河川、水流、水面

ノ用途廢止ニ關スル件（大正十一年六月二十一日）  
內務省訓令第一一號

公共用財産中河川法ノ規定ニ依ラサル河川、水流、水面ニシテ河川法ニ依ル河川ニ關スル工事ノ爲不用ニ歸スルモノノ用途廢止ニ付テハ部局長タル北海道廳長官及府縣知事ハ稅務監督局長ニ通知ヲ發スル前其ノ用途廢止ノ事由ヲ記シタル書類ニ圖面ヲ添附シ豫メ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

港灣、河川法ヲ施行若ハ準用セサル河川



# 運河法

(大正二年四月)改(大正四年一月)  
(法律第一六號)正(法律第三號)

第一條 一 運送ノ用ニ供スル目的ヲ以テ運河ヲ開設セムトスル者ハ内務大臣ノ免許ヲ受クヘシ

◎運河開設免許申請方ノ件 (大正二年十二月一日)  
(内務省訓令第七三二號)

運河法ニ依リ運河開設免許ノ申請アリタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ意見書及命令書案ヲ添ヘ進達スヘシ

- 一 關係山區町村ノ意見
- 二 起業ハ成功ノ見込アルヤ否
- 三 申請者ノ信用及資産ノ状態
- 四 運河開設ノ爲治水及交通上其ノ他關係地方ニ及ホスヘキ影響
- 五 其ノ他必要ト認ムル事項

第二條 免許ヲ受ケタル者ハ内務大臣ノ指定シタル期限内ニ工事設計ノ認可ヲ地方長官ニ申請スヘシ

第三條 國、公共團體又ハ行政廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ於テ運河ニ接續若ハ接近シ又ハ之ヲ横斷シテ河川、溝渠、道路、橋梁、鐵道、軌道其ノ他公共ノ用ニ供スルモノヲ造設スルモ免許ヲ受ケタル者ハ運河ノ效用ニ妨ケナキ限り之ヲ拒ムコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ内務大臣又ハ地方長官ハ公益上必要ト認ムルトキハ免許ヲ受ケタル者ニ命シ接續、横斷ノ場所ニ於ケル設備ヲ共用ニ供セシメ又ハ之ヲ變更セシムルコトヲ得

第四條 前條第一項ノ場合ニ於テ運河ノ效用ニ妨アリヤ否ニ付爭アルトキ又ハ同條第二項ノ場合ニ於テ設備ノ共用若ハ變更ニ要スル費用ノ負擔ニ付協議調ハサルトキハ地方長官之ヲ決定ス其ノ決定ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五條 工事カ其ノ設計又ハ免許、許可若ハ認可ノ條件ニ違反スルトキハ地方長官ハ其ノ改築、除却又ハ停止ヲ命スルコトヲ得

第六條 工事ノ全部又ハ一部竣功シ運送ヲ開始セムトスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 免許ヲ受ケタル者ハ通航料其ノ他運河使用ニ關スル規程ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

地方長官ニ於テ公益上必要ト認ムルトキハ前項ノ規程ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第八條 内務大臣又ハ地方長官ハ免許ヲ受ケタル者ヨリ事業ノ報告ヲ徵シ又ハ其ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第九條 内務大臣又ハ地方長官ハ免許ヲ受ケタル者ニ對シ運河及附屬物件ノ維持修繕ヲ命シ其ノ他公益上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十條 運河及附屬物件ハ免許ノ效力存續スル間及其ノ效力消滅後一年間ハ内務大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ讓渡シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ス

第十一條 株式會社又ハ株式合資會社カ事業經營者タル場合ニ於テハ株式ノ第一回拂込金額ハ株金ノ十



分一迄下ルコトヲ得

**第十二條** 左ニ掲クルモノヲ以テ運河用地トス

- 一 水路用地及運河ニ屬スル道路、橋梁、堤防、護岸、物揚場、繫船場ノ築設ニ要スル土地
  - 二 運河用通信、信號ニ要スル土地
  - 三 上屋、倉庫等ノ建設ニ要スル土地
  - 四 運河ニ要スル船舶、器具、機械ヲ修理製作スル工場ノ建設ニ要スル土地
  - 五 職務上常住ヲ要スル運河従事員ノ舍宅及従事員ノ駐在所等ノ建設ニ要スル土地
- 前項第三號乃至第五號ニ掲クル土地ハ運河ニ沿ヒタルモノニ限ル

**第十三條** 明治四十二年法律第二十八號ハ運河ノ抵當ニ之ヲ準用ス

**第十四條** 運河財團ハ左ニ掲クルモノニシテ運河財團ノ所有者ニ屬スルモノヲ以テ之ヲ組成ス

- 一 水路其ノ他ノ運河用地及其ノ上ニ存スル工作物竝之ニ屬スル器具、機械
- 二 工場、上屋、倉庫、事務所、舍宅及其敷地竝之ニ屬スル器具、機械
- 三 運河用通信、信號ニ要スル工作物及其ノ敷地竝之ニ屬スル器具、機械
- 四 前三號ニ掲クル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動産ノ上ニ存スル地上權、登記シタル賃借權及前三號ニ掲クル土地ノ爲ニ存スル地役權
- 五 運河ニ要スル船舶竝之ニ屬スル器具、機械
- 六 運河ノ維持修繕ニ要スル材料及器具、機械

**第十五條**

國又ハ公共團體ハ免許ノ效力消滅シタル後運河開設ニ要シタル費用ヲ支拂ヒ其ノ運河及附屬物件ヲ買收スルコトヲ得但シ運河及附屬物件ニシテ開設當時ニ比シ價格ヲ減損シタルモノアルトキハ開設ニ要シタル費用ヨリ之ヲ控除ス

前項費用ノ範圍及金額ニ付協議調ハサルトキハ地方長官之ヲ決定ス其ノ決定ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

**第十六條**

國又ハ公共團體ニ於テ必要ト認ムルトキハ免許年限ノ滿了前ト雖運河及附屬物件ヲ買收スルコトヲ得  
前項ノ買收價格ニ付協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ地方長官之ヲ決定ス其ノ決定ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

**第十七條**

左ニ掲クル場合ニ於テハ免許ヲ取消スコトヲ得  
一 法令又ハ法令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ  
二 免許、許可若ハ認可ノ條件ニ違反シタルトキ

**第十八條**

工事竣功前免許ノ效力消滅シタル場合ニ於テハ地方長官ハ免許ヲ受ケタル者ニ對シ原狀ノ回復其ノ他必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

**第十九條**

前二條ノ場合ニ於テ同一路線ニ當リ運河ノ開設ヲ免許セラレタル者ハ運河及附屬物件ヲ買收スルコトヲ得  
前項ノ買收價格ニ付協議調ハサルトキハ第十六條第二項ノ規定ニ依ル



本條ノ規定ハ運河財團ニ屬スルモノニハ之ヲ適用セス

附 則

第二十條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

◎運河法施行期日ノ件 (大正二年十一月二十  
五日勅令第三〇五號)

運河法ハ大正二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十一條 本法施行前免許ヲ受ケタル運河ニ關シ本法ヲ適用スヘキ範圍ハ内務大臣之ヲ定ム

第二十二條 本法ノ適用ヲ受クル運河ノ用地ニシテ免許條件ニ依リ官有ニ歸屬シタルモノハ之ヲ運河經  
營者ニ下付スルコトヲ得

◎運河法施行規則

(大正二年十一月二十八)改(大正七年四月  
日內務省令第一七號)正(內務省令第七號)

第一條 運河開設免許ノ申請書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添附スヘシ

- 一 起業目論見書
- 二 運河豫測圖
- 三 開設費概算書
- 四 事業上ノ收支概算書
- 五 組合事業ニ在リテハ其ノ組合契約書ノ謄本

六 會社發起人ニ在リテハ定款ノ謄本

七 會社ニ在リテハ其ノ會社ノ登記及定款ノ謄本並運河事業經營ニ關スル株主總會ノ決議錄若ハ總社員  
ノ同意書ノ謄本

八 公共團體ニ在リテハ其ノ團體ノ運河事業經營ニ關スル決議書ノ謄本

第二條 起業目論見書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 起業ノ目的及理由
- 二 運河ノ名稱及主タル事務所設置地
- 三 事業資金ノ總額及財源
- 四 運河ノ起點、終點及經過地名
- 五 運河ノ延長、底幅及水深(里町間尺ヲ以テ示スヘシ)
- 六 運河ヲ通航スヘキ最大舟筏ノ長幅及吃水並航行ノ方法
- 七 工事施行期間
- 八 事業經營期間

第三條 運河豫測圖ハ左ノ三種トス

- 一 平面圖
- 縮尺ハ二萬分一以上トシ運河ノ中心線、閘門、水門、隧道、物揚場、乘降場、繫船場、船溜、待避場等  
ノ位置並附近ノ鐵道、軌道、重要ナル道路、水流、水面等ノ位置及名稱ヲ記載シ運河中心線ノ距離ハ六



町毎ニ記入スヘシ

二 縦断面圖

縮尺ハ距離ヲ二萬分一以上、高ヲ二百分一以上トシ地盤及運河底敷ノ高位、諸水位、(成ルヘク陸地測量部水準基準線ニ據ルヘシ)並平面圖ニ示シタル各種工作物ノ位置ヲ記載シ距離ハ六町毎ニ記入スヘシ

三 横断面規圖

縮尺ハ二百分一以上トシ縦横ノ各寸法ヲ記入スヘシ

運河豫測圖ニハ運河經過地ノ地勢、水路選定ノ理由並運河ト附近ノ鐵道、軌道、重要ナル道路、水流、水面、社寺、公園、名稱、舊蹟等トノ關係ヲ説明シタル書類ヲ添附スヘシ

第四條 開設費概算書ニハ其ノ總額ヲ測量費、監督費、用地費、土工費、閘門費、水門費、隧道費、橋梁費、通信信號設備費、建物費、船舶費、器具機械費、總係費等ノ各項ニ分チ數量及金額ヲ記載スヘシ

第五條 事業上ノ收支概算書ニハ收入及支出ノ總額、内譯並其ノ計算ノ基ク所ヲ示シ且事業資金ニ對スル純益ノ割合ヲ記載スヘシ

第六條 工事設計認可ノ申請書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添附スヘシ

一 運河實測圖

二 構造圖

三 工事説明書

四 土坪計算書

五 開設費豫算書

第七條 運河實測圖ハ左ノ三種トス

一 平面圖

縮尺ハ三十分一以上トシ運河ノ中心線、曲線ノ半徑及交角、運河用地ノ境界、水門、隧道、道路、曳船道、堤防、物揚場、繫船場、船溜、待避場、上屋、倉庫、工場、舍宅、駐在所、通信所、信號所等及之ニ要スル土地ノ區劃、用地以外左右各百間以内ノ地勢、附近ノ市街、村落、鐵道、軌道、道路、水流、水面、社寺、公園、名勝、舊蹟等及其ノ名稱、運河開設ニ伴ヒ鐵道、軌道、道路、水流、水面等ヲ變換スル爲施設スヘキ工作物、府、縣、郡、市、區、町、村ノ境界及方位ヲ記載シ運河中心線ノ距離ハ一町毎ニ記入スヘシ

二 縦断面圖

縮尺ハ距離ヲ平面圖ト同一ニシ高ヲ二百分一以上トシ地盤、運河底敷及兩岸堤防ノ高位、諸水位(成ルヘク陸地測量部水準基準線ニ據ルヘシ)並平面圖ニ示シタル各種工作物ノ位置ヲ記載シ距離ハ一町毎ニ記入スヘシ

三 横断面圖

縮尺ハ二百分一以上トシ一町毎ニ調製スヘシ但シ水路幅員ノ異ナル箇所ニ付テハ其ノ断面ヲ示スヘシ

第八條 構造圖ハ左ノ二種トス

一 護岸、閘門、水門、隧道、曳船道、堤防、物揚場、乘降場、繫船場、船溜、待避場、通信所、信號所等ノ構造圖



二 運河開設ニ伴ヒ鐵道、軌道、道路、水流、水面等ヲ變換スル爲施設スヘキ橋梁、伏越其ノ他ノ工作物ノ構造圖

前項第二號ノ構造圖ニハ運河ト新舊工作物トノ關係ヲ明ニシタル平面圖及斷面圖ヲ添附スヘシ

第九條 工事説明書ニハ水路測定ノ理由、運河實測圖及構造圖ニ示シタル各工事設計ノ要領、工事施行ノ

順序、作業方法、掘鑿及浚渫土砂處分方法等ヲ記載スヘシ

第十條 土坪計算書ニハ一町毎(地盤ノ起伏甚シキカ又ハ幅員ニ廣狹アルトキハ仍其箇所毎)ニ横斷面ヲ取り其ノ番號、距離、平積、立積

ヲ記載シ土質ヲ區別シテ切取、盛土ノ數量ヲ示スヘシ

第十一條 開設費豫算書ニハ第四條記載ノ各項ヲ目ニ分チ各其ノ數量、金額及内譯ヲ示スヘシ

開門、水門、隧道等構造ノ複雑ナル工作物ニ付テハ設計書ヲ添附スヘシ

第十二條 免許ヲ受ケタル者會社發起人ナルトキハ會社成立後ニ非サレハ工事設計ノ認可ヲ申請スルコ

トヲ得ス

第十三條 指定ノ期限内ニ工事設計ノ認可ヲ申請スルコト能ハサルトキハ正當ノ事由アル場合ニ限り期

限ノ伸長ヲ許可スルコトアルヘシ

第十四條 免許ヲ受ケタル者ハ工事設計ノ認可ヲ得タル日ヨリ六箇月内ニ工事ニ著手シ指定ノ期限内ニ

之ヲ竣功スヘシ但シ正當ノ事由ニ依リ期限内ニ著手又ハ竣功スルコト能ハサルトキハ期限ノ伸長ヲ許可

スルコトアルヘシ

第十五條 工事ニ著手シ又ハ竣功シタルトキハ遲滞ナク地方長官ニ届出ツヘシ

工事竣功届出後一箇月内ニ開設費精算書ヲ地方長官ニ提出スヘシ

第十六條 免許ヲ受ケタル者ハ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ全部又ハ一部ノ通航ヲ停止スルコト

ヲ得ス

第十七條 免許ヲ受ケタル者ハ每事業年度後一箇月内ニ事業報告書ヲ地方長官ニ提出スヘシ

第十八條 運河法第四條、第十五條第二項、第十六條第二項又ハ第十九條第二項ニ依ル決定ノ申請書ハ

正副二通ヲ作成シ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 當事者ノ表示

二 申請ノ目的及理由

三 協議ノ顛末

第十九條 前條ノ申請書ヲ受理シタル地方長官ハ其ノ副本ヲ相手方ニ送付シ一定ノ期限内ニ答辯書ヲ提

出セシムヘシ

指定ノ期限内ニ答辯書ヲ提出セサルトキハ地方長官ハ申請書ノミニ依リテ決定ヲ爲スコトヲ得副本ノ交

付ヲ爲スコト能ハサルトキ亦同シ

第二十條 決定ハ理由ヲ附シタル文書ヲ以テ之ヲ爲シ當事者雙方ニ送付スヘシ

第二十一條 左ノ場合ニ於テハ遲滞ナク内務大臣ニ届出ツヘシ

一 免許申請者又ハ免許ヲ受ケタル者其ノ氏名若ハ住所ヲ變更シ又ハ死亡シタルトキ

二 會社成立シ又ハ解散シタルトキ



- 三 定款又ハ組合契約ヲ變更シタルトキ
- 四 本則第二條第二號及第三號ニ記載シタル事項ヲ變更シタルトキ
- 五 事業ヲ廢止シタルトキ
- 第二十二條 本則ニ依リ内務大臣ニ提出スル書類ハ總テ副本ヲ作成シ運河開設地ノ地方長官ヲ經由スヘシ

附 則

- 第二十三條 本則ハ運河法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正二年十二月一日ヨリ施行)
- 第二十四條 運河法施行前免許ヲ受ケタル運河ニシテ免許ノ條件ニ因リ免許年限滿了後官有ニ歸スヘキモノニ付テハ運河法第十五條以外ノ規定ヲ、其ノ他ノモノニ付テハ運河法ノ規定全部ヲ適用ス
- 第二十五條 運河法ニ依リ許可若ハ認可ヲ受クヘキ事項ニシテ其ノ施行ノ際既ニ許可若ハ認可ヲ受ケタルモノハ運河法ニ依リ許可若ハ認可ヲ受ケタルモノト看做ス
- 第二十六條 運河法第二十二條ニ依リ運河用地ノ下付ヲ受ケムトスル者ハ内務大臣ニ申請スヘシ

砂 防 法

(明治三十年三月三十日)改(大正十三年七月十七日)  
法律 第二十九號(正)法律 第三三號

第一章 總 則

- 第一條 此ノ法律ニ於テ砂防設備ト稱スルハ主務大臣ノ指定シタル土地ニ於テ治水上砂防ノ爲施設スルモノヲ謂ヒ砂防工事ト稱スルハ砂防設備ノ爲ニ施行スル作業ヲ謂フ
- 第二條 砂防設備ヲ要スル土地又ハ此ノ法律ニ依リ治水上砂防ノ爲一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限スヘキ土地ハ主務大臣之ヲ指定ス

◎砂防法第二條ニ依リ土地指定方稟伺ノ件 (明治三十二年二月十六日) (内務省訓令第一四五號)

- 第一條 明治三十年法律第二十九號砂防法第二條ニ依リ砂防設備ヲ要スル土地又ハ治水上砂防ノ爲一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限スヘキ土地ノ指定ヲ必要ト認ムルトキハ府縣知事ハ別表書式ニ依レル土地調査並圖面ヲ添ヘ上申スヘシ
- 第二條 (土木監督署廢止ニ由リ消滅)
- 第三條 (同上)
- (別表略ス)
- 第三條 此ノ法律ニ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ主務大臣ノ指定シタル土地ノ範圍外ニ於テ治水上砂防ノ爲施設スルモノニ準用スルコトヲ得

第二章 土地ノ制限及砂防設備

- 第四條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ於テハ地方行政廳ハ治水上砂防ノ爲一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限スルコトヲ得



前項ノ禁止若ハ制限ニシテ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲必要ナルカ又ハ其ノ利害關係一府縣ニ止マラサル  
トキハ主務大臣ハ前項ノ職權ヲ施行スルコトヲ得

**第五條** 地方行政廳ハ其ノ管内ニ於テ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ヲ監視シ及其ノ管内ニ於ケ  
ル砂防設備ヲ管理シ其ノ工事ヲ施行シ其ノ維持ヲナスノ義務アルモノトス

**第六條** 砂防設備ニシテ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲必要ナルトキ、其ノ利害關係一府縣ニ止マラサルトキ、  
其ノ工事困難ナルトキ又ハ其ノ工費至大ナルトキハ主務大臣ハ之ヲ管理シ、其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ  
維持ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ其ノ砂防設備ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ其ノ工  
事ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲ爲サシムルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ此ノ法律ニ依リ地方行政廳ノ有スル職權ヲ直接施行スルコトヲ得

**第七條** 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級行政廳ヲシテ砂防工事ヲ施行セシメ又ハ砂防設備ノ維持ヲ爲サシム  
ルコトヲ得

**第八條** 他ノ工事、作業其ノ他ノ行爲ニ因リ砂防工事ヲ施行スルノ必要ヲ生スルトキハ地方行政廳ハ其ノ  
行爲ヲ爲シタル者ヲシテ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ砂防設備ノ維持ヲ爲サシムルコトヲ得

**第九條** 行政廳ハ砂防工事ノ請負ヲナスコトヲ得ス

**第十條** 砂防工事ノ請負ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

**第十一條** 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ地租其ノ他ノ公課

ヲ減免スルコトヲ得

◎砂防法第十一條ノ地租其ノ他ノ公課減免ニ關スル件

(明治三十二年八月十六日  
勅令第三七四號)

**第一條** 砂防法ニ依リ一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限シタル土地ニ對シテハ其ノ所有者又ハ納稅義務者ノ申請ニ依リ地租  
ヲ免除又ハ輕減スルコトヲ得

**第二條** 前條ニ依リ地租ヲ免除シタル土地ニ對シテハ地租以外ノ公課ヲ免除シ其ノ地租ヲ輕減シタル土地ニ對シテハ  
同一ノ割合ヲ以テ地租以外ノ公課ヲ輕減ス

**第三條** 本令ニ依ル地租其ノ他ノ公課ノ免除又ハ輕減ハ免除又ハ輕減ノ申請ノ日以後ニ開始スヘキ納期分ヨリ免除ニ  
付テハ一定ノ行爲ノ禁止又ハ制限ノ解除ニ因リ地價ヲ設定シタル日、輕減ニ付テハ一定ノ行爲ノ禁止又ハ制限ノ解  
除ノ日以前ニ開始シタル納期分迄トス

**第四條** 本令ニ依リ地租ノ免除又ハ輕減ヲ受ケントスル者ハ稅務管理局長ニ申請スヘシ

◎地租ノ免除又ハ輕減許可ニ關スル手續ノ件 (明治三十二年九月四日  
大藏省訓令第六二號)

明治三十二年勅令第三百七十四號第四條ニ依リ地租ノ免除又ハ輕減ヲ申請シタル者アルトキハ地方廳ト協議シ禁止又  
ハ制限セラレタル行爲ノ程度ニ依リ地租ノ免除又ハ輕減ヲ決定シ輕減スヘキモノハ其ノ割合ヲ定メ之ヲ許可ノ手續ヲ  
爲スヘシ

◎地租ノ免除又ハ輕減協議ノ件 (明治三十二年九月十三日  
內務省訓令第八四五號)

砂防法



明治三十二年勅令第三百七十四號ニ依レル地租ノ免除又ハ輕減ニ關シ稅務管理局長ヨリ協議アリタルトキハ其協議ニ應シ處分上ノ便宜ヲ與フヘシ

第三章 砂防ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並收入等

第十二條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ノ監視及砂防設備ノ管理、維持並砂防工事ニ要スル費用ハ府縣ノ負擔トス

第十三條 砂防工事ニ要スル費用ハ其ノ一部ヲ國庫ヨリ府縣ニ補助スルコトヲ得

前項國庫ノ補助額ハ工費豫算ノ三分ノ二ヲ超過スルコトヲ得ス

本條ノ補助金ハ精算ノ上其ノ費用ノ三分ノ二ヲ超過スルコトアルモ其ノ超過額ヲ還付セシメサルコトヲ得

災害ニ因リ必要ヲ生シタル砂防工事ニ要スル費用ハ本條ニ依ルノ限ニ在ラス

◎砂防法第十三條ニ依リ工事費補助稟申ノ件 (明治三十二年二月十六日) (内務省訓令第一四六號)

第一條 明治三十年法律第二十九號砂防法第十三條ニ依リ砂防工事ニ要スル費用ニ對シ國庫ノ補助ヲ受ケントスルトキハ府縣知事ハ前年(補助ヲ受ケヘキ年度ヨリ起算ス以下做之)二月末日迄ニ工事計畫書、工費豫算書及圖面ヲ添ヘ稟請スヘシ

第二條 (土木監督署廢止ニ依リ消滅)

第三條 府縣知事ニ於テ國庫補助内定額ノ通知ヲ受ケタルトキハ府縣會ノ議決ヲ經テ其ノ議決書ヲ添ヘ前年十二月末日マテニ補助金ノ下附ヲ稟請スヘシ但當初ノ工事計畫、工費豫算又ハ工事施行箇所ニ變更ヲ來シタルトキハ更ニ其ノ圖書ヲ添付スヘシ

第四條 (土木監督署廢止ニ依リ消滅)

第五條 (同上)

◎國庫補助砂防工事竣功認可ノ件 (明治三十三年七月三日) (内務省訓令第二三號)

明治三十年法律第二十九號砂防法第十三條ニ依リ國庫ノ補助ヲ受ケテ施行スル砂防工事ハ竣功ノ都度竣功調書ヲ製シ本大臣ニ稟伺シ工事竣功ノ認可ヲ受ケヘシ

第十四條 第六條ニ依リ主務大臣ニ於テ砂防設備ノ管理及維持ヲ爲シ又ハ砂防工事ヲ施行スル場合ニ於テハ其ノ費用ハ國庫ノ負擔トス

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ府縣ヲシテ前項費用ノ三分ノ一以内ヲ負擔セシムルコトヲ得

前項ニ依リ府縣ノ負擔スヘキ金額並其ノ年度割及納付期限等ハ主務大臣之ヲ定ム

第十五條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ヲシテ砂防ニ關スル費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第十六條 砂防工事ニシテ他ノ工事、作業其ノ他ノ行爲ニ因リ必要ヲ生スルモノナルトキハ其ノ費用ハ工事ノ必要ヲ生スル程度ニ於テ其ノ原因タル工事、作業其ノ他ノ行爲ニ關シ費用ヲ負擔スル者ヲシテ之



ヲ負擔セシムルコトヲ得但シ河川法第三十二條第二項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

**第十七條** 砂防工事ニシテ他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體ニ於テ著シク利益ヲ受クルモノナルトキハ其ノ府縣若ハ其ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

**第十八條** 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ命シタル事項ヲ遵守スル爲ニ要スル費用ハ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外其ノ命ヲ受ケタル者ノ負擔トス

主務大臣若ハ地方行政廳ニ於テ義務者ノ履行スヘキ義務ヲ自ラ執行シ又ハ第三者ヲシテ執行セシメタルカ爲ニ要シタル費用ハ其ノ義務者ヨリ之ヲ追徴スルコトヲ得

**第十九條** 公共團體ハ砂防工事若ハ砂防ニ關スル費用ノ爲寄付ヲナスコトヲ得

**第二十條** 公共團體ハ砂防ニ關スル費用ニ付私人若ハ其ノ區域内ノ下級公共團體ニ補助ヲナスコトヲ得

**第二十一條** 公共團體ハ砂防ニ關スル費用ニ付キ利害關係ノ厚薄ヲ標準トシテ其ノ區域内ニ於テ不均一ノ賦課ヲナスコトヲ得

**第二十二條** 砂防工事ノ爲必要ナルトキハ地方行政廳ハ管内ノ土地若ハ森林ノ所有者ニ命シ補償金トシテ時價相當ノ金額ヲ下付シテ其ノ所有ニ係ル土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ヲ供給セシムルコトヲ得但シ時價ニ關シテ協議整ハサルトキ又ハ所有者不明ナルトキ若ハ其ノ所在不明ナルトキハ地方行政廳ハ相當ト認ムル金額ヲ供託シテ本條ノ供給ヲナサシムルコトヲ得

**第二十三條** 砂防ノ爲必要ナルトキハ行政廳ハ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地又ハ之ニ隣接スル土地ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ已ムヲ得サルトキハ其ノ土地ニ現在スル障害物ヲ

除却スルコトヲ得

前項ノ適用ニ依リ損害ヲ受ケタル者ハ使用若ハ除却ノ後三箇月以内ニ補償金ヲ請求スルコトヲ得

**第二十四條** 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ノ所有者若ハ關係人ハ行政廳若ハ其ノ命ヲ受ケタル私人ニ於テ其ノ土地ニ砂防工事ヲ施行シ又ハ砂防設備ノ維持ヲ爲スコトヲ拒ムコトヲ得ス

**第二十五條** 法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタル工事、設備若ハ工作物ノ管理ニ因リ損害ヲ受ケシメタル者ハ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

**第二十六條** 此ノ法律ニ依リ行政廳ニ於テ下付スヘキ補償金若ハ賠償金ハ其ノ行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體ノ負擔トス

**第二十七條** 砂防設備ヨリ生スル收入ハ府縣ニ歸ス但シ地方行政廳ハ其ノ收入ヲ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地若ハ其ノ土地ニ在ル森林ノ所有者又ハ其ノ砂防設備ノ施設者ニ下付スルコトヲ得

**第二十八條** 砂防設備ニシテ其ノ公用ヲ廢シタルトキハ地方行政廳ハ之ヲ其ノ砂防設備ノ現在スル土地若ハ森林ノ所有者ニ下付スルコトヲ得

**第四章 警察、監督及強制手續**

**第二十九條** 第四條ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ニ於テ一定ノ事項ニ對シ許可ヲ受ケシメタル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ其ノ許可ヲ取消シ若ハ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ設備ノ變更若ハ原形ノ回復ヲ命シ又ハ許可セラレタル事項ニ因リ生スル害ヲ豫防スル爲



ニ必要ナル設備ヲ命スルコトヲ得

**第三十條** 法律、命令若ハ許可ノ條件ニ違背シタル者ハ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ違背ニ因リテ生スル事實ヲ更正シ且其ノ違背ニ因リテ生スヘキ損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナスヘシ

**第三十一條** 地方行政廳ハ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地監視ノ爲竝砂防設備管理ノ爲吏員ヲ置クヘシ其ノ定員、給料、手當、職務權限竝其ノ費用ノ負擔者等ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

**第三十二條** 主務大臣ハ砂防ニ關スル行政ヲ監督ス

地方行政廳ヲシテ第一次ニ於テ監督セシムヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

此ノ法律ニ規定シタル事項ニシテ主務大臣若ハ地方行政廳ノ認可ヲ要スルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條及第二十條ニ規定シタル事項竝此ノ法律ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ニ關シテハ命令ヲ以テ制限ヲ設クルコトヲ得

**第三十三條** 他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體若ハ私人ヲシテ費用ヲ負擔セシムル爲ニ必要ナル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

◎砂防法第三十三條ニ依レル命令ノ件 (明治三十二年七月二十) (二日内務省令第三九號)

**第一條** 府縣知事ニ於テ他ノ府縣又ハ他ノ府縣内ノ公共團體若ハ私人ヲシテ砂防ニ關スル費用ヲ負擔セシメントスルトキハ其ノ負擔者カ府縣又ハ公共團體ナル場合ニ於テハ其ノ府縣知事ニ協議ノ上負擔金額及納付期限ヲ定メ私人ナル場合ニ於テハ府縣知事自ラ之ヲ定ムヘシ

**第二條** 前條ニ依リ負擔金額及納付期限定マリタルトキハ府縣知事ニ於テ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

**第三條** 第一條ノ協議調ハサルトキハ府縣知事ニ於テ内務大臣ノ指揮ヲ受クヘシ

**第四條** 府縣知事ハ他ノ府縣又ハ他ノ府縣内ノ公共團體若ハ私人ヲシテ負擔セシムヘキ金額及納付セシムヘキ期限確定シタルトキハ之ヲ其ノ府縣知事ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル府縣知事ハ其府縣内ノ公共團體若ハ私人ヲシテ負擔セシムヘキ金額アル場合ニ於テハ更ニ其ノ金額及納付期限ヲ其ノ公共團體ヲ直接ニ管轄スル行政廳又ハ私人ニ通知スヘシ

**第五條** 他ノ府縣ニ於テ期限内ニ其ノ負擔金額ヲ納付セサルトキハ府縣知事ハ内務大臣ニ其ノ旨ヲ具申スヘシ

他ノ府縣内ノ公共團體又ハ私人ニ於テ其ノ負擔金額ヲ期限内ニ納付セサルトキハ府縣知事ハ其ノ公共團體又ハ私人ヲ管轄スル府縣知事ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル府縣知事ハ砂防法第三十八條ニ依リ直ニ其ノ處分ヲ爲スヘシ

**第六條** 内務大臣ニ於テ自ラ砂防設備ノ管理ヲ爲シ又ハ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲ爲ス場合ニ於テハ他ノ府縣又ハ他ノ府縣内ノ公共團體若ハ私人ヲシテ負擔セシムヘキ金額及納付セシムヘキ期限ハ内務大臣之ヲ定ム

**第三十四條** 主務大臣ハ地方行政廳ニ命シテ砂防工事ヲ施行セシメ其ノ他此ノ法律ニ規定シタル地方行政廳ノ職權ヲ施行セシムルコトヲ得

**第三十五條** 義務者ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ履行セス若ハ之ヲ履行スルモ必要ノ期限内ニ終了スルノ見込ナキトキ又ハ其ノ履行ノ方法宜キヲ得サルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

**第三十六條** 私人ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ怠ルトキハ主務大臣若



ハ地方行政廳ハ一定ノ期限ヲ示シ若シ期限内ニ履行セサルトキ若ハ之ヲ履行スルモ不充分ナルトキハ五百圓以内ニ於テ指定シタル過料ニ處スルコトヲ豫告シテ其ノ履行ヲ命スルコトヲ得

**第三十七條** 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ保證金ヲ納付セシメタル場合ニ於テハ行政廳ニ於テ直ニ之ヲ其納付ノ目的又ハ過料ニ充用スルコトヲ得

前項保證金ハ他ノ債權ノ爲ニ差押フルコトヲ得ス

**第三十八條** 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ負擔スヘキ費用及過料ハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外行政廳ニ於テ國稅ノ滯納處分ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ費用及過料ニ付キ行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有スルモノトス

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ公共團體ニ於テ負擔スヘキ費用ニ關シテハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外主務大臣若ハ地方行政廳ハ必要ナル場合ニ於テハ金額ヲ定メテ之ヲ其ノ豫算表ニ掲ケ其ノ他必要ナル處分ヲ指揮シ直ニ其ノ金額ヲ支出セシムルコトヲ得

**第三十九條** 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ハ行政處分ニ依リ之ヲ強制スルコトヲ得

行政廳ノ許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ關シテモ亦本條及前條ヲ準用ス

**第四十條** 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ砂防視察ノ職務ヲ有スル官吏ヲシテ命令ノ定ムル所ニ從ヒ警察官ノ職權ノ全部若ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

**第四十一條** 此ノ法律ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シテハ命令ヲ以テ二百圓以内ノ罰金若ハ一年以下ノ〔禁錮〕ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第五章 訴願及訴訟

**第四十二條** 此法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令若ハ地方行政廳ノ委任ニ依リ下級行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ地方行政廳ニ訴願シ地方行政廳ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律ニ依リ行政訴訟ノ提起ヲ許シタル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

**第四十三條** 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタリトスル私人若ハ公共團體ハ前條ニ依リ訴願ノ裁決ヲ經タル後行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ主務大臣若ハ地方行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ之ヲ提起スルコトヲ得

**第四十四條** 第二十五條ニ依リ損害賠償ヲ請求スル私人若ハ公共團體ハ損害ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタルヤ否ヤニ付キ爭アルトキハ前數條ノ手續又ハ監督官廳ノ決定ニ依リ其ノ違背シタリトノ事實確定シタル後ニアラサレハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ此ノ場



合ニ於テハ前項ノ期間ハ確定ノ日ヨリ起算スルモノトス

**第四十五條** 第二十二條若ハ第二十三條ニ依リ下付スヘキ補償金額ニ對シテ不服アルトキハ行政廳ニ於テ金額ノ通知ヲナシタル日ヨリ六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ第二十三條ノ場合ニ於テ補償金請求ノ後六箇月以内ニ其ノ金額ノ通知ナキトキハ其ノ期限經過後六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

**第四十六條** 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ本章ノ規程ニ依リ特ニ許シタル場合ヲ除クノ外訴訟若ハ行政訴訟ヲ提起シ又ハ行政廳ニ對シ民事訴訟ヲ提起スル事ヲ得ス

**第六章 附則**

**第四十七條** 此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

**第四十八條** 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ在ル從來ノ砂防ニ關シテハ勅令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設クル場合ヲ除クノ外此ノ法律ノ規程ニ依ル

◎砂防法施行規程(明治三十年十月二十  
六日勅令第三八二號)

**第一條** 內務大臣ニ於テ砂防法第二條ニ依リ指定スル土地ハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

**第二條** 砂防法第三條ニ依リ同法ニ規定シタル事項ヲ準用スヘキ施設物ハ府縣知事ニ於テ其ノ地方ノ公布式ヲ以テ之ヲ告示スヘシ其ノ準用スヘキ事項ハ府縣令ヲ以テ之ヲ定ム但シ同法第十三條及第十四條ニ規

定シタル事項ハ之ヲ準用スルコトヲ得ス

**第三條** 砂防法第四條ニ依リ禁止若ハ制限スヘキ行爲ハ同條第一項ノ場合ニ於テハ府縣令ヲ以テ第二項ノ場合ニ於テハ內務省令ヲ以テ之ヲ定ム

**第四條** 砂防法第六條第一項ニ依リ內務大臣ニ於テ砂防設備ヲ管理シ又ハ其ノ維持ヲナス場合ニ於テハ其ノ砂防設備ヲ、其ノ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ其ノ砂防設備工事ノ施行區域及起工年度ヲ官報ヲ以テ告示スヘシ

前項ノ工事ヲ終了シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

砂防法第六條第二項ニ依リ內務大臣ニ於テ砂防設備ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ其ノ工事ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナサシムル場合ニ於テモ亦前二項ノ例ニ依ル

**第五條** (土木監督署廢止ニ由リ消滅)

**第六條** 砂防法第二十二條ニ依リ府縣知事ニ於テ土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ノ供給ヲナサシムムトスルトキハ少クトモ五日日前ニ其ノ供給セシムヘキ物件ノ種類、數量及補償金額等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ若シ其ノ所有者不明ナルトキ又ハ其ノ所在不明ナルトキハ物件所在地ノ市町村長ニ通知スヘシ

**第七條** 砂防法第二十三條ニ依リ府縣知事、郡長、市參事會、町村長、町村組合長又ハ水利組合ノ管理者ニ於テ內務大臣ノ指定シタル土地又ハ之ニ隣接スル土地ヲ材料置場等ニ供セムトスルトキハ少クトモ五日日前ニ又之ニ現在スル障害物ヲ除却セムトスルトキハ少クトモ十五日日前ニ其メ場所若ハ障害物ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ若シ其ノ所有者不明ナルトキ又ハ其ノ所在不明ナルトキハ其ノ土地ノ市町村長ニ通知



スヘシ

第八條 行政廳ハ其ノ命ヲ受ケタル私人ニ於テ砂防工事ヲ施行セムトスルトキハ少クトモ七日前ニ之ヲ其ノ土地所有者ニ通知スヘシ若シ其ノ所有者不明ナルトキ又ハ其ノ所在不明ナルトキハ其ノ土地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第九條 砂防ニ關スル費用ノ豫算ニシテ砂防法第二條ニ依ル土地ノ指定前ニ確定シタルモノハ其ノ指定ノ爲メ其ノ效力ヲ失ハス

前項豫算ニ依リ執行スヘキ事項ハ從前ノ規程又ハ慣習ニ依リ既ニ定リタル執行者ニ於テ之ヲ行フ

第十條 砂防法ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ許可ヲ受クヘキ事項ハ從來許可ヲ受ケタルモノト雖内務大臣又ハ府縣知事ノ定ムル所ノ期限内ニ於テ更ニ其ノ許可ヲ受クヘシ

◎砂防ニ關スル行政監督ノ件

(明治三十一年二月二日勅令第一五號)

第一條 砂防法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ノ行政廳ニ於テ執行スル砂防ニ關スル行政及府縣知事ノ命シ又ハ許可シタル事項ニ關シテハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

第二條 左ニ掲ケル事項及其ノ變更、停止又ハ廢止ハ内務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス但シ利害關係小ニシテ内務大臣ニ於テ命令ヲ以テ認可ヲ要セスト規定シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

一 砂防法第三條ニ依ル準用

二 砂防法第四條ニ依リ府縣知事ニ於テ禁止若ハ制限スヘキ一定ノ行爲

三 砂防法第七條及第八條ニ依ル府縣知事ノ處分

四 砂防法第十三條ニ依リ國庫ノ補助ヲ受クル砂防工事ノ計畫及其ノ工費豫算

五 砂防法第十五條乃至第十七條ニ依ル費用ノ負擔方法

六 砂防法第二十一條ニ依ル府縣ノ不均一ノ賦課

七 國庫ノ補助ヲ受ケテ施設シタル砂防設備ノ公用廢止

第三條 左ニ掲ケル事項及其ノ變更、停止又ハ廢止ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一 砂防法第二十一條ニ依ル下級公共團體ノ不均一ノ賦課

二 砂防法第二十三條ニ依リ下級行政廳ノ爲スヘキ障害物ノ除却

三 砂防法第三十條ニ依ル下級行政廳ノ處分

第四條 砂防法第十九條ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ニ於テ寄付チナストキハ左ノ條件ヲ具備シ且府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一 砂防ニ關スル事業ニシテ寄付チナサントスル公共團體ノ利害ニ直接ノ關係アルコト

二 寄付チナサントスル公共團體ニ於テ起債ノ方法ニ依ラスシテ寄付チナシ得ヘキコト

第五條 砂防法第二十條ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ニ於テ補助チナストキハ左ノ條件ヲ具備シ且府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一 砂防ニ關スル事業ニシテ永遠ノ利益ヲ目的トシ且其ノ補助ヲ受クヘキモノニ於テ其ノ費用ノ負擔ニ堪ヘサルコト



二 補助チナサントスル公共團體ニ於テ起債ノ方法ニ依ラスシテ補助チナシ得ヘキコト

◎明治三十一年勅令第十五號第二條但書ニ依リ認可ヲ要セサル

モノニ關スル件 (大正八年十月一日) (内務省令第一八號)

第一條 左ニ掲ケル事項ハ内務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要セス

- 一 砂防工事ノ一設計内ニ於ケル變更ニシテ當初計劃ノ目的ヲ達シ得ヘキモノ竝之ニ伴フ工費豫算ノ變更
- 二 砂防法第七條ニ依ル砂防設備ノ維持又ハ輕易ナル修繕工事ニ關スル處分
- 三 砂防法第十五條ニ依ル費用ノ負擔方法ニシテ砂防設備ノ維持又ハ輕易ナル修繕工事ニ係ルモノ

附 則

明治三十二年四月内務省令第十一號ハ之ヲ廢止ス

荒廢地復舊費補助規則

(明治四十四年四月四日)改(大正三年六月四日農) (農商務省令第一六號) (正) (商務省令第一四號)

第一條 治水上重要ノ關係アル公有、社寺有及私有ニ屬スル保安林又ハ森林法第七條ニ依リ造林ヲ命シタル土地ノ

荒廢復舊ニ必要ナル地盤保護植樹費及地盤保護工事費ニ對シ本則ノ定ムル所ニ依リ補助金ヲ交付ス但砂防法ニ依ル

砂防指定地ニ於ケル事業ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二條 國庫補助金ハ左ニ掲ケルモノニ付府縣ニ之ヲ交付ス

- 一 府縣ニ於テ施行スル地盤保護工事ニ要スル費用
- 二 地盤保護植樹費及地盤保護工事費ニ對スル府縣ノ補助金但シ郡ニ於テ施行スル地盤保護植樹費ニ付テハ此ノ限

ニ在ラス

第三條 國庫補助金ノ交付ヲ受ケムトスル府縣ハ申請書ニ前條第一號ノ場合ニ於テハ荒廢地復舊事業豫定書(第一號樣式)及工事設計書同條第二號ノ場合ニ於テハ荒廢地復舊事業豫定書工事設計書及府縣補助金交付規程ヲ添付シ前年度末迄ニ農商務大臣ニ提出スヘシ

前項ノ添付書類ニ記載シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ補助ノ目的及補助率ニ變更ナキ補助金交付ニ關スル規程ノ變更ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 國庫補助金ノ交付ヲ受ケタル府縣ハ第二號樣式ノ事業成績表及第三號樣式ノ決算表ヲ翌年度八月末日迄ニ農商務大臣ニ提出スヘシ

第五條 府縣ニ於テ交付ヲ受ケタル國庫補助金ノ全部ヲ當該年度内ニ支出スルコト能ハサルトキハ其ノ殘額ヲ當該年度後ニ於テ行フ同一ノ事業ニ對シ支出スヘキ義務アルモノトス但シ支出スヘキ見込ナキトキハ其ノ旨ヲ決算表ニ附記スヘシ此ノ場合ニ於テハ農商務大臣ハ其ノ金額ノ還付ヲ命スルコトアルヘシ

前項ニ依リ支出スヘキ殘額ニ付テハ第三條ノ規定ヲ準用ス

第六條 府縣ニ於テ交付シタル補助金ノ全部又ハ一部ノ還付アリタルトキハ其ノ金額及事由ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

前項ノ金額中國庫補助金ニ相當スル金額ハ其ノ還付アリタル年度ニ於テ行フ同一事業ニ對シ支出スヘキ義務アルモノトス但シ其ノ年度ニ於テ支出スルコト能ハサル金額ハ之ヲ前條ノ殘額ト看做ス

附 則

本則ノ規定ハ公有林野造林獎勵規則ニ依リ獎勵金ヲ受クヘキモノニ之ヲ適用セス

砂 防 法



本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ明治四十四年度ニ限り第三條中前年度未迄トアルヲ明治四十四年六月末日迄トス  
(様式略)

◎淀川水源砂防法

(明治六年九月二十九日大藏省達京都府、大阪府、奈良縣、堺縣、滋賀縣、三重縣へ)

淀川水源砂防法別紙ノ通注意可取計此旨相達候事

別紙

淀川水源砂防法

- 第一則 淀川水源ニ關スル山ノ斜面者草木ヲ伐排シ或ハ之ヲ野燒シ又ハ之ヲ掘鑿シ及開墾等ハ私有地ト雖モ一切之ヲ禁ス可シ然リト雖モ不得止ノ情故ヲ以テ前件ノ諸産ヲ開クヲ許スニ當テハ宜ク其ノ地方官ニ於テ土地ノ形質ヲ審檢シ施爲ノ程度ヲ定メテ適宜之ヲ處分スヘキ事
- 第二則 山脚溪口地形尙傾斜アル所ノ田圃砂土ノ流出スル憂アルノ類ハ其ノ地方官ニ於テ適宜豫防ノ法ヲ設立スヘキ事
- 第三則 山ノ斜面草木無之ノ處ニハ之ニ蕃殖スヘキ草木ノ種類ヲ選ミテ種殖培育シ且其蕃息如何ヲ察シ地味ニ適セサル者アラハ其種類ヲ更換シ終ニ其目的ヲ達ス可キ事
- 第四則 從來所施ノ砂防法ハ累年經驗スル處ヲ照合シ就中效果偉ナル者ヲ撰用シ之ヲ行フ可シ然リト雖モ尙其效充足セサル者ハ更ニ之ヲ精究セサル可ラス而シテ其ノ工事巨大ニ涉リ地方ノ力ニ及ヒ難キハ宜ク其ノ情ヲ具陳シテ當省ヘ可伺出事
- 第五則 第一第三第四ノ條款所掲ノ修治ノ費用ハ一切從前ノ如ク官費ヲ以テ支給スルカ故ニ辛未十二月公布ノ定規ニ

- 照準シテ之ヲ處分シ第二則田圃ヨリ流出スル土砂豫防ノ費用ハ其持主ニ課シ適宜之ヲ處分ス可キ事
- 第六則 前ニ掲ル所ノ條款ヲ確保シ其ノ趣旨ヲ達スル爲地勢物情ニ應シ或ハ其ノ地ヲ區劃シ或ハ施工ノ時期ヲ限ル等適宜之ヲ處分スヘキ事
- 第七則 山斜相連ル所又ハ一水相通スル所ニシテ管轄交互ノ地ハ其ノ所管ノ各地方官相謀テ其ノ事ヲ處ス可シ必ス他ヲ顧ミスシテ各自ノ所爲アラサル事
- 第八則 此流域ニ關スル府縣ハ其所管ノ地勢ニ應シ多少ノ官員ヲ出シテ前條ノ諸事ヲ處理セシムヘキ事

◎淀、木曾兩河流域山林諸作業取締ノ件

(明治十三年一月十九日內務省達坤土第八五七號、淀川流域大阪府、京都府、堺縣、三重縣、兵庫縣、滋賀縣、木曾流域岐阜縣、三重縣、愛知縣、長野縣)

某川流域諸山土砂扞止ノ爲諸作業取締方左之通相定候條自今右ニ照準可致此旨相達候事

- 一 該流域諸山ニ於テ樹木ヲ伐採シ草根ヲ掘取シ石材ヲ切出シ其ノ他採鑛開墾土取等ノ業ヲ作ス者ハ其業ヲ作サントスル日ヨリ六ヶ月前作業者ヨリ其管廳(但官林山林局ノ直轄ニ係ル者ハ該局ヲ以テ管廳トナス以下倣之)ヘ伺出セシムヘシ但己ニ作業中ノ分ハ直ニ届出サシムヘシ
- 一 管廳ハ其伺出タル旨ヲ以テ該川出張土木局官員ニ照會シ水理上禍害ノ有無ヲ檢セシム可シ
- 一 該官員ニ於テ檢査ノ上水理上害ナシト確認シタル者ハ管廳ハ其ノ作業ヲ許シ又其ノ害アリト確認シタル者ハ該官員取調書ニ意見ヲ附シ當省ヘ伺出ヘシ(明治十三年六月內務省第四一三號ヲ以テ第二項土木局官員檢査ノ節ハ必ス其廳主務官吏立會スヘキ旨流域府縣ヘ達)

◎民有森林伐木採礦停止ノ件

(明治十七年二月十五日 日太政官布達第三號)







シ地方長官ヲ經テ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

- 第一 水道事務所ノ所在地
  - 第二 水源ノ位置河川池沼等ハ其屬ノ權限及其水量ノ概算但圖面及水質ノ試驗表ヲ添フヘシ
  - 第三 水道線路及水道線路ニ沿フタル地名、貯水池、濾水場、唧水場ノ位置但圖面ヲ添フヘシ
  - 第四 給水ノ區域其ノ人口及其ノ一人一日ニ對スル平均給水量
  - 第五 人口増殖及多量ノ水ヲ用フル製造場等ニ對スル給水量増加ノ見込
  - 第六 水壓ノ概算
  - 第七 工事方法
  - 第八 起工並竣工期限
  - 第九 工費ノ總額其ノ收入支出ノ方法及其ノ豫算
  - 第十 水料ノ等級、價格、水料徵收ノ方法及經常收支ノ概算
- 市町村ニ非サル企業者ニ在リテハ前掲各號ノ外企業ノ組織、資本ノ總額及許可年限ヲ記載スヘシ

◎私設水道布設許可申請取扱方心得(大正二年五月二十二日 内務省訓令第一四號)

水道條例第三條ニ依リ市區町村ニ非サル企業者ヨリ水道布設許可申請書ヲ提出シタルトキハ地方長官ハ其ノ事項ヲ調査シ意見ヲ附シテ進達スヘシ但シ工事方法ニ付テハ水道布設許可ノ後更ニ實施設計ノ認可ヲ受ケシムル方針ヲ以テ其ノ大體ノ計畫ニ付調査スヘシ

- 一 給水區域市町村ノ意見
  - 二 給水區域市町村ノ資力水道布設ニ堪ユルヤ否
  - 三 水源タル河川池沼等ヨリ水利引用ニ關シ利害關係人ニ及ホス影響
  - 四 企業ハ成功ノ見込アリヤ否
  - 五 申請者ノ信用資産ノ状態
- 第四條 内務大臣ハ前條ノ圖面書類ヲ審査シ不都合ナシト認ムルトキハ水道布設ノ認可狀又ハ許可書ヲ與フヘシ
- 市町村ニ非サル企業者ノ出願ニ對シテハ内務大臣ハ必要ト認ムル事項ヲ許可書ニ附シテ命令スルコトヲ得
- 第五條 水道用地ハ國稅其他ノ公課ヲ免除ス
  - 第六條 官有ノ土地ニシテ水道用地ニ必要ナルモノハ之ヲ拂下ケ又ハ貸付スヘシ
  - 第七條 水管ヲ官有地又ハ公道ノ地下ニ布設セントスルトキハ當該行政廳ノ許可ヲ受クヘシ
  - 第八條 地方長官ハ隨時當該官吏又ハ技術官ヲ派遣シテ水道工事及水質水量ヲ検査セシメ其改築修理ヲ要シ又ハ水質不良水量不足ナリト認ムルトキハ相當ノ猶豫期日ヲ定メテ之カ改良ヲ市町村ニ命スヘシ
  - 第九條 市町村ハ工事落成又ハ改築修理了リタルトキハ地方官廳ニ届出監査ヲ受クヘシ
  - 第十條 水道ノ給水ヲ受クル者ハ水質水量ノ検査ヲ市町村長ニ請求スルコトヲ得
  - 第十一條 家屋内ノ給水用具及本支水管ヨリ之ニ接続スル細管ハ市町村ノ所定ニ從ヒ之ヲ設置シ其費用



ハ水道ノ給水ヲ受クル家主ノ負擔トス但市町村ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ設置シ其費用ヲ負擔スルコトヲ得

**第十二條** 市町村ノ水道掛ハ午前八時ヨリ午後五時迄ノ内ニ於テ家屋内ノ給水用具ヲ検査スルコトヲ得但水道掛ハ其證券ヲ携帯スヘシ

**第十三條** 市町村長ハ水道掛ノ報告ニ依リ家屋内ノ給水用具不完全ナリト認ムルトキハ相當ノ猶豫期日ヲ定メテ之カ修繕ヲ爲サシムヘシ

家主若シ其修繕ヲ怠ルトキハ市町村ニ於テ之ヲ修繕シ其費用ヲ徴收スルコトヲ得

**第十四條** 家主ハ家屋内給水用具ノ設置又ハ其修繕ヲ了リタルトキハ市町村ノ水道掛ニ届出ツヘシ水道掛ハ速ニ之ヲ検査スヘシ

**第十五條** 市町村ハ一家専用ノ給水用具ヲ設クル能ハサルモノノ爲メニ共用給水器ヲ設クヘシ

**第十六條** 市町村ハ消防用ノ爲メニ消火栓ヲ設置スヘシ消防用ニ消費シタル水ハ水料ヲ徴收スヘカラス

**第十七條** 市町村ニ非サル企業者ノ布設シタル水道ニシテ許可年限ノ滿了シタル後ハ關係市町村ハ水道布設ニ要シタル費用ヲ支拂ヒ其水道及水道經營ニ必要ナル土地物件ヲ買收スルコトヲ得但水道及水道經營ニ必要ナル土地物件ニシテ布設當時ニ比シ價格ヲ減損シタルモノアルトキハ水道布設ニ要シタル費用ヨリ之ヲ控除ス

前項費用ノ範圍及金額ニ關シ當該市町村ト企業者トノ間ニ爭アルトキハ地方長官之ヲ決定ス其決定ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

**第十八條** 市町村ニ非サル企業者ノ布設シタル水道ニシテ關係市町村ニ於テ必要ト認ムルトキハ許可年限ノ滿了前ト雖之ヲ買收スルコトヲ得  
前項ノ買收價格ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徴シ地方長官之ヲ決定ス其決定ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

**第十九條** 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ市町村又ハ市町村ニ非サル企業者ニ於テ履行スヘキ事項ヲ履行セス又ハ之ヲ履行スルモ充分ナラスト認ムルトキ又ハ必要ノ期限内ニ履行シ得スト認ムルトキハ地方長官ハ府縣費ヲ以テ之ヲ施行シ其費用ヲ市町村又ハ市町村ニ非サル企業者ヨリ之ヲ追徴スルコトヲ得

前項ノ處分ハ豫メ履行期間ヲ指定シテ戒告スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但第八條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

**第二十條** 市町村ニ非サル企業者ニシテ前條ノ費用ヲ指定ノ期限内ニ納付セサルトキハ國稅徴收ニ關スル規定ニ依リ之ヲ徴收ス

**第二十一條** 内務大臣ハ必要ト認ムルトキハ水道ノ布設ヲ市町村ニ命スルコトヲ得

**第二十二條** 内務大臣ノ職權ノ一部ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ニ之ヲ委任スルコトヲ得

◎水道條例第三條及第四條ノ規定ニ依ル職權委任ノ件 (大正十年七月十八日勅令第三三一號)

水道條例第三條及第四條ノ規定ニ依ル内務大臣ノ職權中左ニ掲クル事項ニ關スルモノハ地方長官ニ之ヲ委任ス



- 一 基本計畫ニ於ケル給水人口一萬ヲ超エサル水道ノ布設
- 二 前號ノ水道以外ノ水道ノ工費三萬圓ヲ超エサル改築又ハ増築但シ基本計畫ニ變更ナキモノニ限ル

附 則

本令ハ大正十年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

**第二十二條** 本法中市又ハ市長トアルハ北海道區制又ハ沖繩縣區制ニ依ル區ニ在リテハ區又ハ區長トシ府縣費トアルハ北海道ニ在リテハ北海道地方費トス

附 則 (明治四十四年法律第四十三號)

第八條乃至第十六條ニ於テ市町村及市町村長トアルハ市町村以外ノ企業ニ係ル場合ニハ其企業者ニ之ヲ準用ス

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎水道條例第三條及第十一條但書ノ命令ニ依ル規定ニ關スル件 (大正十年七月十九日 內務省令第二二號)

**第一條** 水道條例第三條ニ規定スル日論見書ニ添付スヘキ水質ノ試験表ニハ左ノ事項ニ關スル試験ノ結果ヲ記載スヘシ

- 一 色及清濁
- 二 臭味
- 三 沈滓
- 四 反應

- 五 亞硝酸
- 六 アムモニア
- 七 過マンガン酸カリウム消費量
- 八 クロール
- 九 硝酸
- 十 硬度
- 十一 蒸發殘渣
- 十二 細菌聚落數

前項各號ニ掲ケルモノノ外異常成分混在ノ疑アルトキハ特ニ其ノ試験ノ結果ヲ記載スヘシ

**第二條** 水道條例第三條ニ規定スル日論見書ニハ工事方法ニ關スル左ノ圖面及書類ヲ添付スヘシ

- 一 實測平面圖 (縮尺六千分一以上)
- 二 實測縱斷面圖 (縮尺長六千分一以上高二百分一以上但シ配水管ニ限リ本圖ヲ省略スルコトヲ得)
- 三 取水口、取水管又ハ取水渠、隧道、沈砂池、貯水池、堰堤、餘水路、排泥管又ハ排泥渠、送水管又ハ送水渠、沈澱池、濾水池、殺菌裝置、配水池、配水塔、唧水場、量水室、配水管又ハ配水渠、橋渠、伏越等水道設備ノ構造ニ關スル圖面其ノ他必要ナル細分圖 (縮尺百分一以上)
- 四 取水量決定ノ理由書
- 五 一位代價表
- 六 工費計算書

水道條例



七 計畫說明書

第三條 實測平面圖ニハ郡市町村ノ名稱及境界、道路、河川、視形線其ノ他地形ヲ表スニ必要ナルモノ、取水口、取水管又ハ取水渠、隧道、沈砂池、貯水池、堰堤、餘水路、排泥管、又ハ排泥渠、送水管又ハ送水渠、沈澱池、濾水池、殺菌裝置、配水池、配水塔、唧水場、量水室、配水管又ハ配水渠、橋梁、伏越、排氣弁、消火栓、制水弁、配水區劃等ヲ記載スヘシ但シ管又ハ渠ニ付其ノ徑又ハ幅員ノ異ナルモノハ適宜ノ符號ヲ以テ之ヲ區別スヘシ

第四條 實測縱斷面圖ニハ地盤高、計畫線ノ高低、取水管、送水管及配水本管ノ大サ勾配、動水勾配線、水平距離、水源貯水池、沈澱池、濾水池、唧水場、配水池、配水塔、量水室等ノ標高並其ノ水位、排氣弁、排泥管又ハ排泥渠、橋梁及伏越ノ位置等ヲ記載スヘシ

第五條 第二條第三號ニ規定スル水道設備ノ構造ニ關スル圖面ニハ地盤線及斷面其ノ他構造ヲ表スニ必要ナル事項ヲ記載スヘシ

第六條 取水量決定ノ理由書ニハ水源ノ狀態、湧水量、既設水利事業又ハ灌溉ニ必要ナル分水量及消火用其ノ他給水量(各設備ノ設計ノ基)決定ノ理由ヲ記載スヘシ貯水池又ハ調整池ヲ設クルモノニ在リテハ其ノ容量流域ノ面積及狀況(從トナルヘキ水量)決定ノ理由ヲ記載スヘシ

第七條 計畫說明書ニハ施工箇所ノ地形及地質、給水區域、現住人口及將來増殖スヘキ豫定人口、基本計畫給水人口、豫定給水人口、給水量、清淨方法、配水方法、配水本管線選定ノ理由、管渠ノ斷面及水壓ノ計算方法、各種構造物設計ノ根據其ノ他水道計畫ニ關スル必要ナル事項ヲ記載スヘシ

第八條 地方長官ニ於テ大正十年七月勅令第三百三十一號各號ニ掲グル事項ノ認可又ハ許可ヲ爲ス場合ニハ水道條例第三條第一項第三、第五及第六並本令第二條第二號乃至第七號ニ規定スル事項ヲ省略セシムルコトヲ得

第九條 市町村ニ於テ左ノ各號ニ該當スル施設ヲ爲シ其ノ費用ヲ負擔セムトスル場合ニハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ  
一 本支水管ヨリ家屋内ノ給水用具ニ接續スル細管ニシテ公道ノ地下ニ屬スル部分ヲ設置セムトスルトキ  
二 衛生上特ニ必要アリト認め家屋内ノ給水用具及本支水管ヨリ之ニ接續スル細管ヲ設置セムトスルトキ  
前項ノ規定中市トアルハ北海道區制ニ依ル區ニ在リテハ區トス  
第一項ノ規定ハ市町村ニ非サル企業者ニ之ヲ準用ス

附 則

本令ハ大正十年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

下水道法(明治三十三年三月法律第三二號)

第一條 本法ニ於テ下水道ト稱スルハ土地ノ清潔ヲ保持スル爲汚水雨水疏通ノ目的ヲ以テ布設スル排水管其他ノ排水線路及其ノ附屬裝置ヲ謂フ

本法ニ於テ築造ト稱スルハ新築改築及増築ヲ包含ス

第二條 市ニ於テ下水道ヲ築造セムトスルトキハ其ノ設計工費ノ收支豫算及起工並竣工ノ期限ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ命令ヲ以テ定ムル種類ノ改築又ハ増築工事ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

◎下水道築造認可申請方ノ件(明治三十四年七月十日內務省訓令第一一號)

下水道法第二條ニ依リ下水道築造ノ認可ヲ申請セムトスルトキハ左ノ規定ニ從ヒ圖面及書類ヲ調製添付セシムヘシ  
第一條 申請書ニ添付スヘキ圖面及書類ハ左ノ如シ



- 一 實測平面圖(縮尺二千五)  
百分一以上
  - 二 實測縱斷面圖(縮尺長二千五百分一)  
以上高百分一以上
  - 三 排水管及排水渠ノ斷面圖(縮尺五十)  
分一以上
  - 四 人孔、燈孔、通風器、防臭瓣裝置、排水唧筒、沈澱池、濾過池ノ構造ニ關ル圖面其ノ他必要ナル細分圖(縮尺五十)  
分一以上
  - 五 一位代價表
  - 六 工費計算書
  - 七 計畫說明書
  - 八 下水道管理ニ關スル規程
  - 九 歳入出豫算書
  - 十 起工及竣工年月日
- 第二條 實測平面圖ニハ市町村界、市町村名、街路、河川、視形線其ノ他地形ヲ顯ハスニ必要ナルモノ、排水區劃、沈澱池、濾過池、排出池、排水管、排水渠、人孔、燈孔等ヲ詳記スヘシ但シ排水管排水渠ノ管徑幅員ノ異ナルモノハ適宜ノ符號ヲ以テ區別スヘシ
- 第三條 實測縱斷面圖ニハ計畫線ノ高低、排水管、排水渠ノ勾配、水平距離、河川ノ水位、海面ノ干満潮面等總テ必要ナルモノヲ詳記スヘシ
- 第四條 人孔、燈孔等ノ構造圖ハ平面、斷面其ノ他構造ヲ顯ハスニ必要ナルモノヲ調製スヘシ
- 第五條 一位代價表ニハ切取、埋立、石垣、「コンクリート」、「モルタル」等各種共其一位トナスヘキモノヲ選ミ一位

ニ付テ必要ナル材料、人夫等ノ員數及代價賃金ヲ算シ摘要欄ヲ設ケ單價ノ基ク理由ヲ詳記スヘシ

第六條 工費計算書ニハ各種工事共各部分毎ニ計算ヲ記スヘシ

第七條 計畫說明書ニハ下水道築造ノ必要ナル理由、地形(接壤地ヲモ含ム)地質、排水スヘキ地域及各排水區劃ノ面積其ノ地域及各區劃ノ現在人口及將來増殖スヘキ豫定人口、雨水及汚水ノ量、排除方法、幹線選定ノ理由、排水管及排水渠ノ斷面計算、洗滌及通風ノ裝置、汚水最後ノ處分法、河川ニ放流スルトキハ下流飲用者ノ有無其ノ他苟モ設計ニ關スルモノハ其ノ算式及事項ヲ詳記スヘシ

第八條 下水道管理ニ關スル規程ニハ下水道ノ修繕、掃除及下水道又ハ市ノ義務ニ屬スル下水道法第三條ノ施設ト土地ノ所有者、使用者ノ義務ニ屬スル施設トノ連結等ニ關スル必要ノ事項ヲ規定スヘシ

第九條 圖面ハ總テ蠟布ヲ用ヒ計畫線路構造等ヲ識別スルニ容易ナラシムル爲メ彩色ヲ施シ設計者ヲシテ署名捺印セシムヘシ

第三條 下水道ヲ設ケタル地ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ市又ハ土地ノ所有者使用者若ハ占有者ハ汚水雨水ヲ下水道ニ疏通スル爲メ必要ナル施設ヲ爲シ及之ヲ管理スルノ義務ヲ負フ

市ニ於テ前項ノ施設ヲ爲シ及之ヲ管理スル場合ニ於テハ市條例ノ定ムル所ニ依リ其ノ費用ヲ土地ノ所有者使用又ハ占有者ヨリ徵收スルコトヲ得

第四條 前條ノ場合ニ於テ甲地ノ汚水雨水ヲ疏通スル爲メ必要アルトキハ乙地ニ汚水雨水ヲ通過セシメ又ハ乙地ノ汚水雨水ヲ通過セシムル爲メ設ケタル工作物ヲ使用スルコトヲ得但シ乙地ノ爲メ損害最少キ場所及方法ヲ選ムヘシ

前項ニ依リ他人ノ工作物ヲ使用スル者ハ其ノ利益ヲ受クル割合ニ應シテ工作物ノ施設及管理ノ費用ヲ負



擔スヘシ

第五條 下水道ヲ築造シ若ハ之ヲ管理シ又ハ第三條ノ施設ヲ爲シ若ハ之ヲ管理スル爲必要アルトキハ他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ得但シ之ガ爲他人ノ受ケタル損害ニ對シ償金ヲ拂フコトヲ要ス

第六條 當該吏員ハ下水道又ハ第三條ノ施設ノ實況ヲ監視スル爲其ノ事由ヲ告知シテ私人ノ土地ニ立入ルコトヲ得

第七條 下水道ノ用地ニ必要ナル國有ノ土地ハ之ヲ市ニ讓與シ又ハ無償ニテ使用セシムルコトヲ得

第八條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ履行スヘキ事項ヲ履行セス又ハ之ヲ履行スルモ充分ナラスト認ムルトキハ當該吏員ニ於テ之ヲ履行シ其ノ費用ハ市ニ於テ之ヲ支辨スヘシ  
前項ノ處分ハ豫メ履行期間ヲ指定シテ戒告スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得但シ必要ノ時限内ニ履行シ得スト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條 前條ノ處分ヲ爲シタルトキハ市ハ市稅ノ例ニ依リ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徵收スルコトヲ得

第十條 市ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ町村ノ委託ヲ受ケ町村ノ全部又ハ一部ノ爲ニ其ノ下水道ヲ築造スルコトヲ得

第十一條 內務大臣ハ必要ト認ムルトキハ下水道ノ築造ヲ市ニ命スルコトヲ得

第十二條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條 本法ハ東京市區改正ニ關スル規定ノ效力ヲ妨ケス

第十四條

本法ノ規定ハ之ヲ區町村ニ準用ス

◎下水道法施行規則(明治三十四年七月十日)改(大正六年內務)

第一條 土地ノ所有者使用者又ハ占有者ハ左ノ區分ニ依リ下水道法第三條ノ施設ヲ爲シ及之ヲ管理スルノ義務ヲ負フ但シ本則第二條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

- 一 建物アル土地ニアリテハ之カ築造及修繕ハ其ノ建物ノ所有者
- 二 建物ナキ土地ニアリテハ之カ築造及修繕ハ其ノ土地ノ所有者
- 三 建物ノ有無ニ拘ハラズ之カ掃除及浚渫ハ土地ノ占有者

第二條 市ハ下水道法第三條ノ施設ニシテ公道ニ屬スル部分ヲ築造シ及之ヲ管理スルノ義務ヲ負フ  
市ハ土地ノ狀況ニ依リ下水道法第三條ノ施設ニシテ公道以外ニ屬スル部分ヲ築造シ又ハ之ヲ管理スルコトヲ得

第三條 市ハ下水道ノ改築又ハ増築工事ニシテ工費壹萬圓未滿ノモノニ關シテハ下水道法第二條ノ認可ヲ受クルコトヲ要セス

第四條 當該吏員下水道法第六條ニ依リ私人ノ土地ニ立入ル場合ニ關シテハ汚物掃除法施行規則第十二條ノ規定ヲ準用ス

第五條 下水道法第八條第二項ノ戒告及第九條ノ費用徵收ニ關シテハ汚物掃除法施行規則第十三條及第十四條ノ規定ヲ準用ス

第六條 下水道ニ關シテハ汚物掃除法施行規則第四條第三項及第七條ノ規定ヲ準用ス  
下水道及下水道法第三條ノ施設ニ關シテハ汚物掃除法施行規則第十五條ノ規定ヲ準用ス

第七條 東京市及八王子市ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監及東京府知事之ヲ行フ



### 發電ノ原動力ノ用ニ供スル水利使用ノ件(明治四十二年八月七)

發電ノ原動力ニ供スル水力發生ノ爲出願セル水ノ使用ヲ許可セントスルトキハ水力百馬力未滿ノモノヲ除ク外電氣起業ノ目的竝水力ニ關スル設計ノ大要及圖面ヲ具シ豫メ本大臣ヘ稟伺スヘシ使用權ノ讓渡其他事業ニ著シキ變更ヲ許可セントスルトキ亦同シ

#### ◎發電ノ原動力ノ用ニ供スル水利使用

二關スル稟伺手續(明治四十二年十月二十一日電監甲第一三四)改(大正四年九月十五日)

本年八月遞信省訓令第一號ニ關スル稟伺其他ノ手續左ノ通り定メラレ候條爾今右ニ準據シ處理相成度候

追テ明治三十九年七月十二日附通法甲第四二七一號通牒ハ廢止ノ義ト了知相成度候

第一條 稟伺ニハ左記事項ヲ具備シタル書類及圖面ヲ添附シ且既許可又ハ出願中ニ係ル同一事業者トノ關係及起業ノ

確否等取調ノ上意見ヲ詳具セラルヘシ

第一電氣起業概要

- (一) 起業者ノ氏名
- (二) 目的
- (三) 供給區域又ハ鐵道若クハ軌道經過地竝ニ其圖面(縮尺二十)
- (四) 發電力(ワット數)

### 第二水路工事

- (一) 河川名竝ニ取入口及放水路ノ位置
- (二) 使用水量(毎秒時ニ付立方尺) 渴水時ノ水量ヲ超過シテ水ヲ使用セムトスル場合ハ其ノ事由ヲ附記シ若シ灌溉用水其他ノ水利ニ影響ヲ有スル場合ニハ參考トシテ之レニ要スル水量其ノ他ノ關係ヲモ記載スルコト

(三) 有效落差

(四) 馬力數(使用水量及有效落差ヨリ計算シタル理論馬力數)

(五) 水路一覽圖(陸地測量部出版五萬分ノ一地圖又ハ之ト同等ノ圖面ニ水路ノ位置ヲ記入セルモ)

(六) 水路豫測圖(縮尺一萬分ノ一以上トシ地形ノ概要ヲ表ハシ地名ヲ詳)

(七) 水路工事説明大要

### 第三使用河川ノ水量測定

- (一) 流域ノ面積(方里ヲ單位トス但シ一方里ニ滿タサ)
- (二) 流域ニ於ケル植林狀態(裸地、耕地、林野ノ面積歩合等)
- (三) 雨量觀測表(附近觀測所ノ調査ニシテ成ルヘク五年以上ニ亘ルモノ)
- (四) 水路工作物附近地ニ於ケル流水水量ノ測定ノ方法及時期竝ニ測定場所橫斷面積圖(測定ハ成ルヘク前後地形同一ノ場所ヲ選ミ異リタル數種ノ方法ニ依リ且ツ渴水時ニ於テ數回之ヲ行フコト)
- (五) 發電所及取入口ニ於ケル最高最低及平水位
- (六) 使用河川ノ勾配及河床(取入口ノ上流一千間ノ地點ヨリ放水路ノ下流一千間ノ地點ニ亘ル使用河川本流ノ勾配竝其ノ河床ノ狀態ヲ記載スルコト)



水量測定ニ關スル擔當技術者名ヲ附記スルヲ要ス

第四工事費概算(別紙様式ニ依ル)

命令書ヲ下付スル場合ニハ命令書案ノ全文ヲ添附スルコトヲ要ス

第二條 左記各項ノ場合ニハ前條ニ準シ關係書類及圖面ヲ添附シ調査ノ上意見ヲ詳具セラルヘシ

一 水利使用權ノ讓渡又ハ會社ノ合併ニ關シ處分ヲ爲サントスルトキ

二 前號第一項第二號(一)乃至(四)ノ變更又ハ電氣事業取締規則ニ依ル許可以前ニ於ケル同項第一號中(二)

乃至(四)ノ變更ニ關シ處分ヲ爲サントスルトキ但シ發電力水量落差及馬力ノ變更ハ發電又ハ馬力數二十分ノ二以

上ノ増減ヲ來ス場合ニ限ル

三 許可ノ取消、水ノ使用停止又ハ許可有效期間其ノ他許可ノ效力ニ著シキ變更ヲ生スヘキ處分ヲ爲サントスル

トキ

第三條 水利使用ヲ許可セラレタル會社發起人若クハ組合員ノ追加脱退シタルトキ又ハ水利使用權ノ消滅シタルトキ

ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ報告セラルヘシ

發電水力百馬力未滿ノモノヲ許可シタルトキハ遲滞ナク第一號第一項第一號及第二號ノ中(一)乃至(五)ノ事項竝ニ

其ノ許可年月日ヲ具シ報告セラルヘシ

工事費概算様式

項	目	數量	單價	金額	摘	要
創立費						

發電水路 工事費	用地費					
	取入口費					
	開渠費					
	隧道費					
	餘水吐、土砂吐其 他水路附屬工事費					
	水槽費					
	鐵管費					
	放水路費					
	雜工事費					
電氣工事 費						
測量及工 事監督費						
豫備費						



官廳ニ於テ發電水力使用ノ場合稟伺方ノ件(大正九年六月十二日電監第二九四八號)  
(各地方長官宛、逓信省電氣局長通牒)

發電水力使用ニ關スル處分ニ付テハ明治四十二年八月訓令第一號並ニ電監甲第一三四一號通牒ノ次第モ之有候處官廳ニ於テ發電水力使用ヲ爲サムトスル場合ニ在リテモ右ニ依リ相當申請ヲ爲サシメ稟伺ノ上處分相成ヘキ義ニ付御了知相成度爲念

發電ノ原動力ノ用ニ供スル水利使用稟

伺ニ記載スヘキ事項ノ件(大正九年八月二十四日電監第四三四八號)  
(各地方長官宛、逓信省電氣局長通牒)

發電水力ニ關スル稟伺ニハ稟伺手續(明治四十二年十月)ニ基キ電氣企業ノ概要ヲ記載シ御意見ヲ詳具セラルヘキノ處既設事業ニ發電水力ヲ利用スルニ在リテハ當該電氣企業自體ノ概要ノミナラス既設ノ事業ニ就テモ其業體ノ大要(既設ノ電氣事業者又ハ著名ノ事業者)ヲモ併セ取調ノ上御意見具申相成候様致度尙處理上必要ニ付發電水力使用ニ關シテ業體明ナルモノハ之ヲ要セスヲモ併セ取調ノ上御意見具申相成候様致度尙處理上必要ニ付發電水力使用ニ關シ貴官限リノ變更許可(百馬力未滿ノ水力)セラレタルトキハ遲滯ナク其ノ都度御報告相成度又水力使用許可願書ハ爾今左記ニ依リ記載セシムル様可然御取計相煩度

左記

- 一 使用水量及有效落差ノ單位ハ每秒立方尺及尺トス
  - 二 理論馬力數ハ使用水量ト有效落差ノ積ニ「〇、一一」ヲ乘シタルモノトス
  - 三 理論馬力及發電力ハ理論馬力「二〇」以下ノモノヲ除キ總テ小數位以下ノ四捨五入シタルモノトス
- 追テ百馬力未滿ノ水力使用ニシテ一般電燈供給(電力ヲモ併セ供給)ノ目的ヲ以テ出願シタルモノニ對シ許可セラレントスル場合ニハ其ノ處分前豫メ當省ヘ御打合セ相成候様致度

電氣事業許可命令書中變更ニ關スル件(大正十年十二月八日電業第七七二號各)  
(各地方長官宛、逓信省電氣局長通牒)

電氣供給事業者ニ對シ左記ノ通命令書ノ條項追加相成候ニ付貴管下各電氣事業者ニ御示達相成度

電氣及小口電力(三馬力未滿)ノ供給ニ關シ已ムヲ得サル事由ニ依リ需要者ニ對シ工事ニ關スル寄附其ノ他特別ノ負擔ヲ求メムトスルトキハ所轄地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

發電水力ニ關スル件(明治四十二年八月七日土甲第二三號)  
(各地方長官宛、內務次官通牒)

本年八月七日逓信省訓令第一號ヲ以テ發電ノ原動力ニ供スル水力發生ニ關スル件ニ付訓令相成候處右ハ同省ノ主管ニ屬スル電氣事業ノ取締ニ關スルモノニシテ當省ノ主管ニ屬スル事項ニハ何等關係無之義ニ付從前ノ成規ニ依リ水ノ使用ニ關シ當省ニ稟伺ヲ要スルモノハ總テ其ノ手續ヲ履行セラルヘキ旨ニ有之候條右様御承知相成度爲念此段及通牒候也

電氣事業ニ要スル水利使用ニ付

使用期間ヲ附スル件(明治四十三年三月廿八日土第六七四號)  
(各地方長官宛、內務省土木局長通牒)

電氣事業ニ要スル水利使用ノ期間ヲ附スルハ取締上必要ノコト、存候條從來許可セラレタルモノ、內其ノ使用期間ノ定ナキモノハ其ノ許可命令條件ニ基キ此際相當期間ヲ附セラレ度依命此段及通牒候也

發電ノ原動力ノ用ニ供スル水力發生ノ爲ニスル河川

發電用水利使用



其ノ他公有水面ノ水ノ使用ニ關スル件(大正五年十二月十六日發土第九六號 各地方長官宛土木局長依命通牒)  
 發電ノ原動力ニ供スル百馬力以上ノ水力發生ノ爲河川其ノ他公有水面ノ水ノ使用ヲ許可セムトスルトキハ當省大臣ノ認可ヲ受ケラレ度尙今後同様ノ出願ヲ受理セラレタルトキハ直ニ其ノ要領及受理ノ年月日ヲ報告相成度

追テ本文同様ノ事件ニシテ從來受理セラレ未タ處分ノ運ニ至ラサルモノニ付テハ其ノ要領及受理ノ年月日ヲ、又嘗テ許可セラレタルモノニシテ權利ノ現存スルモノニ付テハ左記ノ事項ヲ本年內ニ到着スル様夫々御報告相成

- 一 起業者
- 二 河川其ノ他公有水面ノ名稱並入口及吐口ノ地名
- 三 引用水量及引用期間
- 四 引用箇所ニ於ケル河川其ノ他公有水面ノ濁水時及平時ニ於ケル流量
- 五 落差
- 六 許可ノ年月日及許可ノ條件
- 七 工事竣功シタルモノハ其ノ竣功ノ時期、工事中又ハ未著手ノモノハ其ノ著手及竣功ノ時期
- 八 一般平面圖
- 九 堰堤其ノ他引入箇所ニ於ケル設備ノ構造圖
- 十 水路ノ横斷面圖及縱斷面圖

◎發電用水ノ使用ニ關スル願書受理報告事項ノ件(大正六年六月二十一日發第一四九號 各地方長官宛 土木局長通牒)

標記ノ報告ハ今後別紙記載例ニ倣ヒ御調製相成度

- (別紙)
- 起業者 住所何某外何名(會社ナルトキハ其ノ社名)
  - 引用河川名 何川(幹川大字何川支(派)何川)
  - 取水口 何縣何郡何村大字何字何
  - 放水口 何縣何郡何村大字何字何
  - 使用水量 毎秒時何立方尺
  - 落差 (曲尺ニテ示スコト)
  - 馬力數 (理論馬力數ヲ記入スルコト)
  - 發電力 (キロワット數)
  - 工費 (總額ヲ記入スルコト)
  - 目的 一般電力供給又ハ自家何業用等ノ類
  - 受理年月日 大正 年 月 日
  - 備考 本件ハ何々ト競願ナリ又ハ何々ノ類

◎發電原動力ノ用ニ供スル水利使用

出願書取扱方ノ件(大正元年十一月十六日土第二三七號 各地方長官宛 土木局長通牒)

發電原動力ノ用ニ供スル水利使用願ノ義ハ多クノ府縣ニ在リテハ市區町村郡支廳ヲ經由セスシテ直ニ地方廳ニ提出セ

發電用水利使用



シハルモ令尙ホ該手續ニ依ラサル地方モ有之哉ニ聞及ヒ候ニ付自今右願書ハ直ニ地方廳ニ提出セシメ其許可セムトスルモノニ就テハ地方廳ヨリ一定ノ期限ヲ付シ關係アル市區町村ニ諮問スルコトニ取扱方一定致候方可然ト存候ニ付爲念此段通牒候也

◎發電ノ原動力ノ用ニ供スル水ノ使用

二 關スル件 (大正七年九月二十八日發土第一三四號各地方長官宛、土木局長依命通牒)

發電ノ原動力ニ供スル百馬力以上ノ水力發生ノ爲ニスル水ノ使用ニ關スル事件ハ當省へ稟伺ノ上處分方大正五年十二月十六日發土第九五號ヲ以テ依命及通牒候次第モ有之候處右ノ内左記各項ノ一ニ該當スルモノノ外ハ自今稟伺ヲ要セス候條貴官限リ處分ノ上直ニ左ノ要項ヲ具シ報告相成度  
追テ本文ニ依ル報告後變更認可等ノ爲報告ノ内容ニ異動ヲ來タスモノハ是亦其ノ處分ノ都度報告相成度

記

- 一 河川法施行河川ノ流域ニ係ルモノ
- 二 河川法準用河川 (水流水面ヲ含ム以下同シ)ノ流域ニ係ルモノニシテ堀鑿土砂二千坪以上若ハ理論馬力一千馬力以上ノモノ
- 三 前項以外ノ河川ニ依ルモノニシテ堀鑿土砂量五千坪以上若ハ理論馬力三千馬力以上ノモノ
- 四 貯水ヲ爲シ又ハ主トシテ落差ヲ得ル目的ヲ以テ堰堤ヲ築造スルモノ
- 五 甲河川ヨリ引水シ乙河川ニ放水スルモノニシテ治水上利害關係ノ著シキモノ
- 六 堰堤以外ニ於テ舟筏ノ通航木材ノ流下若ハ魚族ノ溯上ニ關シ特別ノ施設ヲ爲スモノ
- 七 灌溉其ノ他ノ水利事業ニ著シク障害ヲ及ボスノ虞アルモノ

記(北海道廳ノ分)

- 一 石狩川ノ流域ニ係ルモノ
- 二 尻別川、十勝川、釧路川、渚滑川及天鹽川ノ流域ニ依ルモノニシテ堀鑿土砂二千坪以上若ハ理論馬力一千馬力以上ノモノ
- 三 前項以外ノ河川ニ依ルモノニシテ堀鑿土砂量五千坪以上若ハ理論馬力三千馬力以上ノモノ
- 四 貯水ヲ爲シ又ハ主トシテ落差ヲ得ル目的ヲ以テ堰堤ヲ築造スルモノ
- 五 甲河川ヨリ引水シ乙河川ニ放流スルモノニシテ治水上利害關係ノ著シキモノ
- 六 堰堤以外ニ於テ舟筏ノ通航木材ノ流下若ハ魚族ノ溯上ニ關シ特別ノ施設ヲ爲スモノ
- 七 灌溉其ノ他ノ水利事業ニ著シク障害ヲ及ボスノ虞アルモノ

◎地方廳限處分ノ發電用河水使用許可

報告要項ノ件 (大正九年九月十七日發甲第三五號各地方長官宛、土木局長通牒)

標記ノ件ニ付客年七月發第二一六號ヲ以テ及通牒置候處爾今左記記載例ニ據リ報告相成度

(記載例)

- 一 命令書寫 (起業者ノ住所氏名ハ全部記載ノコト尙起業ノ目的ニシテ命令書ノミニテ其ノ内容判明セサルモノニ在リテハ別ニ詳記シタルモノ添附ノコト)
- 二 有效落差
- 三 理論馬力及發電力

發電用水利使用



- 四 流域面積
- 五 堰堤ノ高(河床ヨリ最高ヲ記載スルコト)及長竝其ノ工種
- 六 堀鑿土砂ノ數量
- 七 水路一覽圖(縮尺五萬分一)(可成陸地測量部發行ノ地圖ニ依ルコトトシ堰堤、取水口、隧道、開渠、發電所、餘水路、放水口等ノ位置ヲ記載スルコト) 水路縱斷面圖

◎水利使用ニ關スル河川流域ノ件(大正七年十月二十六日水乙第一一七號各地方長官宛、土木局長通牒)

標記ノ件ニ付別紙甲號ノ通奈良縣知事ヨリ照會有之今般乙號ノ通り回答ニ及候御了知相成度

(甲號) 奈良縣知事照會

客月二十八日內務省發土第百三十四號ヲ以テ發電原動力ニ供スル水ノ使用ニ關スル件依命通牒相成候處右ノ內河川法施行河川又ハ準用河川ノ流域トハ其ノ府縣ノ管内ヲ一區域トシテ考查スヘキ義ト被相認候モ或ハ一河川ノ流域數府縣ニ涉リ其ノ下流一府縣內ニ於テ幹川ノ一部河川法ヲ施行シ又ハ準用セラルル場合ニ於テハ其ノ上流ノ他府縣ハ悉ク其ノ河川ノ流域トシテ前記御通牒ノ趣旨ニ依リ稟伺ヲ要スヘキ義ニ有之候哉客月三十日土發第五十四號御通牒ノ次第モ有之候得共聊力疑義有之候ニ付更ニ至急何分ノ御指示ヲ得度及御照會候也

(乙號) 土木局長回答

標記ノ件ニ付本月十一日土第六三七八號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ後段御見解ノ通ト御承知相成度

◎水利使用ノ出願事件取扱ニ關スル件(大正七年九月二十日電監第五七六〇號各地方長官宛、逓信省電氣局長、內務省土木局長通牒)

近時各種工業ノ顯著ナル發達ニ伴ヒ電氣動力ノ需要急激ニ増加シ敏速ニ之カ供給ヲ充タサシムルノ必要アルニ拘ラス在來水利使用ノ許可ヲ受ケタルモノニシテ數年間徒ニ之ヲ留保シテ事業經營ヲ爲ササルモノアリ且近來激増セル水利使用出願中ニハ往々單ニ權利ヲ獲ルノ目的ヲ以テ出願スルニ非サト疑ハルモノアルト共ニ權利讓渡ニ關スル弊害ヲモ生セムトスル傾向有之其ノ結果電氣動力供給ニ支障ヲ與ヘ眞摯ナル企業ノ發達ヲ阻害シ延イテハ一般經濟上ニモ影響スルトコロ少ナカラサル次第ニ付之カ取締ノ勵行ヲ期スル爲爾今水利使用許可處分ニ際シテハ左記ニ據リ處理相成度候

- 一 會社成立期間、工事實施ノ認可申請期間(水利許可ノ日ノ翌日ヨリ起算ス但シ許可ノ際未タ電氣事業經營ノ出願ヲ爲ササルモノニ付テハ事業經營出願ノ日ノ翌日ヨリ起算ス)電氣事業經營許可申請期間、工事著手期間及工事落成期間ハ實際ノ事情ニ適合スル様ニ之ヲ定メ天災又ハ不可抗力ニ依ル場合ノ外延期ヲ許ササルコト但シ自己ノ過失ニ歸セサル正當ノ事由ニヨリ期間內ニ工事實施認可ノ申請若ハ電氣事業經營許可ノ申請ヲ爲シ難キトキ又ハ工事ニ著手シ若ハ竣功シ難キトキハ期間經過前ニ延期ノ申請ヲ爲スコトヲ得セシムルモ其ノ期間ハ大體ニ於テ一年以內トスルコト
- 二 水利使用許可ニヨリテ生スル權利義務ハ之ヲ他人ニ移シ又ハ貸付スルコトヲ許ササルコト但シ左ノ場合ハ特ニ之ヲ許スコトアルヘシ
  - イ 工事落成後又ハ工事落成前ニ於テ事業力相當ニ進行シ成功ノ見込アリト認ムルトキ
  - ロ 會社合併ニ因ルトキ
  - ハ 會社ノ組織變更ニ因ルトキ

前項但書ニヨリ權利移轉ヲ許可スル場合ニ於テモ命令書ニ定ムル期間ハ之ヲ伸長セズ  
 追テ既許可ノ水利ニ就テハ權利義務ノ移轉若ハ工事實施認可申請期間又ハ期間ノ伸長ノ申請アル場合其ノ他適當ノ機會ニ於テ命令書ヲ變更シ本文ノ規定ニ據ラシムル様配意アリタシ尙既ニ認可ヲ經タルモノニシテ未タ命令書ヲ交付セザル



モノニ就テハ不通牒ノ趣旨ニ依リ相當更正ノ上命令書交付相成度

◎水利使用出願事件取扱方ノ件

(大正七年九月二十日電監第五六五三號) 各地方長官宛、逓信省電氣局長通牒

水利使用許可處分ニ就テハ本年九月電監第一五七六〇號ヲ以テ依命通牒ノ次第モ有之候處右ニ關シテハ尙左記ノ事項御注意相煩度候

- 一 電氣事業經營許可申請書又ハ自家用電氣工作物施設認可申請書ハ可成水利使用許可ノ際マテニ之ヲ提出セシメ若シ許可ノ際マテニ提出スルコトヲ得サル事情アルモノニ付テハ許可後可成速ニ提出セシムルコト
- 二 凡テ期間並期限ノ變更ハ明治四十二年十月電監甲第一三四一號依命通牒第三條第三號ニ該當スルモノトシ稟伺ノコト

◎水利使用事業取扱ニ關スル件

(大正八年六月九日電監第三〇三二號各地方長官宛、逓信省電氣局長、内務省土木局長通牒)

發電水力ニ關シテハ曩ニ地方長官會議ニ於テ逓信大臣ヨリ訓示ノ次第モ有之候處諸般産業ノ原動力トシテ水力ノ開發利用カ甚々重大ナルコトハ言チ須ヒサル處ニ有之其ノ利用方法ノ如何ハ一國經濟ノ消長ニモ影響スル所尠カラサル義ニ付水ノ使用ニ關スル出願審査ニ際シテハ左記事項ニ據リ處理相成様致度

- 一 水ノ經濟的利用ニハ充分意ヲ用フルコト
- (一) 水ノ各種利用方法相互間ノ調節ニ就テハ周到ノ注意ヲナスコト
- (二) 水力利用ノ場合ニ於テハ水量ハ可成豐富ニ利用セシメ落差ハ可成有利ニ利用セシムルコト若シ右ニ反スル出願ヲ許可セントスル場合ニハ其ノ事由ヲ詳細説明スルコト
- (三) 地方廳限リ百馬力未滿ノ水力ノ許可ヲ爲シ後ニ百馬力以上ニ變更申請ヲ爲スノ例アリ右ノ如キ地點ハ始ヨリ百

馬力以上ノ設計ト爲サシムヘキコト

- 二 電力ノ供給ヲ豐富ナラシメ且發電設備費ヲ低廉ナラシムル爲水力利用ノ計畫ハ努メテ其ノ規模ヲ大ナラシムルコト
- 三 電氣事業法ニ依ル電氣事業又ハ其ノ事業者ニ電氣ノ供給ヲ爲ス事業ニシテ其ノ出願ニ係ル計畫ノ大規模ナルモノト其ノ他自家用發電水力事業トノ競願ニ付テハ可成供給事業者ニ許可スルコト但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

- (一) 供給事業者ノ水ノ利用方法不經濟ナルトキ
- (二) 供給事業者カ既ニ充分他ニ電力ヲ發生スヘキ地點ノ許可ヲ受ケ其ノ工事成功ノ時期及電力需給ノ狀況等ニ鑑ミ新水力地點ノ許可ヲ必要トセスト認ムルトキ
- (三) 其ノ他特種ノ事由アルトキ

四 大規模ノ發電水力地點ノ利用ニ付キ近キ將來ニ於テ需要ノ見込ナキニ拘ラス之カ使用區域ヲ強テ一地方ニ限定セムトスルカ如キハ水力利用上甚ダ不利トスル所ナルヲ以テ當該地方ニ於テ實際ノ需要アル場合ノ外右ノ如キ制限ヲ附セサルコト

五 水力使用ノ出願アリタルトキハ直ニ調査ヲ開始シ敏活ニ之カ處理ヲ爲スト共ニ企業ノ意思ナク單ニ權利ヲ獲ルノ目的ヲ以テ出願スルモノ及許可後數年間工事ニ著手セス又ハ著手スルモ毫モ工事ヲ進捗セシメサルモノニ對シテハ一層取締ヲ嚴ニスルコト

- (一) 大正三年前廳府縣受理未處分事件ニ附テハ各事件毎ニ從來調査ノ經過ヲ具シ起業確否ノ意見ヲ附シ速ニ報告スルコト但シ起業不確實ナリト認メラルモノニ付テハ此ノ際不許可ノ處分ヲ爲シ其ノ結果ヲ報告スルコト
- (二) 水ノ使用ニ關スル事件處分ニ際シ關係市町村會ニ諮問スル場合ハ其ノ答申ニ付相當ノ期間ヲ附シ其ノ期間内ニ答申ナキ時ハ意見ナキモノト看做シ速ニ處理スルコト



(三) 三千馬力以上ノ既許可ノ水力地點ニ付既ニ工事ニ著手シタルモノト未著手ノモノトヲ分チテ事未著手ノモノニ付テハ著手期間内ノモノナルヤ否ヤ又既ニ工事ニ著手シタルモノニ付テハ其ノ工事進捗ノ程度及功ノ見込期日ヲ取調ヘ可成速ニ報告スルコト

六 既許可ノ水力工事ニ關シテハ其ノ工事方法等ニ付充分監督ノ實ヲ舉クルコト

◎發電用水利使用事業取扱ニ關スル件 (大正八年九月十九日發土第七四號各地方長官宛、內務省土木局長、遞信省電氣局長通牒)

發電用水利使用ニ關スル競願事件中先願ニ對スル調査ヲ遂ケ稟伺ヲ爲シタル後出願シタルモノノ如キ先願ニ比シ著シク後願ニ係ルモノニ付テハ大體ノ調査ヲ爲スニ止メ御意見御申出相成差支無之又右ノ如キ場合ハ六月九日電監第三〇三二號依命通牒第三項第三號ニ所謂特種ノ事由アルモノトシテ御考慮相成可然候

六月九日電監第三〇三二號依命通牒第三項ニ依リ電氣供給事業者ノ出願ヲ許可セムトスル場合ニ於テ公共ノ利益トナルヘキ事業又ハ之ニ準スヘキ事業ニシテ獎勵ヲ要スルモノニ對シ許可ヲ受ケタルモノヲシテ電力ヲ供給セシムル必要アリト認ムルトキハ低廉ナル料金ヲ以テ所有ノ電力ヲ供給セシメ殊ニ是等ノ事業者カ其ノ事業用ノ爲水利使用ノ競願ヲ爲シタルモ公共ノ利益ト爲ルヘキ重要ナル事業ナルニ拘ラス小規模ナルカ爲不許可處分ヲ爲ス場合ノ如キハ特ニ實費ニ近キ料金ヲ以テ供給ヲ爲サシムル等適當ナル方法ヲ講セラレ可然ト付此ノ場合ニ於テハ許可命令書中ニ相當ノ規定ヲ設ケ可然御措置相成度

水利使用ニ關スル工事ニ付テハ塌墜土砂ノ處理切取法面ノ保護山地崩壞ノ防止方法其ノ他治水上必要ナル施設ニ對シ特ニ周到ノ注意ヲ拂ヒ努メテ實施ノ監督ヲ行ヒ遺憾ナキヲ期スルト共ニ其ノ維持修繕ヲ完カラシメ治水上障害ヲ來タスカ如キコトナカラシムル様充分御監督相成度

◎發電事業等合同ニ關スル件 (大正九年六月十二日電監第二九四九號各地方長官宛、遞信省電氣局長通牒)

近時經濟界ノ變動ニ伴ヒ資金ノ蒐集ニ困難ヲ感スルノ結果電氣事業ノ工事就中水力並ニ送電線路等ノ建設ノ如キ多大ノ資金ヲ要スルモノニアリテハ工事ノ進捗ニ影響スルノ虞アルヤノ趣ニ有之候處現在ノ狀況ヲ以テ推移スルトキハ電氣事業ノ發達ヲ妨クルニ至ルヤモ計リ難キニ依リ企業ヲ合併セシメ其ノ基礎ヲ強固ニシ以テ事業ノ信用ヲ向上セシメ之ニ依リテ資金ノ流通ヲ圓滑ナラシムルコトハ此ノ際最モ適切ノ措置ナルノミナラス永遠ノ大計トシテ緊要ナルニ付右ノ趣旨ニ依リ企業ノ合併ニ關シ特ニ御配慮相成候様致度

◎發電用水使用ニ關スル競願事件アル

場合稟伺方ノ件 (大正七年十二月四日水乙第一二五號各地方長官宛、土木局長通牒)

標記ノ件ニ付別紙甲號ノ通り熊本縣知事ヨリ照會有之今般乙號ノ通り及回答候條御了知相成度

(甲號) 熊本縣知事照會

發電ノ原動力ニ供スル爲水ノ使用出願者二名以上アル場合其ノ一事件ヲ許可セムトスルトキハ他ノ事件ニ付テモ調査ヲ遂ケ同時ニ稟伺ノ上處分スヘキコトニ相成居候ニ付テハ右ハ大正五年十二月十六日附內務省發土第九五號御通牒ニ依ル百馬力以上(客月廿八日附內務省發土第一三四號變更アリシモ是ヲ以テ例トス)ノ電力發生ノ場合ニ適用スルモノニシテ百馬力以下ノトキハ其ノ他ノ不許可ニ付スヘキ分ハ電力發生數ノ如何ヲ問ハス稟伺ヲ要セサル意義ノ様被存候處御通牒ノ趣意ハ矢張り前述ノ通ニシテ假令五十馬力ノモノヲ許可スルニ際シ他ノ一千馬力ノモノヲ不許可ニ付スル共認可ヲ受クルノ必要ナキモノトセラレ候哉疑義ニ亘リ候ニ付何分ノ御回報相願度候



(乙號) 土木局長回答  
標記ノ件ニ付本月二日土第三七四三號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ稟伺ノ上處分セラルヘキ義ト御承知相成度

◎水利使用出願事件取扱ニ關スル件 (大正九年五月四日電監第二一四二號各地方官宛、逓信省電氣局長、內務省土木局長通牒)

發電水力ノ使用ニ關シ曩ニ通牒致置候次第モ有之候處尙左記各項ニ依リ御處理相成度  
一 從來發電水力使用ヲ許可セラレ又ハ其ノ使用許可ノ認可ヲ與ヘタル會社發起人若ハ組合員ノ追加脱退ハ組合員ノ全員脱退ノ場合ヲ除クノ外稟伺ヲ要セサルコトニ相成居候處爾今許可受人ノ三分ノ一以上ノ變更ニ付テハ豫メ稟伺ノ上處分相成度

二 會社發起人名義ヲ以テ發電水力使用ノ許可ヲ受ケタル後會社ノ設立ニ際シ其ノ權利ヲ過大ノ資産ニ計上シ徒ニ會社ノ負擔ヲ大ナラシムルカ如キ開エ有之候右ハ延イテ發電費ニモ影響スルノミナラス不穩當ノ次第ニ付相當御取締相成度

◎發電ノ原動力ノ用ニ供スル水力發生ノ爲ニスル河川其ノ

他公有水面ノ水ノ使用處分稟伺ニ關スル件 (大正六年一月八日五發土第三一六號各地方官宛、土木局長通牒)

標記ノ件ニ付秋田縣知事ヨリ甲號ノ通り照會ニ對シ乙號ノ通り回答致置候ニ付御承知相成度

(甲號) 秋田縣知事照會

本月十六日御省發土第九五號ヲ以テ標記ノ件稟伺方御通牒相成候處元來本件ハ明治四十二年八月逓信省訓令第一號ニ依リ其ノ許可ノ前逓信大臣ノ認可ヲ要スルコトニ相成居候ニ付爾後右御通牒ニ基キ內務大臣ニ稟伺ヲ爲ス場合ハ恰カモ

府縣起債ノ認可申請書ヲ內務、大藏兩大臣ニ宛テ又軌道條例ニ依ル軌道布設特許ノ申請書ヲ內閣總理、內務兩大臣宛トシ提出ノ例ニ準ヒ本稟伺書類モ內務、逓信兩大臣宛トシ提出シタル儀ト相心得可然哉何分ノ義承知致度此段及照會候也  
(乙號) 土木局長回答  
標記ノ件ニ付客年十二月二十五日秋收土乙第四五四〇號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ各別ニ御稟伺可相成義ト御承知相成度

◎從來許可シタル發電ノ原動力ノ用ニ供スル水

ノ使用變更ニ關スル件 (大正六年一月十二日五發土第三一六號各地方官宛、土木局長通牒)

標記ノ件ニ關スル神奈川縣知事ノ照會ニ對シ從前地方廳限リ許可シタル事項ノ變更ト雖モ發電水力百馬力以上ノモノニ付テハ經伺ヲ要スル旨及回答置候條爲念及通牒候

◎發電ノ爲ニスル水利使用ニ關スル

使用料徴收ノ件 (大正十年十二月二十六日遞土第四號各地方官宛、土木局長通牒)

標記ノ件別紙甲號照會ニ對シ今般乙號ノ通及回答候條御了知相成度

(甲號) (大正九年四月十九日電氣局長照會)

水力使用料徴收ニ付テハ河川法第四十二條ノ規定モ有之候處右ハ水利使用許可ヲ爲シタル後ニ於テモ使用料ヲ徴收シ得ル儀ニ有之候哉差懸リ處理ヲ要スル件有之候ニ付何分ノ御回報相煩度



(乙號) (大正十年十二月二十六日 內務省土木局長回答) 標記ノ件ニ關シ大正十年四月十九日電監第二〇〇三號ヲ以テ御照會ノ次第モ有之候處河川法第四十二條ノ規定ニ依ル使用料ハ水利使用ノ許可ヲ爲シタル後ト雖モ同條ノ解釋上之ヲ徵收シ得ヘキ義ト存候

◎發電水力使用ニ關スル規則

制定ノ件

(大正十一年三月六日電監第一二四) (七號電氣局長通牒 各地方長官宛)

貴廳ニ於テ發電水力使用ニ關スル規定ヲ設ケ又ハ之ヲ變更セラレムトスルトキハ豫メ遞信大臣ノ承認ヲ受ケラレ度右依命

◎發電ノ爲ニスル水利使用ニ對シ使用料

其ノ他徵收ニ關スル件

(大正十一年四月十一日發土第一六) (號各地方長官宛 土木局長通牒)

發電ノ原動力ニ供スル水力發生ノ爲ニスル河川其ノ他公有水面ノ水ノ使用ニ對シ使用料ヲ徵シ又ハ其名義ノ何タルヲ問ハス納付金ヲ徵スル爲之カ規程又ハ納付ニ關スル內規等ヲ定メ若ハ之ヲ變更セラレムトスルトキハ豫メ當省ヘ御内議ノ上御處理相成度

追テ從來制定ニ係ル規程、內規等ハ此ノ際御送附相成度

◎發電用ノ水ノ使用料徵收ニ關スル件

通牒

(大正十三年六月十一日發甲第一五號 京都、滋賀、石川、山梨、長野、福島各府縣知事宛 土木局長通牒)

發電ノ用ニ供スル水ノ使用ニ對シ之カ使用料ヲ徵收セラレントスル場合ハ大體別紙標準ニ據リ詮議可相成コトニ内定セラレ候條御承知ノ上貴府縣ニ於ケル從前ノ收納ニ關シテハ將來可相成速ニ本標準ニ據ルヘキ様可然御措置相成度 追テ本件使用料徵收ニ關シテハ客年四月十一日發土第一六號依命通牒ニ依リ承認ヲ受ケラルヘキ義ニ付此段爲念

記

- 一 水利使用料ハ其ノ使用水量ヲ標準トスルト發電水力ヲ標準トスルトヲ間ハス其ノ金額ハ發電水力一理論馬力ニ付一ケ年金壹圓ニ相當スル範圍内ニ止ムルコト
- 二 發電用水路其ノ他ノ工作物カニ府縣以上ニ跨ル等ノ場合關係府縣知事ニ於テ其ノ水利使用ノ許可ヲ爲ストキハ前項ノ範圍内ニ於テ關係府縣知事其ノ料金額ヲ協定スルコト
- 三 使用料ハ發電開始後月割ヲ以テ之ヲ徵收スルコト
- 四 左ノ水利使用者ヨリハ水利使用料ヲ徵收セサルコト
  - 一 地方公共團體
  - 二 公益法人
  - 三 產業組合
  - 四 一水系ニ於ケル總理論馬力百馬力未滿ノモノ
  - 五 利益配當年五分以下ナルモノ
- 五 本標準ニ據ル水利使用料ノ外河川ノ使用料又ハ占用料其ノ他公納金寄附金等如何ナル名稱ヲ以テスラ問ハス實質上水利使用ニ關スル收納ハ之ヲ爲サ、ルコト
- 六 大正十二年度以前ヨリ引續キ徵收又ハ收納スルモノハ將來成ルヘク速ニ整理ヲ遂ケ本標準ニ據ルヘキコト

發電用水利使用



◎發電用ノ水ノ使用料徴收ニ關スル

件通牒

(大正十三年六月十一日發甲第一五號京都、滋賀、石川、山梨、長野、福島ヲ除ク各地方長官宛、土木局長通牒)

發電ノ用ニ供スル水ノ使用ニ對シ之カ使用料ヲ徴收セラレントスル場合ハ大體別紙標準ニ據リ證議可相成コトニ内定セラル候條御承相成度

追テ本件使用料徴收ニ關シテハ客年四月十一日發土第一六號依命通牒ニ依リ承認ヲ受ケラルヘキ義ニ付此段爲念(別紙標準ハ前掲ノ通)

◎大正五年十二月發土第九十五號依命通牒ニ依ル水ノ使用ニ關スル稟伺

其ノ他ノ手續ノ件

(大正六年三月三十日發土第一九)改(大正七年九月二十一日發土第一三)號各地方長官宛、土木局長通牒)正(三號各地方長官宛、土木局長通牒)

記ノ件左ノ通り被定候條爾今右ニ準據シ御處理相成度

記

第一條 水ノ使用許可ノ稟伺書ニハ左ノ事項ヲ具備シタル圖書及命令書案ヲ添附シ起業ノ確否、起業者ノ信用及資産ノ狀態、掘鑿土砂處理方法、切取盛土法面ノ保護及山地崩壞防止ノ方法及第四號ノ事項ニ付テハ特ニ調査ノ上意見ヲ詳具セラルヘシ

第一 起業ノ概要

- 一 起業者ノ住所職業及氏名(會社ナルトキハ其會社名)
- 二 起業ノ目的

(例、電燈ノ供給事業ナルトキハ何縣何郡何町村内ノ燈火用、電力ノ供給事業ナルトキハ何鐵道何軌道何鑛山何工場用、其ノ他電氣化學工業ノ用ニ供スルモノナルトキハ何所在地何製造所、何工場用ノ類)

三 取水河川(他ノ公有水面ヲ含ム以下同シ)名並取水口及放水口ノ位置

(例、取水河川、幹川何川支(派)何川、取水口何縣何郡何町村大字何字何、放水口何縣何郡何町村大字何字何)

四 使用水量(毎秒時間何立方尺)

五 有效落差(曲尺ニテ示スコト)

六 馬力數(使用水量及有效落差ヨリ計算シタル理論馬力數及發電力)(キロワット數)

七 水ノ使用期間

第二 水路工事

一 水路一覽圖

縮尺五萬分一トシ堰堤、取水口、隧道、開渠、發電所放水口等ノ位置及取水箇所ニ於ケル流域境界線ヲ記載シ尙附近ニ於テ灌溉其ノ他既許可ノ水利事業アルトキハ其ノ位置ヲ記入スルコト特ニ貯水池又ハ河水ノ調整池ヲ設ケルモノニ在リテハ其ノ位置ヲ記載スルコト

二 水路豫測縱斷面圖

縮尺横六千分一以上縱二百分一以上トシ堰堤、取水口、隧道、開渠、發電所、放水口其ノ他主要工作物ノ位置、取水口及發電所附近ニ於ケル最高水位、平水位、最低水位ヲ記入シ高低ノ基準ハ可成陸地測量部ノ水準標ニ準據スルコト

三 堰堤及水路ノ定規圖

發電用水利使用



三 縮尺ハ適宜トシ形状、材質及構造ノ大要ヲ示スコト

四 計畫説明大要  
取水河川ノ状態及勾配、取水方法ノ大要、使用水量決定ノ理由、水路断面算定ノ方法、水車ノ種類箇數、堀鑿土砂ノ數量及處理方法、切取盛土法面ノ保護及山地崩壊防止ノ方法ハ必ス之ヲ記載スルコト

特ニ貯水池又ハ河水ノ調整池ヲ設クルモノニ在リテハ其ノ計畫ノ大要ヲ記載スルコト

第三 取水河川ノ水量測定

一 流域面積(方里ヲ以テ示スコト)

二 取水口附近ニ於ケル流量及水ノ測定ノ方法時期並測定場所ノ横断面圖

横断面圖ノ縮尺ハ適宜トシ湧水、低水及最高水位ヲ記入スルコト

水量測定ハ數種ノ方法ニ依リ可成湧水時ニ於テ數回之ヲ行フコト

第四 起業ト治水其他公益事業等ノ關係

一 灌溉其ノ他既許可ノ水利事業ニ及ホス影響並之ニ關スル施設ノ大要

(例、取水口放水口間及其ノ上下附近ニ於テ本起業ノ爲影響スルモノナシ又ハ何々堰灌溉反別何町歩ノ灌溉ノ爲湧水時ニ於テ何所ヨリ灌溉時期何立方尺ノ分水ヲ爲ス等ノ類)

二 舟筏ノ通航、流木及漁業ニ及ホス影響並之ニ關スル施設ノ大要

(例、舟筏ノ通航或ハ流木ノ慣行ナシ若ハ漁業ノ利ナシ又ハ堰堤ニ舟筏路若ハ魚道ヲ設クル等ノ類)

三 名勝舊蹟等ニ及ホス影響並之ニ關スル設備ノ大要

四 取水口堰堤ノ爲洪水時ニ於ケル水面ノ隆起ニ起因スル影響ノ程度並之ニ關スル設備ノ大要

(例、洪水時ニ於ケル水面ノ隆起、堰堤ニ於テ何尺、嵩水ノ影響約何間、何々縣道ノ上置工事ヲ爲シ何橋ヲ高ムル計畫等ノ類)

五 貯水池設置ニ因リ流出水量ニ増減ヲ來タス結果取水河川ノ下流ニ於ケル用悪水路並舟筏ノ通航及流木ニ及ス影響ノ程度並之ニ關スル施設ノ大要

六 放水口ヲ他ノ河川ニ設ケル場合關係河川ノ治水及水利上ニ及ホス影響ノ程度並之ニ關スル設備方法ノ大要

第五 工事費概算書(別紙様式ニ據ル)

水路工事ニシテ二府縣以上ニ跨ルモノニ付テハ關係府知事ノ連署ヲ以テ稟伺セラルヘシ但シ關係府縣知事ノ間ニ協議ノ調ハサルモノニ在リテハ許可セムトスル府縣知事ニ於テ前項ニ掲ケタル書類ノ外協議ノ顛末ヲ知ルニ足ルヘキ書類ヲ添附稟伺セラルヘシ

第條項ノ命令書案ハ別紙様式ニ準シ河川ノ状態及地方ノ狀況等ヲ斟酌シテ之ヲ調整セラルヘシ

第二條 稟伺ノ上許可スヘキ水ノ使用ニ關シ左ニ掲ケル事項ヲ許可若ハ認可シ又ハ之ヲ命セムトスルトキハ稟伺ノ上處分セラルヘシ

一 河川法施行河川及其ノ流域ニ屬スル河川其ノ他特ニ指定スル河川ニ關スル工事ノ實施設計及其ノ變更但シ第二號乃至第四號ニ該當セサル事項ノ變更ハ此ノ限ニ在ラス

二 使用水量ノ變更ニ伴フ工事ノ變更

三 取水口放水口若ハ貯水池ノ位置又ハ其ノ構造ノ變更但シ些少ノ變更ハ此ノ限ニ在ラス

四 其ノ他著シキ工事ノ變更

五 命令書又ハ認可ヲ經タル命令書案ノ變更但シ左ニ掲ケルモノハ此ノ限ニ在ラス

發電用水利使用



- イ 水ノ使用權者又ハ出願者ノ追加、脱退若ハ除名但シ水利權者又ハ出願者會社又ハ會社發起人ニ非サル場合ニ於テ其ノ全員ノ脱退若ハ除名ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- ロ 専ラ電氣ニ關スル事業取締上ノ必要ニ基キ命令書案中ノ水ノ使用水量ヲ減少シ若ハ其ノ使用ノ目的ヲ制限シ又ハ許可年限ヲ短縮スルコト
- 六 水ノ使用權ノ讓渡

◎水ノ使用ニ關スル工事實施設計稟伺

二 關スル件

(大正七年九月三十日六發第五四號) 新潟縣知事宛、土木局長回答

標記ノ件ニ付本月十九日土發第八二三號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ前段御見解ノ通ト御承知相成度

新潟縣知事伺 (大正七年九月十七日土發第八三二號)

大正六年三月三十日附發土發第十九號依命通牒第二條第一號ニ依レハ河川法施行河川ノ流域ニ屬スル河川ニ於ケル水ノ使用工事實施設計ハ稟伺ノ上處分スヘキ義ニ有之候處右流域トハ河川法施行河川ノ支川ハ勿論小支小々支川等雨水ノ注下スヘキ區域ニ於ケル河川ヲ指稱スル義ニ候哉將々又河川法施行河川ノ支川ニ限ルモノト心得可然哉右至急何分ノ御指示ヲ得度及照會候也

第三條 前條ノ實施設計認可ノ稟伺書ニハ左ノ圖書、其ノ他ノ事項ノ稟伺書ニハ第一條又ハ本條ニ準シ調製シタル書類ヲ添附シ意見ヲ詳具セラルヘシ

- 一 水路實測圖
- イ 平面圖

縮尺六千分一以上トシ水路ノ中心線、測點番號水路及附帶工作物ノ位置ヲ記入シ附近ノ地形ヲ明ナラシムルコト

ロ 縱斷面圖

縮尺横六千分一以上縱二百分一以上トシ測點番號基準線(高ハ可成陸地測量部水準ニ準據スルコト)距離、遞加距離、地盤高、切取盛土ノ高、水路底面ノ高、計畫水位(水面勾配ヲ記入スルコト)竝實測平面圖ニ示シタル水路及附帶工作物ノ位置等ヲ記入シ尙取水口及放水口ニハ最高水位、平水位、最低水位ヲ記入スルコト

ハ 橫斷面圖

縮尺二百分一以上トシ切取盛土面坪、計畫水位、法勾配、法保護工事等ヲ記入シ各斷面間ノ距離ハ土坪計算ニ必要ナル程度ト爲スコト

二 構造圖

イ 堰堤(流木路、舟筏路、魚道、土砂吐等ヲ含ム)取水口、沈砂地、土砂吐、餘水路、制水門、隧道、開渠、木樋、水路管、水路橋、水槽、放水路、水壓管、吸出管、水車、發電所並貯水池、河川ノ調整池等ノ構造圖

縮尺ハ適宜トシ構造ノ適否ヲ判定スル爲必要アル水位ハ之ヲ記入スルコト

ロ 水路開設ニ伴ヒ施設スヘキ各種工作物ノ構造圖

縮尺ハ適宜トシ構造ノ適否ヲ判定スル爲必要アル水位ハ之ヲ記入シ尙水路ト新舊工作物トノ關係ヲ明ニシタル平面圖及斷面圖ヲ添附スルコト堀鑿土砂捨場附屬工作物ノ構造ハ特ニ之ヲ記載スルコト

三 工事説明書

水路選定ノ理由、水路實測圖及構造圖ニ示シタル各種工事設計ノ要領(算式ヲ以テ計算シタルモノハ其ノ計算書ヲ添附スルコト)工事施行ノ順序、作業方法、堀鑿土砂處理方法(土坪計算表及土砂捨場圖ヲ添附シ各箇所ノ面積及

發電用水利使用



土砂包容量ノ計算ヲ明示スルコト等ヲ記載シ尙堰堤ニ付テハ地質ノ説明(試鑽ヲ行ヒタルモノハ其ノ成績表ヲ添附スルコト)ヲ爲シ且洪水時ニ於ケル水面ノ隆起及嵩水ノ影響ヲ圖示スルコト

貯水池及河川ノ調整池ヲ設ケル場合ニハ貯水容量(立方尺トシ其ノ計算書ヲ添附スルコト)及其ノ使用方法ヲ記載スルコト

四 工事費豫算書

工事費概算書中水路工事費ニ關スル各費目ヲ細別シ工事種類、長、數量、單價、金額及工法ノ摘要ヲ示スコト但シ特種ノモノニ付テハ別ニ設計書ヲ添附スルコト

他府縣ニ關係アル事項ニ付テハ第一條第二項ニ準シ處理セララルヘシ

第四條 出願中ニ係ル水ノ使用ニ關スル事業ニシテ利害相反スルモノニ箇以上アル場合ニ於テ他ノ事件ヲ許可セムトスルトキハ他ノ事件ニ付テモ調査ヲ遂ケ同時ニ稟伺ノ上處分セララルヘシ

第五條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ遲滞ナク報告セララルヘシ

- 一 水ノ使用ヲ許可シタルトキ
- 二 命令書ノ規定ニ依リ左ニ掲ケル期間伸長ノ認可ヲ爲シ又ハ期間ノ指定ヲ爲シタルトキ
  - イ 工事實施認可申請期間伸長ノ認可
  - ロ 工事ノ著手又ハ竣功期間伸長ノ認可又ハ其ノ期間ノ指定
  - ハ 電氣事業經營許可又ハ電氣工作物施設認可申請期間伸長ノ認可
- 三 工事實施ノ認可ヲ與ヘタルトキ
- 四 第二條第一號但書ニ依リ工事實施設計變更ニ關スル處分ヲ爲シタルトキ

- 五 第二條第五號但書ニ依リ命令書又ハ命令書案ヲ變更シタルトキ
- 六 工事ニ著手シ又ハ竣功シタルトキ
- 七 水ノ使用權消滅シタルトキ

工事費概算書(様式)

項	目	數量	單價	金額	摘	要
創	用					
立	地					
費	堤					
	取					
	開					
	餘					
	土					
	他					
	屬					
	水					
	槽					
	工					
	水					
	路					
	吐					
	其					
	附					
	費					
	費					
	費					
	費					
	路					
	管					
	水					
	放					

發電用水利使用



計	電測	水處	諸建	補償	何々	雜工	費費
	量氣						
	豫備						
	及工						
	工事						
	費事						
	費費						

命令書案

何株式會社發起人  
(各發起人ノ住所職業及氏名ヲ連記スルコト)

今般右ノ者ニ對シ河川ノ水ノ使用及水路開鑿並其ノ附屬物ノ施設ヲ許可スルニ付本命令書ヲ下付ス  
第一條 水ノ使用ノ目的ハ何々ノ爲發電ノ用ニ供スルモノトス

第二條 使用水量ハ壹秒時間何立方尺以内トス

第三條 取水口及放水口ノ位置ハ左ノ如シ  
取水口 何縣何郡何村大字何字何  
放水口 何縣何郡何村大字何字何

第四條 許可年限ハ大正何年何月何日迄トス

第五條 許可ヲ受ケタル者ハ本命令書交付ノ日マテニ電氣事業經營ノ出願ヲ爲サ  
翌日ヨリ起算シ何箇  
年(大體ニ於テ六箇月乃至一箇年以内ヲ標準トシ事)内ニ左ノ各號ニ準據シ水路實測圖(平面圖ハ縮尺六千分一以上縱  
斷面圖ハ縱二百分一以上横六千分一以上横斷面圖ハ二百分一以上トス)構造圖工事説明書及工事費豫算書ヲ調製シ何  
縣知事ニ對シ工事實施ノ認可ヲ申請スヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一 水路ノ流量ハ一秒時間何立方尺ヲ標準トス

二 取水口ニハ制水門ヲ設ケ且量水設備ヲ爲スヘシ

三 水路中適當ノ箇所ニ放水ノ設備ヲ爲シ定量外ノ水量ノ排出ヲ爲スヘシ

四 取水口若ハ放水口ニ接續スル河川ノ沿岸ニ對シテハ本事業ニ起因シテ生スル損害ヲ防止スル爲相當ノ工事ヲ施ス  
ヘシ

五 水路開設ノ爲水路經過地域ニ於テ山地ノ崩壞ヲ來ササル様相當ノ設備ヲ爲スヘシ

六 堰堤ニハ流木路(舟筏路)及魚道ノ設備ヲ爲スヘシ

七 工事ニ因リテ生スル土砂ノ捨場ヲ定メ相當ノ設備ヲ爲スヘシ

第六條 認可ヲ與ヘタル事項ト雖モ何縣知事ニ於テ公益上其ノ他必要アリト認ムルトキハ之レカ變更ヲ命スルコトアル

發電用水利使用



第七條 許可ヲ受ケタル者ニ於テ第五條ノ認可ヲ得タルトキハ其ノ翌日ヨリ起算シ六箇月内ニ工事ニ著手シ著手ノ日ヨリ何箇年内ニ竣功スヘシ  
 天災其ノ他不可抗力ニ依ル事故ノ爲期間内ニ工事ニ著手シ又ハ竣功スルコト能ハサルトキハ許可ヲ受ケタル者ハ期間ノ伸長ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ申請ハ天災事變ノ止ミタル日ノ翌日ヨリ起算シ一箇月内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス  
 自己ノ過失ニ歸セサル正當ノ事由ニ因リ期間内ニ工事ニ著手又ハ竣功シ難キトキハ期間經過前ニ延期ヲ申請スルコトヲ得延期ノ期間ハ通シテ何箇年(大體ニ於テ一箇年以内ヲ標準トシ事業ノ大小難易ヲ斟酌シテ適當ニ之)ヲ定メ延期ヲ許可セムトスル場合ハ其ノ事由ヲ慎重ニ調査セラレタシヲ超ユルコトヲ得ス

何縣知事ノ命ニ依リ設計ヲ變更シタルトキハ更ニ期間ノ指定ヲ申請スルコトヲ得  
 前項ノ申請ハ何縣知事ノ命ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ起算シ一箇月内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス  
 工事ニ著手シタルトキハ遲滞ナク何縣知事ニ届ツヘシ  
 第五條及第十九條第一號ノ期間ニ付テハ本條第二項乃至第四項ノ規定ヲ準用ス

第八條 本事業ノ爲河川道路橋樑梁用惡水路其他公共ノ既設工作物ノ變更ヲ要スルトキハ許可ヲ受ケタル者ハ關係者ト協議シ其ノ顛末ヲ具シ何縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第九條 本事業ノ爲灌溉其ノ他ノ水利及漁業ニ支障ヲ來シ又ハ其ノ虞アルトキハ許可ヲ受ケタル者ハ關係者ト協議シ水路ノ改築其ノ他適當ノ方法ヲ講スヘシ  
 前項ニ依リ工事ヲ爲サムトスルトキハ關係者ト協議ノ顛末ヲ具シ何縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第十條 何縣知事ニ於テ本事業ノ爲風致ヲ毀損シ又ハ其ノ虞アリト認ムルトキハ許可ヲ受ケタル者ニ命シ植樹其ノ他適當ノ施設ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第十一條 何縣知事ニ於テ本事業ニ因リ治水上障害ヲ來シ又ハ其ノ虞アリト認ムルトキハ許可ヲ受ケタル者ニ命シ其ノ障害ヲ除却セシメ又ハ之ヲ豫防スル爲必要ナル設備ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第十二條 何縣知事ニ於テ工事施行ノ爲必要ナル假締切假道其ノ他ノ設備又ハ其ノ作業方法危害ヲ生スルノ虞アリト認ムルトキハ許可ヲ受ケタル者ニ命シ其ノ危害ヲ豫防スル爲必要ナル施設又ハ措置ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第十三條 公益ノ爲必要ナル工事又ハ他人ニ於テ何縣知事ノ許可ニ基キテ施行スル工事ニ因リ本事業ニ障害ヲ來シ若ハ變更ヲ生セシムルコトアルモ許可ヲ受ケタル者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十四條 工事竣功シタルトキハ遲滞ナク何縣知事ニ届出テ検査ヲ受クヘシ

第十五條 通水ヲ開始シタルトキハ遲滞ナク何縣知事ニ届出ツヘシ

第十六條 何縣知事ニ於テ公益上必要アリト認ムルトキハ期限ヲ指定シ引水ヲ停止シ又ハ引水量ヲ制限スルコトアルヘシ

第十七條 何縣知事ハ水路及附屬工作物竝ニ本事業ニ伴ヒ施設シタル護岸其ノ他ノ工作物ヲ監査シ必要アリト認ムルトキハ許可ヲ受ケタル者ニ命シ相當ノ工事若ハ設備ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第十八條 左ノ場合ニ於テハ何縣知事ハ許可ノ全部若ハ一部ヲ取消シ又ハ工事ノ變更中止ヲ命スルコトアルヘシ  
 一 公益上必要アリト認ムルトキ  
 二 許可ヲ受ケタル者ニ於テ法律命令又ハ本命令書又ハ本命令書ニ基キテ爲シタル處分ニ違背シタルトキ  
 三 河川ノ狀況ノ變更其ノ他許可ノ後ニ起リタル事實ニ因リ必要アリト認ムルトキ



第十九條 左ノ場合ニ於テハ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

一 電氣事業經營ノ許可ヲ得サルトキ若ハ其ノ許可ヲ取消サレタルトキ (本命令書交付ノ日マテニ電氣事業經營ノ出願ヲ爲ササルモノニ付テハ本命令書交付ノ日ノ翌日ヨリ起算シ六箇月内電氣事業經營ノ出願ヲ爲ササルトキ)

二 第五條ノ期間内ニ同條ノ認可ヲ申請セサルトキ又ハ其ノ認可ヲ得サルトキ

三 第七條第一項ノ期間内ニ工事ニ著手又ハ竣功セサルトキ

四 電氣事業ノ工事施行認可ヲ得サルトキ又ハ其ノ認可ヲ取消サレタルトキ

五 中途ニシテ工事ヲ廢シタルトキ

六 全部ノ營業ヲ廢止シタルトキ

七 會社解散シタルトキ

八 營業滿期ノトキ

九 許可年限滿了ノトキ

十 第五條ノ認可申請以前ニ會社成立セサルトキ

十一 創立總會ニ於テ本命令書ノ事項ヲ遵守シテ營業スルコトヲ議決セサルトキ

第二十條 許可ノ效力消滅シタル場合ニ於テハ何縣知事ハ許可ヲ受ケタル者ニ命ジ既設工作物ノ全部若ハ一部ヲ除却シ原形ニ復セシムルコトアルヘシ但シ何縣知事ハ既設工作物ノ全部若ハ一部ヲ現形ノ儘無償ニテ官有ト爲スコトアルヘシ

第二十一條 何縣知事ニ於テ公益上其ノ他必要アリト認ムルトキハ本命令書ノ事項ヲ變更シ又ハ追加スルコトアルヘシ

第二十二條 許可ヲ受ケタル者ニ於テ本命令書又ハ本命令書ニ基キテ爲シタル處分ニ依ル義務ヲ履行セス若ハ履行スル

モ必要ノ期間内終了スルノ見込ナキトキ又ハ其ノ履行ノ方法宜キヲ得サルトキハ何縣知事ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ他人ヲシテ代テ之ヲ執行セシムルコトアルヘシ

何縣知事ニ於テ急迫ノ事情アリト認ムルトキハ第十一條、第十二條又ハ第十七條ニ依リ許可ヲ受ケタル者ニ命スヘキ事項ヲ自ラ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトアルヘシ

第二十三條 本命令書又ハ本命令書ニ基キテ爲シタル處分ニ依ル義務ノ爲要スル費用及前條ノ費用ハ總テ許可ヲ受ケタル者ノ負擔トス

本命令書又ハ本命令書ニ基キテ爲ス處分ニ因リ許可ヲ受ケタル者ニ於テ損害ヲ蒙ルコトアルモ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第二十四條 本許可ニ因リテ生スル權利義務ハ之ヲ他人ニ移轉シ又ハ貸付スルコトヲ得ス但シ左ノ場合ニ於テハ特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

一 工事竣功シタルトキ

二 事業相當ニ進行シ成功ノ見込アリト認ムルトキ

三 會社合併ニ因ルトキ

四 會社ノ組織變更ニ因ルトキ

前項但書ニ依リ權利義務ノ移轉ヲ許可スル場合ト雖本命令書ニ規定スル期間ハ之ヲ伸長セス

第二十五條 許可ヲ受ケタル者ハ連帶責任ヲ以テ本命令書及本命令書ニ基キテ爲ス處分ニ因リテ生スル義務ヲ負擔スヘシ

(備考)

發電用水利使用



本命令書案ハ株式會社ノ發起人ニ對シ下付スヘキモノノ様式ナルヲ以テ其ノ他ノ者ニ下付スヘキモノハ相當變更スルコトヲ要ス

◎發電用河水使用ニ關スル縣令發布ノ件(大正十一年六月十七日發土第六五號各地方長官宛、土木局長通牒)

發電用河川使用ニ關スル取締及出願手續等ニ付其ノ使用ヲ許可セラルル際細目ニ亘ル命令書ハ之ヲ下付セス一般的ニ縣令ヲ以テ規定セラルル向有之候處右ハ大正六年三月發土第一九號依命通牒附屬命令書案列記事項ト同一趣旨ノ事項ヲ規定セラルル場合ハ兎ニ角右事項以外ニ亘ルモノハ通常命令書案若ハ命令書ノ變更トシテ稟伺ヲ要スルモノニ付右ノ如キ縣令發布ノ場合ハ豫メ其變更廢止トモ稟伺ノ上御處理相成度

追テ本文ニ依リ稟伺ヲ要スルモノト否トニ拘ラス水利使用ニ關スル縣令發布ノ際ハ其ノ都度謄本一通御送附越相成度

◎發電水力調査申請規則(明治四十三年九月二十日八日遞信省令第八八號)

第一條 電氣事業經營ノ目的ヲ以テ水力ヲ使用セムトスル者ハ本規則ニ依リ其ノ發電水力ノ實地調査ヲ遞信大臣ニ申請スルコトヲ得但シ實施設計ニ關スル事項ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 前條ノ調査ヲ申請セムトスル者ハ左記ノ事項ヲ具備シタル申請書ヲ提出スヘシ

- 一 起業ノ目的
- 二 調査地點
- 三 概定馬力數

前項ノ申請書ニハ左記ノ書類ヲ添附スヘシ

- 一 水力使用許可書又ハ承諾書ノ謄本
- 二 其他參考トナルヘキ書類及面圖(縮尺二十萬分ノ一町、村名ヲ記シタルモノ)
- 第三條 遞信大臣ニ於テ申請ヲ許可シタルトキハ調査著手ノ期日ヲ定メ之ヲ申請者ニ通知スルモノトス
- 第四條 調査費用ハ總テ申請者ノ負擔トス其ノ納付ニ關シテハ臨時發電水力調査局長官ノ指示スル處ニ依ルヘシ
- 第五條 申請者ハ調査費用ノ擔保トシテ臨時發電水力調査局長官ノ指示スル所ニ依リ有價證券ヲ提供スヘシ
- 第六條 申請者ニ於テ調査費用ヲ納付セサルトキハ相當ト認ムル價格ヲ以テ前條ノ有價證券ヲ賣却シ其ノ代價ヨリ賣却費用ヲ控除シタル殘額ヲ以テ之ニ充當シ過剩額ハ之ヲ還付シ不足額ハ之ヲ追徴ス
- 第七條 調査ヲ終了シタルトキハ費用計算書及發電水力調査書ヲ調製シ申請者ニ交付ス
- 第八條 遞信大臣ニ於テ起業不確實ト認メタル場合ニ於テハ調査ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ
- 第九條 申請者ニ於テ調査ノ廢止ヲ求メムトスルトキハ事由ヲ具シ遞信大臣ニ申請スヘシ
- 第十條 前二條ニ依リ調査ヲ廢止シタル場合ト雖既ニ調査ニ要シタル費用ハ之ヲ免除セス
- 第七條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
- 第十一條 本規則ニ依リ遞信大臣ニ提出スル書類ハ總テ所轄臨時發電水力調査局支局ヲ經由スヘシ

附 則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

◎發電水力調査圖表類交付規則(大正三年五月六日改、大正十年四月十八日、遞信省令第一一號)正(遞信省令第二〇號)

(大正十四年二月二十五日、遞信省令第九號)

發電用水利使用



現行土木法令

二八二

第一條 遞信省ニ於テ調査シタル發電水力調査圖表類ハ其ノ副本ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

第二條 調査圖表類ノ交付ヲ申請セムトスル者ハ第一號書式ノ申請書ヲ差出スヘシ  
前項ノ申請書ニハ第二號書式ノ企業概要書ヲ添付スヘシ

第三條 調査圖表類ノ交付ヲ申請セムトスル者ハ左ノ區別ニ依リ手数料ヲ納付スヘシ  
一 流量ニ關スル調査圖表類

- 一 流量測定地點(又ハ一測水所)
- 一 曆年分ニ付 金五十圓

- 二 地形ニ關スル調査圖表類 金二十五圓

一 水力地點又ハ一水力地點トシテ利用セムトスル區間ニ付 金百圓

前項第一號ノ場合ニ於ケル毎日ノ流量ニ關スル圖表ノ交付ヲ受ケサルモノノ手数料ハ各其ノ半額トス  
手数料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ申請書ニ貼附シテ納付スヘシ

前項ノ收入印紙ハ遞信省ニ於テ之ヲ消印ス

第四條 遞信省ニ於テ調査シタル流量測定地點(又ハ測水所)及發電水力地點ハ地方廳又ハ遞信局ニ就キ承合スヘシ

第五條 (削除)(大正十年省令第二〇號)

第一號書式

收入印紙ヲ貼付スヘシ但シ消印スヘカラス

發電水力地點調査圖表類副本交付申請書

貴省ニ於テ調査相成候左記圖表類ノ副本交付相成度企業概要書添付此段申請候也

年 月 日

住 所

申請者

氏

名 印

遞信大臣宛

記

一 流量圖表(自何年何月至何年何月)

但シ何々水系何々川筋何縣何郡何村何字何流量測定地點(又ハ測水所)ニ關スルモノ

二 地形圖

但シ何々水系何々川第何號水力地點又ハ自何縣何郡何村何字何至何縣何郡何町何村何字何間(何川合流點下(流何間等)ノモノ

第二號書式

企業概要書

一 企業者名

二 利用何川及地點

發電用水利使用

二八三



- 河川名 何水系 何川
  - 地點 取入口 何縣何郡何村何字何
  - 放水口 何縣何郡何村何字何
- 三 水力利用ノ目的
- 四 動力利用區域

### 土地、水面

#### 地所名稱區別 (明治七年十一月七日大)

(政官布告第一二〇號)

改(明治八年七月太政官布告第一一四號同年十月同第一五四號九年) 正(六月同第八八號十二年九月同第三四號、十三年十月同第四三號)

#### 官有地

- 第一種 (地券ヲ發セス) 地租ヲ課セス (地方稅) ヲ賦セサルヲ法トス
  - 一 皇宮地 皇居離宮等ヲ云
  - 一 神地 伊勢神宮山陵官國幣社府縣社及ヒ民有ニアラサル社地ヲ云
- 第二種 (地券ヲ發シ) 地租ヲ課セス (地方稅) ヲ賦セサルヲ法トス (尤府縣所用ノ地ハ地券ヲ發セス唯帳簿ニ記入ス)
 

但此地ニ在ル官舎ヲ貸渡ス時ハ借地料ヲ賦スヘシ

#### 皇族賜邸

- 一 官用地 (官) 院省 (使寮司) 府 (藩) 縣本支廳裁判所警視廳陸海軍本分營其ノ他政府ノ許可ヲ得タル所用ノ地ヲ云

#### 第三種 (地券ヲ發セス) 地租ヲ課セス (地方稅) ヲ賦セサルヲ法トス

(但シ人民ノ願ニヨリ右地所ヲ貸渡ス時ハ其間借地料ヲ納メシムヘシ)

- 一 山岳丘陵林藪原野河海湖沼池澤溝渠堤塘道路田畑屋敷等其他民有地ニアラサルモノ
- 一 鐵道線路敷地
- 一 電信架線柱敷地
- 一 燈明臺敷地
- 一 各所ノ舊跡名區及ヒ公園等民有地ニアラサルモノ
- 一 人民所有ノ權利ヲ失セシ土地
- 一 民有地ニアラサル堂宇敷地及墳墓地
- 一 行刑場

#### 第四種 (地券ヲ發セス) 地租ヲ課セス (地方稅) ヲ賦セサルヲ法トス

- 一 寺院大中小學校說教場病院貧院等民有地ニアラサルモノ

#### 民有地

#### 第一種 (地券ヲ發シ地租ヲ課シ地方稅) ヲ賦スルヲ法トス

地所名稱區別



一 人民各自所有ノ確證アル耕地宅地山林等ヲ云但シ此地賣買ハ人民各自ノ自由ニ任スト雖モ潰シ地〔開墾〕等ノ如キ大ニ地形ヲ變換スルハ官ノ許可ヲ乞フテ法トス

一 人民數人或ハ一村或ハ數村或ハ數村所有ノ確證アル學校病院鄉倉牧場秣場社寺等官有地ニアラサル土地ヲ云但シ此地賣買ハ其所有者一般ノ自由ニ任スト雖モ潰地〔或ハ開墾〕等ノ如キ大ニ地形ヲ變換スルハ官ノ許可ヲ乞フテ法トス

**第二種**〔地券ヲ發シテ地租地方稅〕ヲ賦セサルヲ法トス

- 一 官有ニアラサル鄉村社地及墳墓地等ヲ云
- 一 民有ノ用惡水路溜池敷堤及井溝敷地
- 一 公衆ノ用ニ供スル道路但シ其ノ地形ヲ變換スルトキハ管轄廳ノ許可ヲ請フヘシ

**地租條例**

〔明治十七年三月十五〕改〔明治二十二年十一月法律第三〇號、三十三年三月同第二號、大正三年三月同第一八號、同第一九號八年四月第四六號〕

第三〇號、三十六年六月同第一二號、三十八年三月同第三三號、四十一年三月同第三六號、四十四年三月同第二號、大正三年三月同第一八號、同第一九號八年四月第四六號

地租條例別冊ノ通制定シ明治六年七月第二百七十二號布告地租改正條例及地租改正ニ關スル條規其ノ他本條例ニ抵觸スルモノハ廢止ス

但シ東京府管轄伊豆七島小笠原島〔函館縣、沖繩縣、札幌縣、根室縣〕ハ當分從前ノ通タルヘシ

**第一條** 地租ハ左ノ稅率ニ依リ毎年之ヲ賦課ス

宅地 地價百分ノ二箇半

田 地價百分ノ四箇五

其ノ他土地 地價百分ノ五箇半

北海道ニ於ケル宅地以外ノ土地ノ地租ハ當分左ノ稅率ニ依ル

田 地價百分ノ三箇二

其ノ他土地 地價百分ノ四箇

本條例ニ於テ地價ト稱スルハ土地臺帳ニ掲ケタル價額ヲ謂フ

**第二條** 地租八年ノ豐凶ニ由リテ増減セス

**第三條** 有租地ヲ區別シテ二類ト爲ス

第一類 田、畑、宅地、鹽田、鑛泉地

第二類 池沼、山林、牧場、原野、雜種地

第一類中又ハ第二類中ノ各地目變換スルモノヲ地目變換ト謂フ

第一類地ヲ第二類地ニ變換スルモノヲ地類變換ト謂フ

第二類地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地ト爲スモノヲ開墾ト謂フ

第一類地又ハ第二類地ノ山崩、川欠、押堀、石砂入、川成、海成、湖水成等ノ如キ天災ニ罹リ地形ヲ變シタルモノヲ荒地ト謂フ

**第四條** 左ニ掲クル土地ニ付テハ其地租ヲ免ス

- 一 國府縣郡市町村其他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スル土地但有料借地



ハ此限ニ在ラス

二 府縣郡市町村其他勅令ヲ以テ指定スル公共團體カ公用又ハ公共ノ用ニ供スヘキモノト定メタル其所  
有地但命令ノ定ムル期間内ニ公用又ハ公共ノ用ニ供セサルトキハ此限ニ在ラス

三 府縣社地、郷村社地、招魂社地但有料借地ハ此限ニ在ラス

四 墳墓地

五 用惡水路、溜池、堤塘、井溝

六 鐵道用地、軌道用地、運河用地

七 保安林

八 公衆ノ用ニ供スル道路

府縣郡市町村其他ノ公共團體ハ前項ノ土地ニ租稅其他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス但所有者以外ノ者前項  
第一號又ハ第二號ノ土地ヲ使用收益スル場合ニ於テ其土地ニ對シ使用者ニ租稅其他ノ公課ヲ課スルハ此  
ノ限ニ在ラス

軌道用地ノ區域ニ關シテハ私設鐵道法第四十一條ノ規定ヲ準用ス

◎地租條例ニ依ル公共團體及期間指定ノ件 (明治三十八年五月十) (日勅令第一五九號)

改 (明治三十九年六月勅令第一五三號、四十四年十) (一月同第二七八號、大正三年八月同第一七三號)

第一條 地租條例第四條第一項第一號及第二號ニ依リ左ノ公共團體ヲ指定ス

府縣組合、郡組合

水利組合、水利組合聯合

市町村組合、町村組合、市町村學校組合及町村學校組合

市町村内ノ區

學區

沖繩縣ノ區及區内ノ部

北海道地方費

北海道ノ區及區町村内ノ部

北海道土功組合

第二條 地租條例第四條第一項第二號ニ依ル期間ハ公共又ハ公共ノ用ニ供スヘキモノト定メタルトキヨリ一箇年ト  
ス

第五條 土地ノ丈量ハ曲尺ヲ用ヒ六尺ヲ間トナシ方壹間ヲ以テ歩ト爲シ參拾歩ヲ畝ト爲シ拾畝ヲ段ト爲シ  
拾段ヲ町ト爲ス但宅地ハ方壹間ヲ以テ坪ト爲シ坪ノ拾分壹ヲ合ト爲シ合ノ拾分壹ヲ勺ト爲ス

第六條 地價ヲ定メ又ハ地價ヲ修正スルトキハ地盤ヲ丈量ス

第七條 地價ハ左ノ場合ニ該當スルニ非サレハ之ヲ修正セス

一 地目又ハ地類ヲ變換シタルトキ

二 開墾シタルトキ

三 開拓墾下年期明ニ至リタルトキ



四 荒地免租年期明ニ至リ原地價ニ復シ難ク若クハ他ノ地目ニ變シタルトキ又ハ低價年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キトキ

第八條 一般ニ地價ノ改正ヲ要スルトキハ前以テ其旨ヲ布告スヘシ

第九條 地價ハ其地ノ品位等級ヲ詮定シ其所得ヲ審査シ尙ホ其土地ノ情況ニ應シ之ヲ定ム

第十條 地目ヲ變換シ又ハ地類ヲ變換シタルトキハ政府ニ届出ヘシ

第十一條 地租ヲ課スル土地ヲ地租ヲ課セサル土地ト爲シ又ハ地租ヲ課セサル土地ヲ地租ヲ課スル土地ト爲シタルトキハ政府ニ届出ヘシ但之ニ關シ豫メ政府ノ許可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲シタルモノニ付テハ此限ニ在ラス

第十六條 第四項ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十二條 地租ハ左ノ期限ニ依リ之ヲ徵收ス

一 宅地

第一期 其年七月一日ヨリ同七月三十一日限 地租額二分ノ一

第二期 翌年一年一日ヨリ同一月三十一日限 地租額二分ノ一

第三期 其年九月一日ヨリ同九月三十日限 地租額二分ノ一

第四期 翌年五月一日ヨリ同五月三十一日限 地租額四分ノ一

其他ノ土地

第一期 其年九月一日ヨリ同九月三十日限 地租額二分ノ一

第二期 其年十一月一日ヨリ同十一月三十日限 地租額二分ノ一

特殊ノ事情アル地方ニシテ前項ノ納期ニ依リ難キモノニ付テハ命令ヲ以テ特別ノ納期ヲ設クルコトヲ得

第十三條 地租ハ左ニ掲クル者ヨリ之ヲ徵收ス

一 質權ノ目的タル土地ニ付テハ質權者

二 百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的タル土地ニ付テハ地上權者

三 其他ノ土地ニ付テハ所有者

前項ニ於テ質權者、地上權者、所有者ト稱スルハ土地臺帳ニ質權者、地上權者、所有者トシテ登録セラレタル者ヲ謂フ

第十四條 前項ニ於テ質權者地上權者所有者ト稱スルハ土地臺帳ニ質權者地上權者所有者トシテ登録セラレタル者ヲ謂フ地價ヲ修正シタル土地ニ付テハ其年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但其年ニ係ル地租ノ全部又ハ一部ノ納期開始後地價ヲ修正シタルトキハ翌年分地租ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第十五條 地租ヲ課スル土地ニシテ地租ヲ課セサル土地トナリタルトキハ其届出アリタル後又ハ其實

地租條例

二九一



ヲ認めタル後ニ開始スル納期ヨリ地租ヲ徴收セス  
地租ヲ課セサル土地ニシテ地租ヲ課スル土地トナリタルトキハ地價設定後ニ開始スル納期ヨリ地租ヲ徴  
收ス但地價設定後ニ開始スル納期ニ於テ前年分地租ヲ徴收スヘキ場合ニ於テハ其納期分ノ地租ハ之ヲ徴  
收セス

前二項ノ規定ハ荒地免租年期若クハ低價年期許可ノ場合又ハ荒地免租年期明若クハ新開免租年期明ノ場  
合ニ之ヲ準用ス

**第十六條** 開墾ヲ爲サムトスルトキハ政府ニ届出ヘシ前項ノ開墾地ハ開墾著手ノ年ヨリ二十一年目ニ其  
成功ノ部分ニ對シ地價ヲ修正ス但地類變換ヲ爲シタル後五年以内ニ開墾シタルモノニ在リテハ其成功ノ  
部分ニ對シ直ニ其地價ヲ修正ス

十年以内ニ成功シ能ハサル開墾ヲ爲サントスルトキハ政府ニ願出蹶下年期ノ許可ヲ受クヘシ  
蹶下年期ハ四十年トス但年期中ハ原地價ニ依リ地租ヲ徴收ス

官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ハ其素地相當ト認ムル所ノ地價ヲ定メ尙ホ二十年ノ蹶下年期ヲ許可  
ス但年期中ハ現定地價ニ依リ地租ヲ徴收ス

官有ノ水面ヲ埋立テ又ハ干拓シ民有ニ歸セシ土地ハ六十年ノ新開免租年期ヲ許可ス  
地目ヲ變換スル爲メ開墾ニ等シキ勞費ヲ要スルモノハ本條第三項ニ準シ四十年ノ地價据置年期ヲ許可ス  
ルコトアルヘシ

**第十七條** 前條ニ依リ開墾ノ届出ヲ爲シタル土地又ハ開墾蹶下年期若クハ地價据置年期ノ許可ヲ受ケタ

ル土地ニシテ開墾成功シ又ハ地目變換シタルトキハ其旨政府ニ届出ヘシ此場合ニ於テハ其年ヨリ開墾又  
ハ變換シタル地目ニ依リ其地租ヲ徴收ス但其年ニ係ル地租ノ全部又ハ一部ノ納期開始後届出アリタルト  
キハ翌年分地租ヨリ開墾又ハ變換シタル地目ニ依リ其地租ヲ徴收ス  
前項ノ場合ニ於テ開墾又ハ變換地目ノ稅率カ舊地目ノ稅率ト同一ナラサルトキハ舊地目ニ對スル地租額  
ヲ開墾又ハ變換地目ノ稅率ヲ以テ除シ之ヲ開墾又ハ變換地目ニ對スル地價トシ修正地價ニ依リ地租ヲ徴  
收スルニ至ル迄其地價ニ依リ地租ヲ徴收ス

**第十八條** (廢止)

**第十九條** 蹶下年期明地据置年期明新開免租年期明ノトキ其地價ヲ定メ又ハ修正ス

**第二十條** 荒地ハ其被害ノ年ヨリ十五年以内免租年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス  
海嘯ノ爲潮水浸入シ作土ヲ損害シタルモノハ其狀況ニ依リ前項ニ準據スルコトアルヘシ

**第二十一條** 荒地免租年期明ニ至リ其地ノ現況原地價ニ復シ難キモノハ十五年以内七割以下ノ低價年期  
ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス

**第二十二條** 低價年期明ニ至リ尙ホ原地價ニ復シ難キモノ及ヒ荒地免租年期明ニ至リ原地目ニ復セス他  
ノ地目ニ變スルモノハ地價ヲ修正ス

**第二十三條** 免租年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルモノハ更ニ十五年以内免租繼年期ヲ定ム其年期  
明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ第二十一條、第二十二條ニ依リ處分ス

**第二十四條** 川成、海成、湖水成ニシテ免租年期明ニ至リ原形ニ復シ難キモノハ更ニ二十年以内免租繼



年期ヲ許可ス其年期明ニ至リ尙ホ原地ニ復セス他ノ地目ニ變セサルモノハ川、海、湖ニ歸スルモノトス  
第二十四條ノ二 收稅官吏ハ土地ノ檢査ヲ爲シ又ハ納稅義務者若クハ所有者ニ對シ必要ノ事項ヲ尋問スルコトヲ得

第二十五條 土地ヲ欺隱シ地租ヲ遁脫スル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ現地目ニ依リ地價ヲ定メ欺隱年間ノ地租ヲ追徵ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルコトヲ得ス

第二十六條 第十一條ニ違反スル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ且現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租ヲ追徵ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルコトヲ得ス

第二十七條 第十條第一項、第十六條第一項ニ違反スル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス其開墾ノ届出ヲ爲ササルモノハ現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租増額ヲ追徵ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルコトヲ得ス

第二十八條 第二十五條以下ノ所犯借地人、小作人ノ所爲ニ係リ所有主其情ヲ知ラサルトキハ其借地人、小作人ヲ罰シ地租ハ所有主ヨリ追徵ス

第二十九條 第二十五條、第二十六條、第二十七條、第二十八條ノ刑ニ當ル者自首スルトキハ其罰金料料ヲ免ス但其追徵スヘキ地租ハ仍ホ之ヲ納メシム

附 則

本法施行期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前第十六條第一項ノ届出ヲ爲シ又ハ同條第三項乃至第六項ノ許可ヲ受ケタル土地ニ關シテハ仍ホ

従前ノ例ニ依ル

◎地租條例施行規則

(明治四十三年十二月二日勅令第四四四號) 改正 (大正八年五月十一日勅令第二六三號)

第一條 土地ニハ番號ヲ附シ每筆其ノ地價ヲ定ム

第二條 一筆ノ土地ハ其ノ一部分左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ之ヲ分割ス

一 別地目ト爲ルトキ

二 地租ヲ課スル土地ニシテ地租ヲ課ゼサル土地ト爲ルトキ

三 地租ヲ課セサル土地ニシテ地租ヲ課スル土地ト爲ルトキ

四 所有者ヲ異ニスルトキ

五 質權ノ目的ト爲ルトキ

六 百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的ト爲ルトキ

七 行政區劃ヲ異ニスルトキ

第三條 開墾著手後二十年以内又ハ開墾蹴下年期中ニ於テ地目ヲ變換シタルトキハ開墾ハ之ヲ廢止シタルモノトス

第四條 地租條例第十七條ノ規定ニ依リ開墾地目ニ組換ヘタル土地若ハ官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ニシテ開墾著手後二十年以内若ハ蹴下年期中地類ヲ變換シタルトキ又ハ地租條例第十七條ノ規定ニ依リ變換地目ニ組換ヘタル土地ニシテ地價据置年期中地類ヲ變換シ若ハ變換前ノ地目ト同一ノ地目ニ變



換シタルトキハ直ニ其ノ地價ヲ修正ス

**第五條** 地租條例第十七條ノ規定ニ依リ開墾地目ニ組換ヘタル土地若ハ官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ニシテ開墾著手後二十年以内若ハ墾下年期中地目ヲ變換シタルトキ又ハ地租條例第十七條ノ規定ニ依リ變換地目ニ組換ヘタル土地ニシテ他價据置年期中變換前ノ地目ト異ナル地目ニ變換シタルトキハ地價ハ之ヲ修正セス

前項ノ場合ニ於テ變換地目ノ稅率カ舊地目ノ稅率ト同一ナラサルトキハ舊地目ニ對スル地租額ヲ變換地目ノ稅率ヲ以テ除シ之ヲ變換地目ニ對スル地價トシ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スルニ至ル迄其ノ地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

**第六條** 官有地ヲ開拓シ又ハ官有ノ水面ヲ埋立テ若ハ干拓シ民有ニ歸セシ土地ニ付墾下年期又ハ新開免租年期ノ許可ヲ請ハサルトキハ直ニ其地價ヲ定ム

**第七條** 荒地免租年期、免租繼年期又ハ低價年期中土地ノ形狀ヲ變更スルコトアルモ地目變換、地類變換又ハ開墾ト看做サス

**第八條** 他租條例第十六條第二項ノ場合ニ於テ開墾著手ノ年ヨリ二十一年目ニ成功セサル部分ノ土地ニ付テハ其ノ後成功シタル部分アル毎ニ其ノ地價ヲ修正ス

**第九條** 荒地免租年期、免租繼年期又ハ低價年期中再ヒ荒地ト爲リ免租年期ノ許可ヲ受ケタルトキハ前ニ受ケタル年期ハ消滅ス

**第十條** 地目變換、地類變換又ハ開墾ニシテ他ノ法令ニ依リ許可ヲ要スルモノハ其ノ許可ノ出願ヲ以テ

地租條例ニ依ル届出ト看做ス

**第十一條** 地租條例第十六條第三項、第六項又ハ第二十條ノ規定ニ依リ墾下年期、地價据置年期又ハ荒地免租年期ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ稅務署長ニ申請スヘシ

官有地ヲ開拓シ又ハ官有ノ水面ヲ埋立テ若ハ干拓シ民有ニ歸セシ土地ニ付墾下年期又ハ新開免租年期ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ民有ニ歸セシ後六十日以内ニ稅務署長ニ申請スヘシ

**第十二條** 地租條例第二十一條、第二十三條若ハ第二十四條ノ規定又ハ明治三十四年法律第三十號ニ依リ底價年期、荒地免租繼年期又ハ年期延長ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ年期滿了後六十日以内ニ稅務署長ニ申請スヘシ

**第十三條** 左ノ場合ニ於テハ土地ノ所有者又ハ納稅義務者ハ三十日以内ニ稅務署長ニ届出ツヘシ

一 地目ヲ變換シ又ハ地類ヲ變換シタルトキ  
二 開墾ニ著手シタルトキ、開墾成功シタルトキ、開墾ヲ廢止シタルトキ又ハ開墾ノ目的ヲ變更シタルトキ

三 地租ヲ課スル土地ヲ用惡水路、溜池、堤塘、井溝、水道用地、鐵道用地、軌道用地、運河用地若ハ公衆ノ用ニ供スル道路ト爲シタルトキ又ハ之カ供用ヲ廢止シタルトキ

四 地租ヲ課スル土地ヲ公用若ハ公共ノ用ニ供シ又ハ之カ供用ヲ廢止シタルトキ

五 地租ヲ課スル土地ヲ地租條例第四條第一項第二號ノ規定ニ依リ公用若ハ公共ノ用ニ供スヘキモノト定メタルトキ又ハ一年以内ニ公用若ハ公共ノ用ニ供セサルトキ



第十四條

一筆ノ土地ヲ分割シ又ハ數筆ノ土地ヲ合併セムトスルトキハ土地ノ所有者ハ稅務署長ニ届出ツヘシ

第十五條

左ノ場合ニ於テハ土地ノ所有者又ハ納稅義務者ハ年期限滿了後六十日內ニ稅務署長ニ届出ツヘシ

一 荒地免租年期ヲ有スル土地ニシテ其ノ年期明ニ至リ他ノ地目ニ變シタルトキ

二 低價年期又ハ免租繼年期ヲ有スル土地ニシテ其年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キトキ又ハ他ノ地目ニ變シタルトキ

ニ變シタルトキ

三 歇下年期、地價据置年期、新開免租年期ヲ有スル土地ニシテ年期明トナリタルトキ

第十五條ノ二

地價ヲ定メ又ハ修正スヘキ場合ニ於テハ土地ノ所有者又ハ納稅義務者ハ土地ノ測量圖及實地ノ狀況ニ依リ近傍ノ類地ト其ノ地力ヲ比較シ其ノ地價ヲ見積リタル書面ヲ稅務署長ニ差出スヘシ

第十六條

納稅義務者其ノ土地所在ノ市區町村內ニ住所又ハ居所ヲ有セサル時ハ地租ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲其ノ市區町村內ニ住所ヲ有スル者ヲ納稅管理人ト定メ其市區町村長又ハ戶長ニ届出ツヘシ前項ノ町村ト稱スルハ町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ戶長ノ職務ヲ行フ區域トス

附則

本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

土地臺帳規則

(明治二十二年三月二日)改(明治三十七年四月十三日勅令第三九號)正(勅令第一〇七號)

第一條 土地臺帳ハ地租ニ關スル事項ヲ登錄ス

第二條 市ノ土地臺帳ハ(府縣廳ニ於テ)町村ノ土地臺帳ハ(島廳郡役所)ニ於テ之ヲ設ケ其事務ヲ取扱フヘシ

第三條 (登記所ニ於テ土地所有ノ移轉及質入ノ登記ヲ爲シタルトキハ土地臺帳所管廳ニ通知スヘシ)

第四條 土地臺帳ノ謄本ヲ要スル者ハ土地一筆ニ付金五錢ノ割合ヲ以テ手数料ヲ納ムヘシ

第五條 地券ニ記載ノ事項異動ヲ生セサルモノハ其地券ヲ以テ前條ノ謄本ト見做スコトヲ得

第六條 本規則ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第七條 (市制ノ施行ニ至ラサル土地ニ於テハ區ニ屬スル土地臺帳ハ區役所ニ於テ其取扱ヲ爲スヘシ)

◎土地臺帳規則施行細則

(明治二十二年四月二日)改(明治三十四年一月同第二四號、三十七年三月同第六號、同年四月日大藏省令第六號)正(同第八號、三十八年三月同第一二號、三十九年五月同第二〇號)



- 第一條 土地臺帳ハ市町村ニ區別シ土地ノ字番號地目段別等級地價及所有者質取主又ハ百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル土地ノ地上權者ノ住所氏名ヲ登錄スヘシ
- 第二條 土地臺帳記載ノ所有者質取主又ハ地上權者ノ住所氏名ニ異動ヲ生スルトキハ其時々之ヲ届出ヘシ
- 第三條 土地臺帳ノ謄本ヲ請求セムトスルモノハ其請求書ニ手数料ヲ添ヘ市ハ〔府縣廳〕町村ハ〔島廳郡役所〕ニ申出ヘシ  
國有地、御料地ノ拂下、讓與、下渡ニ係ルモノニシテ未登記ノモノニ付テハ謄本ヲ下付セス  
謄本ハ郵便ヲ以テ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ返信料ニ相當スル郵便切手ヲ添送スルコトヲ要ス
- 第四條 土地臺帳ノ謄本ヲ請求シタルトキハ左ノ雛形ノ如ク記載シ之ヲ下付スヘシ

土地臺帳謄本	
郡市町村	大字 字 地番 地目
	ハ段別又 坪數 地價 事故 所有者住所氏名
年 月 日	何 稅 務 署 印

同一人ニシテ二筆以上ノ謄本ヲ請求シタルトキハ同一用紙ニ連記スルコトヲ得但シ請求者ニ於テ每筆各別ノ謄本ヲ請求シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條 土地所有權ノ移轉又ハ質權及地上權ノ設定、移轉、消滅若ハ地上權ノ期間ノ變更ハ登記所ヨリ通知アルニ非サレハ之ヲ登錄セス但シ國有地、御料地ノ拂下、讓與、下渡ニ因リ又ハ未登記土地ノ收用ニ因リ所有權ノ移轉シタル場合及未登記土地ノ國有ト爲リ又ハ河川法ニ依リ河川ノ敷地下爲リタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

相續ノ場合ニ於テ相續人カ未登記所有權ノ保存登記ヲ爲シタルトキハ保存登記ニ關スル登記所ノ通知ニ依リ所有權ノ移轉ヲ登錄ス

### 公有水面埋立法 (大正十年四月九日 法律第五號)

- 第一條 本法ニ於テ公有水面ト稱スルハ河、海、湖、沼其ノ他ノ公共ノ用ニ供スル水流又ハ水面ニシテ國ノ所有ニ屬スルモノヲ謂ヒ埋立ト稱スルハ公有水面ノ埋立ヲ謂フ  
公有水面ノ干拓ハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ埋立ト看做ス  
本法ハ耕地整理法ニ依ル溝渠又ハ溜池ノ變更ノ爲必要ナル埋立其ノ他勅令ヲ以テ指定スル埋立ニ付之ヲ適用セス
- 第二條 埋立ヲ爲サムトスル者ハ地方長官ノ免許ヲ受クヘシ
- 第三條 前條ノ免許ハ地方長官期間ヲ指定シテ地元市町村會ノ意見ヲ徵シ之ヲ爲スヘシ
- 第四條 地方長官ハ埋立ニ關スル工事ノ施行區域内ニ於ケル公有水面ニ關シ權利ヲ有スル者アルトキハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ヲ除クノ外埋立ノ免許ヲ爲スコトヲ得ス



一 其ノ公有水面ニ關シ權利ヲ有スル者埋立ニ同意シタルトキ  
 二 其ノ埋立ニ因リテ生スル利益ノ程度ガ損害ノ程度ヲ著シク超過スルトキ  
 三 其ノ埋立ガ法令ニ依リ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ノ爲必要ナルトキ

**第五條** 前條ニ於テ公有水面ニ關シ權利ヲ有スル者ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ  
 一 法令ニ依リ公有水面占用ノ許可ヲ受ケタル者  
 二 漁業權者又ハ入漁權者  
 三 法令ニ依リ公有水面ヨリ引水ヲ爲シ又ハ公有水面ニ排水ヲ爲ス許可ヲ受ケタル者  
 四 慣習ニ依リ公有水面ヨリ引水ヲ爲シ又ハ公有水面ニ排水ヲ爲ス者

**第六條** 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第四條ノ權利ヲ有スル者ニ對シ其ノ損害ノ補償ヲ爲シ又ハ其ノ損害ノ防止ノ施設ヲ爲スヘシ  
 漁業權者及入漁權者ノ前項ノ規定ニ依ル補償ヲ受ケル權利ハ共同シテ之ヲ有スルモノトス  
 第一項ノ補償又ハ施設ニ關シ協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ地方長官ノ裁定ヲ求ムヘシ

**第七條** 前條ノ規定ニ依リ漁業權者ニ對シ損害ノ補償ヲ爲スヘキ場合ニ於テ其ノ漁業權カ登録シタル先取特權又ハ抵當權ノ目的タルトキハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ補償ノ金額ヲ供託スヘシ但シ先取特權者又ハ抵當權者ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス  
 前項ノ規定ハ埋立ニ關スル工事ノ施行區域内ニ於ケル公有水面ニ付存スル漁業權又ハ入漁權カ訴訟ノ目

的タル爲訴訟當事者ヨリ請求アリタル場合ニ之ヲ準用ス  
 登録シタル先取特權若ハ抵當權ヲ有スル者又ハ訴訟當事者ハ前二項ノ規定ニ依ル供託金ニ對シテモ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

**第八條** 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ第六條ノ規定ニ依リ損害ノ補償ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ其ノ補償ヲ爲シ又ハ前條ノ規定ニ依ル供託ヲ爲シタル後ニ非サレハ第四條ノ權利ヲ有スル者ニ損害ヲ生スヘキ工事ニ着手スルコトヲ得ス但シ其ノ權利ヲ有スル者ノ同意ヲ得タルトキ又ハ地方長官ノ裁定シタル補償ノ金額ヲ供託シタルトキハ此ノ限ニ在ラス  
 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ第六條ノ規定ニ依リ損害防止ノ施設ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ其ノ施設ヲ爲シタル後ニ非サレハ第四條ノ權利ヲ有スル者ニ損害ヲ生スヘキ工事ニ着手スルコトヲ得ス但シ其ノ權利ヲ有スル者ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

**第九條** 第六條ノ規定ニ依リ損害ノ補償ヲ爲スヘキ漁業權ヲ目的トスル先取特權又ハ抵當權ヲ有スル者ハ前條第一項但書ノ規定ニ依ル供託金ニ對シテモ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

**第十條** 公有水面ノ利用ニ關シテ爲シタル施設ガ埋立ノ爲其ノ效用ヲ妨ケラルルトキハ地方長官ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ヲシテ其ノ施設ヲ爲シタル者ニ對シ之ニ代ルヘキ施設若ハ其ノ效用ヲ保全スル爲必要ナル施設ヲ爲サシメ又ハ損害ノ全部若ハ一部ヲ補償セシムルコトヲ得

**第十一條** 地方長官埋立ヲ免許シタルトキハ其ノ免許ノ日及其ノ事件ノ要領ヲ告示スヘシ

**第十二條** 地方長官ハ埋立ニ付免許料ヲ徵收スルコトヲ得



前項ノ免許料ノ徴收及歸屬ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

**第十三條** 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ埋立ニ關スル工事ノ著手及工事ノ竣功ヲ地方長官ノ指定スル期間内ニ爲スヘシ

地方長官正當ノ事由アリト認ムルトキハ前項ノ期間ノ伸長ヲ許可スルコトヲ得

**第十四條** 埋立ノ免許ヲ受ケタル者埋立ニ關スル測量又ハ工事ノ爲必要アルトキハ地方長官ノ許可ヲ受ケ他人ノ土地ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ一時材料置場トシテ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル立入又ハ使用ヲ爲サムトスル者ハ其ノ日時及場所ヲ少クトモ五日前ニ其ノ土地ノ市町村長ニ通知スヘシ

市町村長前項ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ其ノ旨土地ノ占有者ニ通知スヘシ通知スルコト能ハサルトキハ告示スヘシ

前三項ノ規定ハ埋立ノ免許ヲ受ケムトスル者ニ關シ之ヲ準用ス

**第十五條** 前條ノ規定ニ依ル立入又ハ使用ニ因リテ生シタル損害ハ其ノ立入又ハ使用ヲ爲シタル者之ヲ補償スヘシ

**第十六條** 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ埋立ヲ爲ス權利ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ依リ埋立ヲ爲ス權利ヲ讓受ケタル者ハ埋立ニ關スル法令又ハ之ニ基キテ爲ス處分若ハ其ノ條件ニ依リ讓渡人ニ生シタル權利義務ヲ承繼ス但シ第六條第一項、第十條又ハ前條ノ規定ニ依ル義務ハ

讓渡人及讓受人連帶シテ之ヲ負フ

**第十七條** 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ノ相續人ハ其ノ被相續人ノ有シタル埋立ヲ爲ス權利ヲ承繼ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

**第十八條** 埋立ヲ爲ス會社ノ發起人カ會社成立ノ後ニ於テ會社ノ爲ス埋立ニ付免許ヲ受ケタル場合ニ於テ會社成立シタルトキハ埋立ヲ爲ス權利其ノ他ノ埋立ニ關スル法令又ハ之ニ基キテ爲ス處分若ハ其ノ條件ニ依リ生シタル權利義務ハ會社之ヲ承繼ス

**第十九條** 埋立ノ免許ヲ受ケタル會社合併ニ因リテ消滅シタルトキハ埋立ヲ爲ス權利其ノ他ノ埋立ニ關スル法令又ハ之ニ基キテ爲ス處分若ハ其ノ條件ニ依リ生シタル權利義務ハ合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ成立シタル會社之ヲ承繼ス

**第二十條** 前三條ノ規定ニ依ル權利義務ヲ承繼シタル者ハ其ノ承繼ノ日ヨリ起算シ十四日內ニ地方長官ニ届出ツヘシ

**第二十一條** 第十六條乃至第十九條ノ規定ニ依ル權利義務ノ承繼アリタル場合ニ於テハ本法ノ適用ニ付テハ其ノ權利義務ヲ承繼シタル者ヲ以テ埋立ノ免許ヲ受ケタル者トス

**第二十二條** 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ埋立ニ關スル工事竣功シタルトキハ遲滞ナク地方長官ニ竣功認可ヲ申請スヘシ

**第二十三條** 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ前條ノ竣功認可前ニ於テ埋立地ヲ使用スルコトヲ得但シ埋立地ニ埋立ニ關スル工費用ニ非サル工作物ヲ設置セムトスルトキハ命令ヲ以テ指定スル場合ヲ除クノ外地方



長官ノ許可ヲ受クヘシ

**第二十四條** 第二十二條ノ竣功認可アリタルトキハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ竣功認可ノ日ニ於テ埋立地ノ所有權ヲ取得ス但シ公用又ハ公共ノ用ニ供スル爲必要ナル埋立地ニシテ埋立ノ免許條件ヲ以テ特別ノ定ヲ爲シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ埋立地ノ歸屬ニ付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

**第二十五條** 公共ノ用ニ供スル國有地ニシテ埋立ニ關スル工事ノ施行ニ因リ不用ニ歸シタルモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ有償又ハ無償ニテ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ之ヲ下付スルコトヲ得

**第二十六條** 前二條ノ規定ハ耕地整理法第十一條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

**第二十七條** 埋立地ニ關スル權利ノ設定又ハ讓渡ニ付テハ埋立ノ免許條件ヲ以テ地方長官ノ許可ヲ受クヘキ旨ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ埋立地ニ關スル處分ノ制限ヲ定メタル場合ニ於テハ地方長官ハ第二十二條ノ竣功認可ヲ爲シタル後遲滯ナク其ノ登記ヲ登記所ニ囑託スヘシ

不動産登記法第二百九條ノ規定ハ前項ノ登記ニ付之ヲ準用ス

地方長官登記シタル處分ノ制限ノ全部又ハ一部ヲ解除シタルトキハ遲滯ナク其ノ登記ノ抹消又ハ變更ヲ登記所ニ囑託スヘシ

**第二十八條** 前條第二項ノ登記ヲ爲シタル埋立地ニ關スル權利ノ設定又ハ讓渡ニシテ同條第一項ノ許可ヲ受クヘキモノハ其ノ許可ヲ受クルニ非サレハ效力ヲ生セス

**第二十九條**

前條ノ許可ヲ受ケ權利ヲ取得シタル者ヲ除クノ外第二十七條第二項ノ登記ヲ爲シタル埋立地ニ關スル權利ヲ取得シタル者ハ其ノ取得ノ日ヨリ起算シ十四日內ニ地方長官ニ届出ツヘシ

**第三十條**

地方長官ハ前二條ノ埋立地ニ關スル權利ヲ取得シタル者ニ對シ埋立ノ免許條件ノ範圍內ニ於テ義務ヲ命スルコトヲ得

**第三十一條**

第八條第一項ノ規定ニ依リ埋立ニ關スル工事ニ着手スルコトヲ得ル場合ニ於テハ地方長官ハ其ノ工事ノ施行區域內ニ於ケル公有水面ニ存スル工作物其ノ他ノ物件ノ除却ヲ其ノ所有者ニ命スルコトヲ得

**第三十二條**

左ニ掲ケル場合ニ於テハ埋立ニ關スル工事竣功認可前ニ限り地方長官ハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ對シ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リテ其ノ爲シタル免許其ノ他ノ處分ヲ取消シ其ノ效力ヲ制限シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ、埋立ニ關スル工事ノ施行區域內ニ於ケル公有水面ニ存スル工作物其ノ他ノ物件ヲ改築若ハ除却セシメ、損害ヲ防止スル爲必要ナル施設ヲ爲サシメ又ハ原狀回復ヲ爲サシムルコトヲ得

一 埋立ニ關スル法令ノ規定又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ

二 埋立ニ關スル法令ニ依ル免許其ノ他ノ處分ノ條件ニ違反シタルトキ

三 詐欺ノ手段ヲ以テ埋立ニ關スル法令ニ依ル免許其ノ他ノ處分ヲ受ケタルトキ

四 埋立ニ關スル工事施行ノ方法公害ヲ生スルノ虞アルトキ

五 公有水面ノ狀況ノ變更ニ因リ必要ヲ生シタルトキ

公有水面埋立法



六 公害ヲ除却シ又ハ輕減スル爲必要ナルトキ  
 七 前號ノ場合ヲ除クノ外法令ニ依リ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ノ爲必要ナルトキ  
 前項第七號ノ場合ニ於テ損害ヲ受ケタル者アルトキハ地方長官ハ同號ノ事業ヲ爲ス者ヲシテ損害ノ全部  
 又ハ一部ヲ補償セシムルコトヲ得

**第三十三條** 埋立ニ關スル工事竣功認可後埋立ニ關スル法令ニ依ル免許其ノ他ノ處分ノ條件又ハ第三十  
 條ノ規定ニ依リ命スル義務ニ違反スル者アルトキハ地方長官ハ其ノ違反ニ因リテ生シタル事實ヲ更正セ  
 シメ又ハ其ノ違反ニ因リテ生スル損害ヲ防止スル爲必要ナル施設ヲ爲サシムルコトヲ得

**第三十四條** 左ニ掲クル場合ニ於テハ埋立ノ免許ハ其ノ效力ヲ失フ但シ地方長官ハ宥恕スヘキ事由アリ  
 ト認ムルトキハ效力ヲ失ヒタル日ヨリ起算シ三月内ニ限り其ノ效力ヲ復活セシムルコトヲ得此ノ場合ニ  
 於テハ埋立ノ免許ハ始ヨリ其ノ效力ヲ失ハサリシモノト看做ス

一 免許條件ニ依リ埋立ニ關スル工事ノ實施設計認可ノ申請ヲ要スル場合ニ於テ申請ニ對シ不認可ノ處  
 分アリタルトキ又ハ免許條件ニ於テ指定スル期間内ニ申請ヲ爲ササルトキ

二 第十三條ノ期間内ニ埋立ニ關スル工事ノ着手又ハ工事ノ竣功ヲ爲ササルトキ  
 前項但書ノ規定ニ依リ免許ノ效力ヲ復活セシメタル場合ニ於テハ地方長官ハ免許條件ヲ變更スルコトヲ  
 得

**第三十五條** 埋立ノ免許ノ效力消滅シタル場合ニ於テハ免許ヲ受ケタル者ハ埋立ニ關スル工事ノ施行區  
 域内ニ於ケル公有水面ヲ原狀ニ回復スヘシ但シ地方長官ハ原狀回復ノ必要ナシト認ムルモノ又ハ原狀回

復ヲ爲スコト能ハスト認ムモノニ付埋立ノ免許ヲ受ケタル者ノ申請アルトキ又ハ催告ヲ爲スニ拘ラス其  
 ノ申請ナキトキハ原狀回復ノ義務ヲ免除スルコトヲ得

前項但書ノ義務ヲ免除シタル場合ニ於テハ地方長官ハ埋立ニ關スル工事ノ施行區域内ニ於ケル公有水面  
 ニ存スル土砂其ノ他ノ物件ヲ無償ニテ國ノ所有ニ屬セシムルコトヲ得

**第三十六條** 第三十二條第一項及前條ノ規定ハ埋立ノ免許ヲ受ケスシテ埋立工事ヲ爲シタル者ニ關シ之  
 ヲ準用ス

埋立ノ免許ヲ受ケスシテ埋立工事ヲ爲シタル者アル場合ニ於テ地方長官原狀回復ノ必要ナシト認ムルト  
 キハ埋立ノ追認ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ追認ノ日ニ於テ埋立ノ免許アリタルモノト看做ス  
 埋立ノ免許ニ關スル規定ハ前項ノ埋立ノ追認ニ關シ之ヲ準用ス

**第三十七條** 地方長官第六條第三項ノ裁定ヲ爲シ又ハ第十條若ハ第三十二條第二項ノ規定ニ依ル補償ヲ  
 爲サシムル場合ニ於テ鑑定人ノ意見ヲ聞キタルトキハ其ノ鑑定ニ要スル費用ハ第三十二條第二項ノ場合  
 ニ於テハ同項ノ事業ヲ爲ス者其ノ他ノ場合ニ於テハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ノ負擔トス

**第三十八條** 第十二條ノ免許料ニシテ國ニ歸屬スルモノ及前條ノ鑑定ニ要スル費用ハ地方長官國稅滯納  
 處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス

**第三十九條** 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス  
 一 埋立ノ免許ヲ受ケスシテ埋立工事ヲ爲シタルモノ  
 二 詐欺ノ手段ヲ以テ埋立ニ關スル法令ニ依ル免許其ノ他ノ處分ヲ受ケタルモノ



三 埋立ニ關スル法令ニ依ル免許其ノ他ノ處分ノ條件ニ違反シ公有水面ノ公共ノ利用ヲ妨害シタルモノ  
第四十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二十三條但書ノ規定ニ違反シ工作物ヲ設置シタルモノ  
二 第二十七條第二項ノ登記ヲ爲シタル埋立地ニ於テ埋立ニ關スル法令ニ依ル免許其ノ他ノ處分ノ條件ニ違反シ工事ヲ爲シタル者

三 第三十條ノ規定ニ依リ命スル義務ニ違反シ埋立地ニ於テ工事ヲ爲シタル者

第四十一條 第二十條又ハ第二十九條ノ規定ニ依ル届出ヲ怠リタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十二條 國ニ於テ埋立ヲ爲サムトスルトキハ當該官廳地方長官ノ承認ヲ受クヘシ

埋立ニ關スル工事竣功シタルトキハ當該官廳直ニ地方長官ニ之ヲ通知スヘシ

第三條乃至第十一條、第十四條、第十五條、第三十一條、第三十七條及第四十四條ノ規定ハ第一項ノ埋立ニ關シ之ヲ準用ス但シ第十四條ノ規定ノ準用ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受クヘキ場合ニ於テハ之ニ代ヘ地方長官ニ通知スヘシ

第四十三條 地方長官ハ公共ノ用ニ供スル爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ國ニ於テ埋立ヲ爲シタル埋立地ノ一部ヲ公共團體ニ歸屬セシムルコトヲ得

第四十四條 第六條第三項ノ規定ニ依ル補償ノ裁定ニ不服アル者ハ其ノ裁定書ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ起算シ六月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ訴訟シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ス

第四十五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政廳ノ爲シタル處分ニ不服アル者ハ訴訟スルコトヲ得

本法ニ依リ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴訟スルコトヲ得ス

第四十六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政廳ノ爲シタル違法處分ニ因リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第四十七條 本法ニ依リ地方長官ノ職權ニ屬スル事項ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受ケシムルコトヲ得

第四十八條 本法ニ依リ地方長官ノ職權ニ屬スル事項ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ輕易ナルモノニ限り下級行政廳ニ之ヲ委任スルコトヲ得

第四十九條 本法中市會又ハ市長ニ關スル規定ハ北海道〔區〕制又ハ沖繩縣〔區〕制ニ依ル〔區〕ニ付テハ〔區〕會又ハ區長ニ關シ之ヲ適用ス

本法中町村會又ハ町村長ニ關スル規定ハ町村制ヲ施行セサル地ニ付テハ町村會又ハ町村長ニ準スルモノニ關シ之ヲ適用ス

第五十條 本法ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ公有水面ノ一部ヲ區劃シ永久的設備ヲ築造スル場合ニ之ヲ準用ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

公有水面埋立法



本法施行前爲シタル處分及之ニ附シタル條件ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ抵觸セサル限り本法ニ依リ爲シタル處分及之ニ附シタル條件ト看做ス但シ地方長官ハ公益上必要アリト認ムルトキハ本法施行ノ日ヨリ起算シ三月内ニ限り第三十二條ノ規定ニ拘ラス處分ニ附シタル條件ヲ變更シ又ハ處分ニ條件ヲ附スルコトヲ得  
地方長官ニ對スル申請其他ノ埋立ニ關スル手續ニシテ本法施行前爲シタルモノハ本法ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

◎公有水面埋立法施行期日ノ件 (大正十一年四月八日 勅令第一九三號)

公有水面埋立法ハ大正十一年四月十日ヨリ之ヲ施行ス

◎公有水面埋立法施行令 (大正十一年四月八日 勅令第一九四號)

第一條 公有水面埋立法第一條第三項ノ規定ニ依リ左ノ通指定ス

都市計畫法第十二條ノ土地區劃整理トシテ施行スル溝渠又ハ溜池ノ變更ノ爲必要ナル埋立

第二條 埋立ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル願書ヲ地方長官ニ提出スヘシ此ノ場合ニ於テ埋立ニ關スル工事ノ施行區域カ數府縣ニ互ルトキハ關係地方長官宛ニテ同一願書ヲ各地方長官ニ提出スヘシ

一 出願人ノ住所職業及氏名尙埋立ヲ爲ス會社ノ發起人カ會社ノ爲ス埋立ニ付願書ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

二 埋立ノ場所及其ノ面積

三 埋立ノ目的

四 埋立ニ關スル工事ノ着手及竣功ニ付指定ヲ受ケムトスル期間尙埋立ニ關スル工事ノ施行區域ヲ分割シ各區域ニ付異ル竣功期間ノ指定ヲ受ケムトスルトキハ其ノ區分及事由ヲ記載スヘシ  
前項ノ願書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添付スヘシ

一 埋立ニ關スル工事ノ計畫說明書

二 埋立ニ關スル費用ノ明細書

三 公有水面埋立法第四條ノ權利ヲ有スル者アルトキハ其同意ヲ證スル書面其ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事由書

四 公有水面ノ利用ニ關シテ爲シタル施設ニシテ埋立ノ爲其ノ效用ヲ妨ケラルヘキモノアルトキハ其ノ施設ノ種類及其ノ施設ヲ爲シタル者ヲ記載シタル書面

五 一般平面圖、實測平面圖、求積平面圖、縱斷面圖、橫斷面圖及工作物構造圖但シ埋立ニ關スル工事簡易ナル場合ニ於テハ縱斷面圖、橫斷面圖及工作物構造圖ハ之ヲ省略スルコトヲ得

六 海面ノ埋立ニ在リテハ前各號ニ掲クルモノノ外埋立ニ關スル工事ノ施行區域ヲ記載シタル海軍海圖又ハ其ノ謄寫圖ニ通

第三條 埋立出願人ハ出願名義ノ變更ヲ爲スコトヲ得其ノ變更ハ屆書ニ新出願人ニ關スル前條第一項第一號ニ掲クル事項ヲ記載シ新舊出願人ヨリ連名ニテ地方長官ニ之ヲ届出ツルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス



出願人死亡シタルトキハ其ノ相續人ハ被相續人ノ出願ヲ承繼スルコトヲ得其ノ承繼ハ相續人ヨリ届書ニ其ノ住所、職業及氏名ヲ記載シ相續開始ノ日ヨリ起算シ三月以内ニ地方長官ニ之ヲ届出ツルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

數人ノ相續人前項ニ規定スル承繼ノ届出ヲ爲シタルトキハ之ヲ共同出願人トス

第二項ノ規定ハ埋立ヲ爲ス會社カ其ノ發起人ノ爲シタル出願ヲ承繼スル場合又ハ會社ノ合併ノ場合ニ於テ合併後存續スル會社若ハ合併ニ因リテ成立シタル會社カ合併ニ因リテ消滅シタル會社ノ出願ヲ承繼スル場合ニ之ヲ準用ス但シ相續開始ノ日トアルハ設立又ハ合併ノ登記ノ日トス

**第四條** 地方長官ハ埋立區域ヲ制限シテ其ノ出願ヲ免許スルコトヲ得

第五條ノ場合ニ於テ埋立區域ヲ制限シ二以上ノ埋立ヲ併立セシメ得ルトキ亦前項ニ同シ

**第五條** 同一區域ニ互ル埋立ノ出願ニシテ免許シ得ヘキモノ數件アルトキハ公益上及經濟上ノ價值最モ大ナルモノヲ免許スヘシ

前項ノ事情ニ優劣ナキトキハ先ツ沿岸土地所有者ノ出願ニ係ル埋立ニシテ其ノ土地ノ利用ニ著シキ關係アルモノ、次ニ出願受理ノ日先ナルモノヲ免許スヘシ

前二項ノ規定ハ先願ヲ受理シタル日ヨリ起算シ六月ヲ經過シ又ハ地元市町村會ニ諮問ヲ發シタル後ニ受理シタル出願ニ付テハ之ヲ適用セス

**第六條** 地方長官埋立ノ免許ヲ爲サムトスルトキハ第二條第一項第一號乃至第三號ニ掲クル事項及埋立ニ關スル工事ノ計畫ノ要領ヲ具シ三月以内ノ期間ヲ指定シテ地元市町村會ノ意見ヲ徵スヘシ

**第七條** 地方長官ハ埋立ニ關スル法令ニ規定スルモノノ外埋立ノ免許ニ公益上又ハ利害關係人ノ保護ニ關シ必要ト認ムル條件ヲ附スルコトヲ得

**第八條** 公有水面埋立法第四條ノ權利ヲ有スル者ハ同法第十一條ノ規定ニ依ル告示アリタル後爲シタル公有水面ノ利用ニ關スル施設ニ付テハ埋立ニ因リテ生スル損害ノ防止ノ施設又ハ其ノ損害ノ補償ヲ請求スルコトヲ得但シ特別ノ事由アル場合ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受ケテ爲シタル施設ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

**第九條** 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ公有水面埋立法第四條ノ權利ヲ有スル者ノ受クヘキ損害ニシテ防止スルコトヲ得ルモノニ付テハ其ノ損害ノ防止ノ施設ヲ爲スヘシ但シ當事者間ニ於テ協議調ヒタルトキ又ハ其ノ施設ノ費用カ損害ノ程度ヲ著シク超過スルモノナルトキハ損害ノ補償ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ公有水面埋立法第四條ノ權利ヲ有スル者ノ受クヘキ損害ニシテ前項ノ施設ニ依リ防止スルコト能ハサルモノニ付テハ其ノ損害ノ補償ヲ爲スヘシ前項ノ施設ヲ爲スモ尙損害アル場合ニ於テ其ノ損害ニ付亦同シ

前二項ノ施設又ハ補償ハ埋立ニ因リ通常生スヘキ損害ニ付テノミ之ヲ爲スヘシ

**第十條** 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ前條ノ施設又ハ補償ニ關シ公有水面埋立法第四條ノ權利ヲ有スル者ト協議ヲ爲スヘシ

前項ノ協議調ヒタルトキハ當事者ハ連名ニテ協議調ヒタル日ヨリ起算シ十四日以内ニ其ノ願末ヲ地方長官ニ届出ツヘシ



**第十一條** 前條ノ協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ地方長官ニ對シ裁定ノ申請ヲ爲スヘシ  
裁定ノ申請書ニハ申請ノ目的及事由ヲ記載シ協議調ハサルトキハ其ノ願末書、協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ事由書ヲ添附ヘシ

**第十二條** 地方長官ハ前條ノ申請ヲ受理シタルトキハ公有水面埋立法第四條ノ權利ヲ有スル者ニ對シ申請ノ要領及指定スル期間内ニ意見書ヲ差出スヘキ旨ヲ告知スヘシ但シ告知スルコト能ハサル場合ニ於テハ告示ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

前項ノ期間内ニ意見書ヲ差出ササルトキハ地方長官ハ之ヲ俟タスシテ裁定ヲ爲スコトヲ得  
**第十三條** 地方長官ハ裁定ヲ爲シタルトキハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者及公有水面埋立法第四條ノ權利ヲ有スル者ニ裁定書ノ謄本ヲ交付スヘシ但シ裁定書ノ謄本ヲ交付スルコト能ハサルトキハ其ノ要領ノ告示ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

**第十四條** 第八條及第九條第一項第二項ノ規定ハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ヲシテ公有水面埋立法第十條ノ規定ニ依ル施設又ハ補償ヲ爲サシムル場合ニ之ヲ準用ス

**第十五條** 公有水面埋立法第十條ノ規定ニ依ル施設又ハ補償ヲ求メムトスル者ハ其ノ目的及事由ヲ具シ地方長官ニ同條ノ規定ニ依ル處分ノ申請ヲ爲スヘシ  
地方長官ハ前項ノ申請ヲ受理シタルトキハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ對シ申請ノ要領及指定スル期間内ニ意見書ヲ差出スヘキ旨ヲ告知スヘシ

前項ノ期間内ニ意見書ヲ差出ササルトキハ地方長官ハ之ヲ俟タスシテ處分ヲ爲スコトヲ得  
地方長官ハ申請ヲ理由アリト認メタルトキハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ對シ相當ノ期間ヲ指定シテ施設又ハ補償ヲ命シ且申請者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ  
地方長官ハ第一項ノ申請ナキ場合ト雖必要アリト認ムルトキハ前三項ノ規定ニ準シ施設又ハ補償ヲ命スルコトヲ得

**第十六條** 地方長官ハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ歸屬スヘキ埋立地ノ價額ノ百分ノ三ヲ埋立ノ免許料トシテ徵收スヘシ

埋立地ノ價額ハ埋立ノ免許ノ日ヲ標準トシ比隣ノ土地ノ價格ヲ參酌シテ地方長官之ヲ認定ス  
**第十七條** 公共團體ノ爲ス埋立、祭祀宗教慈善學術技藝其ノ他ノ公益事業ニシテ營利ヲ目的トセサルモノノ用ニ供スル目的ヲ以テ爲ス埋立又ハ土地ノ農業上ノ利用ヲ増進スル目的ヲ以テ爲ス埋立ニ付テハ免許料ヲ徵收スルコトヲ得ス

公共團體ノ爲ス埋立ヲ除クノ外埋立竣功認可後十年以内ニ其ノ埋立地ノ利用方法ヲ變更シタルトキハ前條ノ例ニ依リ免許料ヲ徵收ス但シ埋立地ノ價額ニ付テハ其ノ利用方法變更ノ日ヲ標準トス

前項ニ規定スル埋立地利用方法ノ變更ヲ爲シタル者ハ遲滞ナク地方長官ニ之ヲ届出ツヘシ  
**第十八條** 免許料ハ國庫ノ收入トス但シ地方公共團體カ修築又ハ維持ノ費用ヲ現ニ支出シ又ハ支出シタル河川、港灣其ノ他ノ公有水面ノ埋立ニ付テハ地方長官ハ其ノ免許料ノ全部又ハ一部ヲ其ノ地方公共團體ニ歸屬セシムルコトヲ得



前項但書ノ規定ニ依リ免許料ヲ歸屬セシムル地方公共團體及其ノ歸屬ノ割合ハ地方長官之ヲ定メ且其ノ地方公共團體及埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ之ヲ通知スヘシ

**第十九條** 免許料ハ埋立ノ免許ノ日ヨリ起算シ一月以内ニ之ヲ納付スヘシ但シ其ノ半額ニ付テハ地方長官ハ竣功期間内ニ於テ其ノ定ムル期限迄ニ之ヲ納付セシムルコトヲ得

免許料ノ額及前項但書ノ規定ニ依ル納付期限ハ免許條件ヲ以テ之ヲ定ムヘシ  
第十七條第二項ノ規定ニ依リ免許料ヲ徴收スル場合ニ於テハ地方長官ハ免許料ノ額及納付期限ヲ定メ之ヲ告知スヘシ

**第二十條** 埋立ノ免許ヲ受ケタル者埋立ニ關スル工事ノ著手又ハ竣功ヲ爲スヘキ期間ノ伸長ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ事由及伸長ノ期間ヲ具シ期間滿了ノ日ヨリ起算シ少クトモ二週間前ニ之ヲ申請スヘシ

**第二十一條** 公有水面埋立法第十四條ノ規定ニ依ル立入ハ邸内ニ付テハ日出前日没後ハ占有者ノ意ニ反シテ之ヲ爲スコトヲ得ス

**第二十二條** 公有水面埋立法第十四條ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケムトスルトキハ立入又ハ使用ヲ爲スヘキ土地ノ所在、區域及現況、所有者及占有者ノ住所及氏名立入又ハ使用ノ目的、時期及期間ヲ記載シタル願書ニ圖面ヲ添ヘ地方長官ニ出願スヘシ

**第二十三條** 公有水面埋立法第十四條第三項ノ規定又ハ同項ノ規定ノ準用ニ依ル通知又ハ告示ハ少クトモ三日前ニ之ヲ爲スヘシ

**第二十四條**

公有水面埋立法第十六條ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ願書ニ埋立ヲ爲ス權利ヲ讓受クル者ニ關スル第二條第一項第一號ニ掲クル事項ヲ記載シ埋立ノ免許ヲ受ケタル者及埋立ヲ爲ス權利ヲ讓受クル者ヨリ連名ニテ出願スヘシ

地方長官ハ公有水面埋立法第十六條ノ許可ヲ爲シ又ハ同法第二十條ノ規定ニ依ル届出ヲ受理シタルトキハ埋立ヲ爲ス權利ノ讓渡又ハ承繼アリタルコト及埋立ヲ爲ス權利ヲ讓受ケタル者又ハ承繼シタル者ニ關スル第二條第一項第一號ニ掲クル事項ヲ告示スヘシ

**第二十五條**

竣功認可ノ申請書ニハ實測平面圖及求積平面圖ヲ附添スヘシ

**第二十六條**

公有水面埋立法第二十三條ノ規定ニ依リ左ノ通指定ス  
一 耕地整理法ニ依リ施行スル工作物ノ設置  
二 開墾助成法ニ依リ助成金ヲ受ケテ施行スル埋立ニ係ル土地ノ利用ニ關シ必要ナル工作物ノ設置  
三 簡易ナル一時的的工作物ノ設置

**第二十七條**

公有水面埋立法第二十四條第一項但書ノ埋立地ハ國ニ於テ必要ナルモノヲ除クノ外公共團體ニ歸屬ス

**第二十八條**

前項ノ規定ニ依ル歸屬ハ地方長官埋立ノ免許條件ヲ以テ之ヲ指定スヘシ  
公共團體ハ竣功認可ノ日ニ於テ前條ノ規定ニ依リ之ニ指定セラレタル埋立地ノ所有權ヲ取得ス

**第二十九條**

公共ノ用ニ供スル國有地ニシテ埋立ノ免許ヲ受ケタル者カ埋立ニ關スル工事トシテ其ノ國公有水面埋立法



有地ト同一又ハ同種ノ用途ニ供スル工作物ヲ施設シタルニ因リ不用ニ歸シタルモノハ其ノ工作物ヲ構成スル土地及物件ヲ無償ニテ國ニ歸屬セシムル場合ニ限リ無償ニテ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ之ヲ下附ス前項ノ場合ヲ除クノ外公共ノ用ニ供スル國有地ニシテ埋立ニ關スル工事ノ施行ニ因リ不用ニ歸シタルモノハ有償ニテ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ之ヲ下附スルコトヲ得

**第三十條** 本令ハ國ニ於テ埋立ヲ爲ス場合ニ公有水面埋立法第四十二條第三項ノ規定ニ依ル準用ノ範圍内ニ於テ之ヲ準用ス

**第三十一條** 第二十七條第二項及第二十八條ノ規定ハ國ニ於テ埋立ヲ爲シタル埋立地ノ一部ヲ公共ノ用ニ供スル爲必要アルトキ公共團體ニ歸屬セシムル場合ニ之ヲ準用ス

**第三十二條** 左ニ掲クル事項ニ付テハ地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一 第四條第二項又ハ第五條ノ場合ニ於ケル埋立ノ免許又ハ其ノ拒否

二 内務大臣ノ指定スル河川ノ埋立ノ免許

三 前號ノ河川ノ流域ニ於ケル水面又ハ其ノ河川ノ河口附近ニ於ケル海面ノ埋立ノ免許但シ其ノ河川ニ著シク影響ヲ及ホスノ虞ナキ埋立ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

四 内務大臣ノ指定スル港灣ノ埋立ノ免許

五 海峽、掘割其ノ他ノ狹水道ニ於ケル埋立ニシテ航路、潮流、水流若ハ水深又ハ艦船ノ航行碇泊ニ影響ヲ及ホスノ虞アルモノノ免許

- 六 潮流、水流、水深、水質又ハ底質ニ影響ヲ及ホシ重要水産動植物ノ蕃殖ヲ著シク害スルノ虞アル埋立ノ免許
- 七 埋立ノ面積五十町歩ヲ超ユル埋立ノ免許
- 八 第十八條ノ規定ニ依リ免許料ヲ歸屬セシムル地方公共團體及其ノ歸屬ノ割合ヲ定ムルコト
- 九 公有水面埋立法第三十六條第二項ノ埋立ノ追認

◎公有水面埋立法施行令第三十二條第一項

第二號及第四號ニ依ル河川港灣指定ノ件(大正十一年四月八日)  
(内務省告示第八〇號)

公有水面埋立法施行令第三十二條第一項第二號及第四號ニ依リ左ノ河川及港灣ヲ指定ス

利根川	荒川 <small>(東京 埼玉)</small>	中川	多摩川
淀川	由良川	大和川	相模川
酒匂川	鶴見川	加古川	圓山川
信濃川	阿賀野川	關川	那珂川
久慈川	新宮川	紀ノ川	木曾川
鈴鹿川	揖斐川	矢作川	庄内川
豐川	天龍川	富士川	狩野川

公有水面埋立法



安倍川 神通川 鳴瀬川 岩木川 北川 小矢部川 日野川 旭川 佐波川 肱川 筑後川 綠川 大淀川

函館港 根室港 岩内港 大坂港

大井川 北上川 馬淵川 最上川 手取川 黒部川 斐伊川 吉井川 吉野川 仁淀川 矢部川 白川 川内川

宝蘭港 網走港 東京港 堺港

菊川 阿武隈川 相坂川 雄物川 常願寺川 千代川 郷川 芦田川 那賀川 渡野川 大野川 菊池川 肝屬川

釧路港 稚内港 舞鶴港 岸和田港

太田川(静岡) 名取川 米代川 九頭龍川 庄川 天神川 高梁川 太田川(廣島) 土器川 遠賀川 大分川 球磨川

小樽港 留萌港 宮津港 横濱港

横須賀港 尼ヶ崎港 洲本港 殿原港 夷市港 四日市港 名古屋港

下田港 宮古港 土崎港 小濱港 魚津港 松江港(馬潟ヲ含ム)

浦賀港 明石港 長崎港 新潟港 木更津港 津港 武豊港 鹽釜港 釜石港 船川港 三國港 境港 玉島港 糸崎港 和歌山港 多度津港

平坂、大濱、新川、田ヲ含ム(花淵ヲ含ム)

神戸港 高砂港 高保港 佐世保港 直江津港 館山港 鳥羽港 福江港 荻濱港 青森港 能代港 七尾港 米子港 宇野港 吳島港 徳島港 今治港

北條ヲ含ム

西ノ宮港 飾磨港 口ノ津港 柏崎港 銚子港 神社港 清水港 石巻港 酒田港 敦賀港 伏木港 濱田港 宇品港 下關港 小松島港 寧和島港



八幡濱港	三洲濱港 <small>(高濱ヲ含ム)</small>	長濱港	浦戸港
門司港	博多港	若松港	小倉港
三池港	大分港	臼杵港	伊萬里港
唐津港 <small>(唐津西ヲ含ム)</small>	住ノ江港	三角港	細島港
内海港	鹿兒島港	古港	那覇港

第三十三條

公有水面埋立法第五十條ノ規定ニ依リ同法ヲ準用スヘキ場合左ノ如シ

一 水産物養殖場ノ築造

二 乾船渠ノ築造

本令ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一項ノ規定ニ依ル築造ノ免許ニ付テハ地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十四條

埋立ノ免許ヲ受ケタル者數人ナルトキハ本令ノ定ムル所ニ依リ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ノ負擔スル義務ハ連帶シテ之ヲ負フモノトス

第三十五條

埋立ニ關スル工事ノ施行區域カ數府縣ニ亘ル場合ニ於テハ埋立ニ關スル法令中地方長官ノ職權ニ屬スル事項ハ關係地方長官共同シテ之ヲ行フ但シ利害ノ關係スル所一府縣ノ區域ニ止ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條

本令ニ於テ住所、職業及ヒ氏名ト稱スルハ法人ニ在リテハ主タル事務所ノ所在地、法人ノ目的及名稱ヲ謂フ

第三十七條 本令中市會ニ關スル規定ハ北海道(區)制ニ依ル(區)ニ付テハ(區)會ニ、町村會ニ關スル規定ハ町村制ヲ施行セサル地ニ付テハ町村會ニ準スルモノニ關シ之ヲ適用ス

附 則

本令ハ公有水面埋立法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

官ニ屬スル公有水面埋立並使用ニ關スル件

(明治二十三年十月二十)改(明治二十六年) (明治三十一年) (明治四十年) (日內務省訓令第三六號) 正第 二一 號 (第 五 號) (第一四號)

第一條、第二條、第三條、第四條、第五條、第六條、(公有水面埋立法ノ施行ニ依リ消滅)

第七條 舊慣ニヨリテ捕魚採藻ノ業ヲ營ムノ外公有ノ水面又ハ河川敷地ヲ其ノ儘使用センコトヲ出願スルモノアルトキハ前々條ノ例ニ準シ命令書ヲ下附シテ之ヲ免許ス可シ但本條ノ場合ニ於テハ相當ノ料金ヲ國庫ニ納メシム可シ

第八條 (公有水面埋立法ノ施行ニ依リ消滅)

第九條 水上ノ取締ニ關スル規則ニヨリテ公有水面ノ使用ヲ許スノ類ハ命令書ヲ下附スルニ及ハス又使用料ヲ納メシムルニ及ハス公共ノ障礙ナキニ於テハ無料使用ヲ許スコトヲ得

第十條、第十一條、第十二條 (公有水面埋立法ノ施行ニ依リ消滅)

第十三條 公有水面ノ埋立使用及河川敷地ノ使用ハ特ニ其ノ處分ヲ委任セシモノ及第九條ヲ除クノ外總テ意見ヲ具シ地



圖ヲ添へ本大臣ニ稟議スヘシ但公有水面ニシテ使用ノ慣行アルモノニ限り地方ノ狀況ニ依リ特ニ其ノ處分ヲ委任スルコトアルヘシ

其ノ本大臣ノ指令ヲ得テ下附シタル命令書、設計書、圖面ハ亦本大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ變更スルコトヲ得ス

◎公有水面埋立使用免許權ヲ擔保貸付又ハ他ニ移

スコトヲ出願スル者アルトキ取扱方ノ件(明治二十七年十一月二日) 內務省訓令第八一二號

公有水面埋立並使用免許權ヲ擔保貸付又ハ賣買相續等ニ依リ他ニ移スコトヲ出願スル者アルトキハ其ノ埋立又ハ使用ニ付テハ既ニ本大臣ノ許可シタルモノナルカ故ニ更ニ其ノ點ニ就キ稟申スルノ必要モ無之單ニ權利ヲ繼承スルモノニ於テ埋立事業ヲ成功シ得ルヤ否ヤ若ハ尙ホ繼續シテ使用ヲ差許スモ不都合ナカルヘキ人物ナルヤ否ヲ調査スルヲ要スルニ過キサル場合ハ縣限篤ト其ノ人物如何ヲ調査ノ上相當處分セラルヘシ尤モ右ハ總テ之ヲ容易ニ許可スルノ意思ニハ無之特許權ヲ擔保貸付ニ供シ若ハ之ニ類スル行爲ニシテ特許ニ付其ノ權利義務ノ關係ヲシテ錯雜ナラシムルノ恐アルモノハ可成之ヲ許可セサルヘシ又相續ノ場合ノ如キ右ニ反シ特別ノ事情アルニ非サレハ其ノ許可ヲ拒ムヘキモノニ非ス又埋立人若ハ使用人ノ變更ニ付テハ當初下付セル命令書ノ條項ニ増減變更ヲ要スル義モ可有之且又從來下付シタル命令書ノ條項ニシテ其後本大臣ヨリ時々指示シタル處ニ違フノ點モ多々可有之ニ付其ノ邊篤ト調査ノ上曩ニ許可シタル要件ノ範圍内ニ於テ軌近指示ノ文例ニ倣ヒ不備ノ廉々ハ相當修補ヲ加ヘラルヘシ此ノ場合ニ於テハ明治二十三年當省訓令第三十六號第十三條第二項ニ依ルノ限ニアラサル義ト心得ラルヘシ

右訓令ス

◎沿海工事施行ノ際協議方ニ關スル件

(大正十二年七月四日) 內務省訓令第六八一號

第一條 公有水面埋立法施行令第三十二條及第三十三條ニ依リ本大臣ノ認可ヲ要スルモノニシテ左ニ掲ケル場合ハ豫メ

所管海軍鎮守府司令長官又ハ要港部司令官ト協議ヲ遂ケ其ノ顛末ヲ認可稟請書ニ記載スヘシ

一 公有水面埋立法施行令第三十二條第四號、第五號及第七號ノ海面ノ埋立

第二條 大正十一年五月內務省訓令第六號第二條ニ依リ本大臣ノ認可ヲ要スルモノハ豫メ所管海軍鎮守府司令長官又ハ要港部司令官ト協議ヲ遂ケ其ノ顛末ヲ認可稟請書ニ記載シ且ツ其ノ工事ノ位置ヲ記入シタル海軍海圖又ハ其ノ謄寫圖ニ

通テ添附スヘシ

第三條 前二條ニ依ルモノ、外海面ノ埋立、水產物養殖場及乾船渠ノ築造其ノ他ノ沿海工事ニシテ左ニ掲ケル場合ハ所

管海軍鎮守府司令長官又ハ要港部司令官ト協議ヲ遂ケ處分スヘシ

一 海軍省所管地又ハ建設物ニ接近シ若ハ之ニ關係テ及ホスヘキモノ

二 別表甲號區域内ニ於テ施行スルモノ

三 別表乙號區域(別表甲號區域ヲ除ク)内ニ於テ施行スルモノ但シ左ノ工事ニ付テハ此限ニ在ラス

一 漁業ノ爲ニスル築建設其ノ他區劃漁業ノ爲ニスル工作物ノ施設

一 棧橋並繫船杭ノ建設

公有水面埋立法



- 一 土砂ノ採取及浚渫
- 一 一時的工作物ノ施設
- 一 護岸工事

第四條 前條第三號但書ニ依リ處分シタルトキハ遲滯ナク其ノ要領ヲ所管海軍鎮守府司令長官又ハ要港部司令官ニ通知スヘシ

別表甲號

- 一 廣島灣及附近
- 周防國門前川口、伊豫國大館場島及安藝國下猫崎（猫瀬戸西北端）ヲ連ナル線以北ノ海岸及海面（海軍海圖第百號ノ乙參照）
- 一 徳山灣
- 徳山灣内ノ海岸及海面
- 一 中津（豊前國）沖附近
- 豊前國築島ト豊後國尾崎トヲ連ナル線以南ノ海岸及海面（海軍海圖第百號ノ乙參照）
- 一 下關海峽
- 西口ニ於テハ長門國柴鼻六連島及筑前國名護屋崎ヲ連ナル線以東、東口ニ於テハ長門國串崎、滿珠島及豊前國部岐ヲ連ナル線以西ノ海岸及海面（海軍海圖第百三十五號、第二百一號參照）
- 一 佐伯灣
- 小島（高一五八呎）ト宇戸島（高七五呎）トヲ連ナル線以南ノ海岸及海面（海軍海圖第百五十四號參照）

一 大村灣

大村灣内ノ海岸及海面

一 八代灣南部

八代灣内獅子島、湯口鼻、御所、浦島、元ノ尻、同島、桃木迫及大門崎ヲ連ナル線以南ノ海岸及海面（海軍海圖第百七十四號參照）

一 大島海峽

久慈灣内蛤崎ト佐榮崎トヲ連ナル線以北ノ海岸及海面（海軍海圖第二百二十五號參照）

一 若狹灣

丹後國經ヶ岬ト越前國立石崎トヲ連ナル線以南ノ海岸及海面（海軍海圖第百三十九號參照）

一 對馬中部

唐洲崎ト郷崎トヲ連ナル線以東、單崎ト名瀬崎トヲ連ナル線以南及黒島崎、折瀬鼻、綱掛崎大梶崎ヲ連ナル線以西ノ海岸及海面（海軍海圖第百七十三號參照）

別表乙號

一 根室港及附近

紅煙崎ノ北東約一里ノ岬角ヨリ厚岸鼻ニ至ル海岸及距岸二海里以内ノ海面（海軍海圖第二十五號參照）

一 室蘭港及附近

「ムイ」鼻ト「ボンシレ」崎トヲ結合シタル線以内ノ海岸海面及「ムイ」鼻ヨリ鷺別崎ニ至ル海岸及距岸二海里以内ノ海面（海軍海圖第十四號及第十七號參照）



- 一 函館港及附近
- 大鼻岬ト葛登支岬トヲ結合シタル線以内ノ海岸海面及大鼻岬ヨリ湯ノ川尻ニ至ル海岸（海軍海圖第十號參照）
- 一 小樽港及附近
- 平磯岬ト「カヤンバ」岬トヲ結合シタル線以内ノ海岸及海面（海軍海圖第五號參照）
- 一 陸奥灣及附近
- 大間岬ト龍飛岬トヲ結合シタル線以内ノ海岸及海面（海軍海圖第十號參照）
- 一 石之卷及附近
- 萩之濱港南方二角ト野蒜港南方壹ノ崎トヲ結合シタル線以内ノ海岸及海面（海軍海圖第五十四號參照）
- 一 東京灣及附近
- 安房國洲ノ崎ト相模國劍崎トヲ結合シタル線以内ノ海岸及海面（海軍海圖第九十號參照）
- 一 小笠原群島父島二見港及附近
- 大村ノ南西角ト野羊島ノ西角トヲ結合シタル線以内ノ海岸及海面（海軍海圖第八十三號參照）
- 一 清水港及附近
- 眞崎ト清見寺トヲ結合シタル線以内ノ海岸及海面（海軍海圖第八十九號參照）
- 一 伊勢灣及附近
- 三河國伊良湖崎ト志摩國安乘崎トヲ結合シタル線以内ノ海岸及海面（海軍海圖第七十號參照）
- 一 和泉灘及附近
- 播磨國明石川尻ト淡路國江崎トヲ結合シタル線及淡路國生石鼻ト紀伊國田倉崎トヲ結合シタル線以内ノ海岸及海面

（海軍海圖第六號參照）

- 一 鳴門海峡
- 南口ニ於テハ潮崎ト大磯崎トヲ結合シタル線北口ニ於テハ丸山崎ト瀬ノ着鼻トヲ結合シタル線以内ノ海岸及海面（海軍海圖第六號參照）
- 一 備讃瀬戸（海軍海圖第三百三十七號甲乙參照）
- 一 三原瀬戸（海軍海圖第六十九號參照）
- 一 來島海峡（海軍海圖第四百二十二號參照）
- 一 廣島灣及附近
- 周防室津ノ南角津家室島ノ南端興居島ノ北角、廣島灣南東角ヲ結合シタル線以内ノ海岸及海面（海軍海圖第百號ノ乙參照）
- 一 德山港及附近
- 椎木鼻ト大津島丸山崎、大津島金崎ト笠戸島龍方崎、笠戸島釜石崎ト戀ヶ濱トヲ連結シタル線以内ノ海岸及海面（海軍海圖第百二十六號參照）
- 一 中津（豐前國）沖附近
- 豐前國鏡島ト豐後國尾崎トヲ結合シタル線以内ノ海岸及海面（海軍海圖第百號ノ乙參照）
- 一 下關海峡
- 西口ニ於テハ若松港東角名護屋崎、藍ノ島ノ西角及村崎鼻ヲ結合シタル線、東口ニ於テハ部崎滿珠島、串崎トヲ結合シタル線以内ノ海岸及海面（海軍海圖第百號ノ乙及第百三十五號參照）

各水道内海面及之ニ面スル海岸



- 一 佐伯港及附近
- 一 蒲戸崎ト大島東角及鶴見崎トヲ結合シタル線以内ノ海岸及海面（海軍海圖第百五十一號參照）
- 一 須崎港及附近
- 一 大津崎ト野見浦東側半島ノ南角トヲ結合シタル線以内ノ海岸及海面（海軍海圖第百五號參照）
- 一 伊萬里灣及附近
- 一 大崎ト向島、黒島、青島ノ各北角及津崎トヲ結合シタル線以内ノ海岸及海面（海軍海圖第百六十六號參照）
- 一 佐世保港及附近
- 一 釜田浦東端長戸崎ト的山大島大賀鼻、的山大島馬ノ頭崎ト生月島大婆鼻、生月島長瀬崎ト高島大立島池島ノ各西角及夏井鼻トヲ結合シタル線以内ノ海岸及海面（大村灣内部ヲモ含ム）（海軍海圖第百九十八號參照）
- 一 對馬島（海軍海圖第百七十三號參照）
- 一 五島列島（海軍海圖第百八十七號參照）
- 一 長崎港及附近
- 一 長崎港及附近
- 一 八代灣及附近（圖面略）
- 一 左記ノ諸水道ノ外界線以内ノ各水道及八代海一帯ノ海岸並ニ海面（但郡浦及大翰ヲ結合スル線以北ノ海岸及海面ヲ除ク）
- (1) 三角瀬戸及柳ノ瀬戸
- 一 天草上島大浦北端ヨリ黒島羽島ノ外端大矢野島柴尾山ノ北端及宇土郡岳ノ鼻ニ至ル線

- (2) 長島海峽
- 一 下須島南東角ノ長島長崎鼻トヲ結合スル線
- (3) 黒瀬戸
- 一 長島ノ南角多々羅島平瀬及瀬崎ヲ結合スル線
- 一 鹿兒島灣及附近
- 一 佐多岬ト開聞岬トヲ結合シタル線以内ノ海岸及海面（海軍海圖第百八十九號參照）
- 一 有明灣及附近
- 一 火崎ト荒崎トヲ結合シタル線以内ノ海岸及海面（海軍海圖第百八十五號參照）
- 一 大島海峽及附近
- 一 倉木崎、戸倉崎、合津高崎及赤瀬、江仁屋礁ノ西端、加計呂麻島西北端ヲ結合シタル線ト神ノ鼻「カネンテ」崎ヲ結合シタル線トヲ以テ包圍スル大島海峽及燒内灣内ノ海岸及海面（海軍海圖第百二十五號參照）
- 一 中城灣及附近
- 一 勝連崎、津堅島、久高島及知念崎ヲ順次連結シタル線以内ノ海岸及海面（海軍海圖第百二十二號參照）
- 一 若狹灣及附近
- 一 經ヶ崎ト越前岬トヲ結合シタル線以内ノ海岸及海面（海軍海圖第百三十九號參照）
- 一 七尾灣及附近
- 一 觀音崎ト沖波鼻トヲ結合シタル線以内ノ南北兩灣ヲ含ム海岸及海面（海軍海圖第百二十一號參照）



### 補助工事

#### 國庫ヨリ補助スル公共團體ノ事業ニ關スル件(明治三十年四月一日法律第三七號)

##### 第一條

府縣都市區町村其ノ他公共團體ノ事業ニシテ國庫ヨリ其ノ費用ヲ補助シタルモノニ關シ必用アリト認ムルトキハ主務大臣ハ其ノ事業ノ設計施行管理並經費收支ノ方法等ニ付期間ヲ指定シテ之カ變更ヲ命シ若シ命ニ從ハサルトキハ直チニ之ヲ變更スルコトヲ得

主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ前項ノ事業ノ全部若ハ一部ヲ直接施行スルコトヲ得

##### 第二條

前條ノ事業ニ關シ經費ノ負擔ヲ爲シ又ハ經費ノ變更ヲ爲スヘキ場合ニ於テ主務大臣ノ指定シタル期間内ニ之ヲ爲ササルトキハ主務大臣ハ直ニ豫算ヲ定メ又ハ豫算ヲ追加シ若ハ更正シ必要ナル費用ヲ支辨セシムルコトヲ得

##### 第三條

此ノ法律ニ規定シタル主務大臣ノ職權ハ其ノ委任ヲ受ケタル地方長官ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

##### 第四條

府縣都市區町村其ノ他公共團體ノ事業ニシテ國ノ事業ト關聯スル場合ニ於テハ此ノ法律ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

##### 第五條

此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

#### ◎國庫ヨリ補助スル公共團體ノ事業ニ關スル件施行ノ件(明治三十一年八月二日勅令第一八四號)

##### 第一條

内務大臣ニ於テ府縣都市區町村其ノ他公共團體ノ事業ヲ直接施行スルトキハ官報ヲ以テ其ノ事業ノ屬スル公共團體並其ノ施行スヘキ事業及其ノ始期ヲ告示スヘシ

内務大臣ニ於テ前項事業ノ直接施行ヲ廢止シ又ハ事業ヲ終了シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

##### 第二條

府縣都市區町村其ノ他公共團體ハ内務大臣ノ直接施行ニ係ル事業ニ要スル費用ノ豫算金額ヲ國庫ニ納付スヘシ

前項ニ依リ納付スヘキ期間並豫算金額ハ内務大臣之ヲ定ム

##### 第三條

府縣都市區町村其ノ他公共團體ニ於テ内務大臣ノ直接施行ニ係ル事業ノ爲取得シタル物件及權利ヲ有スルトキハ之ヲ内務大臣ニ移付スヘシ

前項ニ依リ移付ヲ爲スヘキ期間並物件及權利ノ範圍ハ内務大臣之ヲ定ム

##### 第四條

内務大臣ハ其ノ直接施行ニ係ル事業ニ關シ必要ナルトキハ其ノ事業ノ屬スル府縣都市區町村其ノ他公共團體ヲ管轄スル行政廳ノ有スル職權ヲ直接施行スルコトヲ得

##### 第五條

内務大臣ニ於テ其ノ直接施行ニ係ル事業ヲ終了シタルトキハ之ヲ其ノ所屬府縣都市區町村其ノ他公共團體ニ引渡スヘシ但シ其ノ事業ノ數年ニ渉ル場合ニ於テハ其ノ完了シタル部分ヲ順次引渡スコトヲ得

##### 第六條

内務大臣ニ於テ前條ニ依リ事業ノ引渡ヲ爲シタルトキハ其ノ事業ノ爲取得シ又ハ第三條ニ依リ移付ヲ受ケタル物件及權利ニシテ現存スルモノハ之ヲ其ノ事業ノ屬スル府縣都市區町村其ノ他公共團體ニ移付スヘシ



前項ニ依リ移付ヲ爲スヘキ物件及權利ノ範圍竝其ノ移付シ難キモノニ關スル處分ハ内務大臣之ヲ定ム

**第七條** 内務大臣ノ直接施行ニ係ル事業ニ要スル費用ノ不足額ノ補充及殘餘金ノ處分等ハ内務大臣之ヲ定ム

**第八條** 内務大臣ニ於テ府縣郡市區町村其ノ他公共團體ニ屬スル事業ノ直接施行ヲ廢止シタルトキハ前三條ノ規定ヲ準用ス

**第九條** 此ノ勅令ニ規定シタルモノノ外内務大臣ハ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

**公共團體ニ對スル工事補助費繰越使用ニ關スル件** (明治四十四年二月二日 十四日法律第二號)

公共團體ノ經營ニ係ル工事ニ對シ國庫ヨリ其經費ヲ補助スル場合ニ於テハ該補助費ノ各年度豫算殘額ハ工事ノ完成ニ至ル迄順次之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

**府縣災害土木費國庫補助ニ關スル件** (明治四十四年三月二日 十三日法律第一五號)

政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ府縣災害土木費ノ一部ヲ補助スルコトヲ得

附 則

本法ハ明治四十四年度ヨリ之ヲ施行ス

災害準備基金特別會計法ハ明治四十三年度限り之ヲ廢止シ同會計ニ屬スル資金ハ之ヲ治水費資金ニ編入ス

**◎災害土木費國庫補助規程** (明治四十四年七月十日 改(大正八年三月十三日) 九日勅令第一九九號) 正(日勅令第二八號)

**第一條** 國庫ハ府縣災害土木費カ其ノ府縣ノ地租額七分一ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ニ對シ左ノ區分ニ從ヒ補助スルコトヲ得

超過額中地租額二分一以下ノ金額ニ付テハ

其ノ金額ノ十分ノ四以内

超過額中地租額二分一ヲ超過シ地租額三倍以下ノ金額ニ付テハ

其ノ金額ノ十分ノ五以内

超過額中地租額三倍ヲ超過シ地租額五倍以下ノ金額ニ付テハ

其ノ金額ノ十分ノ六以内

超過額中地租額五倍ヲ超過シ地租額七倍以下ノ金額ニ付テハ

其ノ金額ノ十分ノ七以内

超過額中地租額七倍ヲ超過スル金額ニ付テハ

其ノ金額ノ十分ノ八以内

補助工事



**第二條** 府縣災害土木費カ二年以上引續キ其ノ府縣ノ地租額ニ二分ノ一ヲ超過スル場合ニ於ケル第二年以上ノ災害土木費ニ對スル補助金額ハ其ノ年ノ災害土木費ニ第一以後前年迄ノ災害土木費ヲ加算シタル金額ヲ其ノ年ノ災害土木費ト看做シ前條ノ規定ニ依リ金額ヲ算出シ其ノ金額ヨリ第一以後前年迄ノ災害土木費ニ對スル補助金額ヲ控除シタル金額トス

**第三條** 前二條ノ地租額ハ其ノ年一月一日ニ於ケル土地臺帳面記載ノ地價ニ基キ算出シタルモノニ依ル

**第四條** 災害土木費ノ範圍及計算方法並郡市町村其ノ他ノ公共團體ノ災害土木費負擔ニ關スル方法等ハ内務大臣之ヲ定ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎**震災ニ因ル府縣災害土木費國庫補助規程** (大正十三年八月二十  
九日勅令第二〇三號)

大正十二年九月ノ震災ニ因ル東京府、神奈川縣、千葉縣、埼玉縣、靜岡縣及山梨縣ノ災害土木費ニ付テハ國庫ハ災害土木費國庫補助規定ニ依ラス左ノ區分ニ從ヒ補助スルコトヲ得

東京府ニ對シテハ府工事費ノ八割以内及下級公共團體ニ對スル府補助費ノ十割以内

神奈川縣ニ對シテハ縣工事費ノ八割五分以内及下級公共團體ニ對スル縣補助費ノ十割以内

千葉縣、埼玉縣、靜岡縣及山梨縣ニ對シテハ縣工事費ノ七割五分以内及下級公共團體ニ對スル縣補助費ノ十割以内

前項ノ規定ニ依ル府縣補助費ニ對スル補助ノ割合ハ下級公共團體ノ災害土木費ニ對シ東京府ニ在リテハ其ノ八割、神奈川縣ニ在リテハ其ノ八割五分、千葉縣、埼玉縣、靜岡縣及山梨縣ニ在リテハ其ノ七割五分ヲ超ユルコトヲ得ス

前二項ノ規定ニ依リ補助スヘキ災害土木費ノ範圍及補助費ハ内務大臣之ヲ定ム

本令ニ依ラスシテ補助金ヲ受ケタル災害土木費ニ付テハ本令ニ依ル補助金ハ之ヲ交付セス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎**災害土木費國庫補助規程施行細則**

(明治四十四年八月十九)改(大正七年内務) (大正五年内務)  
(日内務省令第十二號) (正) (省令第十八號) (省令第十六號)

**第一條** 災害ニ因リテ必要ヲ生シタル土木工事ニシテ國庫ヨリ補助スヘキモノハ府、縣、郡、市、町、村、市町村組合、町村組合、水利組合、水利土功會及市町村ノ一部ノ負擔ニ屬スル工事ナルコトヲ要ス

補助工事



**第二條** 災害ニ因リテ必要ヲ生シタル土木工事ニシテ國庫ヨリ補助スヘキモノハ被害工事ノ原形ニ復スルヲ以テ目的トス但シ原形ニ復シ難キ場合其ノ他特別ノ理由アル場合ニ於テハ増築、改築又ハ之ニ代ルヘキ必要ノ施設ヲ爲スコトヲ妨ケス

**第三條** 左ノ各號ニ該當スル工事ニ付キテハ特別ノ理由アル場合ヲ除ク外國庫ヨリ補助ヲ與ヘサルモノトス

- 一 河川港灣ノ埋塞ニ基因スル工事但シ川成變更ノ場合ヲ除ク
- 二 幅六尺未満ノ道路及其ノ附屬物ノ工事
- 三 車馬ノ交通ニ妨ケナキ道路ノ上流レ又ハ崩土堆積ニ基因スル工事
- 四 投架橋及飛石渡ノ工事
- 五 直高三尺以下ノ小堤ノ工事
- 六 溪流ニ於ケル直高六尺以下ノ石垣、板柵類ノ工事
- 七 溜池、用惡水路竝其ノ附屬物ノ工事
- 八 砂防工事
- 九 直チニ破壊スルノ虞ナク又他ニ危害ヲ及ホスヘキ恐ナキ石張、石垣等ノ差狂又ハ缺脱ニ基因スル工事
- 十 一箇所ノ工費五百圓未満ノ工事
- 十一 利害關係ノ小ナリト認ムル工事

**第十二條** 後年ニ讓リテ害ナシト認ムル工事

**第十四條** 災害ニ因リテ必要ヲ生シタル土木工事ノ所屬ハ國庫ノ補助ニ關シテハ災害ノ當時定マリタル所屬ニ依ル

**第十五條** 郡、市、町、村、市町村組合、町村組合、水利組合及水利土功會ノ工費ニシテ其ノ地租年額十分ノ一ヲ超過スルトキハ府縣ハ其ノ超過額ノ十分ノ七ヲ補助スルモノトシテ計算ス

市町村ノ一部ノ負擔スヘキ工費ハ其ノ市町村ノ工費ニ算入ス

**第十六條** 本條ノ地租額ハ其ノ年一月一日ニ於ケル土地臺帳面記載ノ地價ニ基キ算出シタルモノニ依ル

**第十七條** 府縣ノ負擔ニ屬スル工事ノ費用及前條ニ依レル補助費ニ雜費ヲ加ヘタル金額ヲ以テ府縣災害土木費トス

**第十八條** 雜費ハ府縣ノ負擔ニ屬スル工事ノ費用及前條ニ依レル補助費ヲ合セタル金額ニシテ貳拾萬圓マテハ其ノ百分ノ五以內、其ノ以上五拾萬圓マテハ貳拾萬圓ヲ超過スル部分ノ百分ノ三以內、五拾萬圓ヲ超過スル部分ハ總テ百分ノ二以內ヲ以テ算出ス

**第十九條** 府縣ニ於テ同一年度内二回以上災害ニ遭遇シタルトキハ其ノ災害ニ因リ必要ヲ生シタル工事ノ費用ハ之ヲ併算スルコトヲ得

**第二十條** 前項ニ依リ併算スヘキ工事ノ種類及其工費額竝併算スヘキ工事ノ原因タル災害ノ程度ハ内務大臣ノ認定ニ依リ之ヲ定ム

**第二十一條** 府縣ニ於テ國庫ノ補助ヲ受ケタル災害工事ノ施行中更ニ國庫ノ補助ヲ受ケル災害ニ遭遇シタル補助工事



場合ニ於テ前災害工事ニシテ後ノ災害ニ罹リタルモノハ之ヲ後ノ災害工事ニ屬スルモノトス  
前項ノ場合ニ於テハ前災害工事ノ未成工事ニ付キテハ災害前ノ出來形ニ依リ既成工費ト未成工費トヲ區  
分シ其ノ未成工事ヲ後ノ災害工事設計額ヨリ控除シ未著手工事ニ付キテハ其ノ未著手工費ヲ後ノ災害工  
事設計額ヨリ控除ス

**第九條** 府縣知事ニ於テ災害土木費ニ對シ國庫ノ補助ヲ請ハムトスルトキハ災害工事ノ目論見帳ヲ調製  
シ内務大臣ニ検査ヲ申請スヘシ

**第十條** 府縣知事ニ於テ前條検査ノ結果ニ付通知ヲ受ケタルトキハ補助申請見込額ノ上申ヲ爲シ補助内  
定額ノ通知ヲ受クヘシ

府縣知事ハ前項ノ通知ニ依リ豫算ヲ調製シ府縣會ノ決議ヲ經テ國庫補助ノ申請ヲ爲スヘシ

**第十一條** 國庫ノ補助ヲ受ケタル府縣災害土木費ニ關スル會計ノ事務ハ府縣ニ於テ分別シテ之ヲ整理ス  
ヘシ

**第十二條** 府縣ハ検査ヲ受ケタル災害工事ノ實施ニ際シ河川法其ノ他ノ規定ニ依リ認可ヲ受クヘキモノ  
ハ其ノ手續ヲ經ルコトヲ要ス

府縣ハ災害工事ノ實施ニ際シ必要アリト認ムルトキハ検査ヲ受ケタル工事ノ設計ヲ變更シ又ハ施工箇所  
ノ變更ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テモ亦前項ニ同シ

前項ノ變更ニシテ河川法其ノ他ノ規定ニ依リ認可ヲ受クルコトヲ要セサルモノハ其ノ都度内務大臣ニ報  
告スヘシ

**第十三條** 府縣ニ於テ國庫ノ補助ヲ受ケタル災害工事ヲ施行シタルトキハ内務大臣ニ其ノ工事成功ノ認  
定ヲ申請スヘシ

國庫ノ補助ヲ受ケタル災害工事ヲ完了シ前項ニ依リ其ノ認定ヲ申請スル場合ニ於テ災害土木費ニ剩餘ヲ  
生シタルトキハ府縣ハ其ノ處分方法ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

府縣ニ於テ國庫補助ヲ受ケタル災害工事ノ程度ヲ超過シ施行シタル場合ニ於テ検査工費以外ニ要シタル  
金額ハ府縣ノ負擔トス

内務大臣ハ本條剩餘金ノ内國庫補助ニ係ル金額ノ全部又ハ一部ヲ還付セシムルコトヲ得

附 則

**第十四條** 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎道路法施行前政府縣又ハ郡ノ負擔ニ關スル道路又ハ其ノ附

屬物ニ關スル土木工事費用ノ負擔ニ關スル件(大正九年三月二十七  
日内務省令第四號)

道路法施行前府縣又ハ郡ノ負擔ニ屬スル道路又ハ其ノ附屬物ニ關スル土木工事ノ費用ニシテ道路法ニ依リ下級公共團體  
ノ負擔ニ歸シタル場合ニ於テ從前ノ府縣又ハ郡道路法第二十四條ノ規定ニ依リ管理者ノ承認ヲ得テ引續キ其ノ工事ヲ執  
行スルトキハ災害土木費國庫補助規程施行細則第一條ノ府縣又ハ郡ノ負擔ニ屬スル工事トス



本令ハ大正九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

### 道路公債法(大正九年八月十一日法律第五九號)

**第一條** 國道改良費支辨又ハ國道、府縣道若ハ市ノ重要街路ノ改良費補助ニ關スル經費支辨ノ爲政府ハ當該經費豫算ノ範圍内ニ於テ公債ヲ發行シ又ハ之カ繰替支辨ノ爲借入金ヲ爲スコトヲ得

**第二條** 前條ノ規定ニ依ル公債ノ發行價格差減額ヲ補填スル爲必要アル場合ニ於テハ前條ノ制限以外ニ公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得

### 土地收用法

(明治三十三年三月七日)改(大正三三年)法律第二九號(正)法律第一五號

#### 第一章 總 則

**第一條** 公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ノ爲之ニ要スル土地ヲ收用又ハ使用スルノ必要アルトキハ其ノ土地ハ本法ノ規定ニ依リ之ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

本法ニ於テ使用ト稱スルハ權利ノ制限ヲ包含ス

**第二條** 土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノナルコトヲ要ス

一 國防其ノ他軍事ニ關スル事業

二 官廳又ハ公署建設ニ關スル事業

三 教育、學藝又ハ慈善ニ關スル事業

四 鐵道、軌道、索道、道路、橋梁、河川、堤防、砂防、運河、用惡水路、溜池、船渠、港灣、埠頭、水道、下水、市場、電氣裝置、瓦斯裝置又ハ火葬場ニ關スル事業

五 衛生、測候、航路標識、防風、防火、水害豫防其ノ他公用ノ目的ヲ以テ國府縣郡市町村其ノ他公共團體ニ於テ施設スル事業

**第三條** 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル起業者ノ權利義務ハ事業ト共ニ其ノ承繼人ニ移轉ス

**第四條** 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ起業者、土地所有者又ハ關係人ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

**第五條** 本法ニ於テ土地所有者ト稱スルハ收用又ハ使用スヘキ土地ノ所有者ヲ謂フ

本法ニ於テ關係人ト稱スルハ收用又ハ使用スヘキ土地ニ關シテ權利ヲ有スル者ヲ謂フ

第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後其ノ土地ニ關シテ權利ヲ取得シタル者ハ關係人ト看做サス但シ既存ノ權利ヲ承繼シタル者ハ此限ニ在ラス

**第六條** 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル期間ノ計算法、通知ノ方法及書類ノ送達ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム



◎土地收用法第六條ニ基ツキテ發スル命令ノ件(明治三十三年三月三十日勅令第一〇〇號)

- 第一條 本令ハ土地收用法又ハ土地收用法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル期間ノ計算法、通知ノ方法及書類ノ送達ニ關シテ之ヲ適用ス
- 第二條 期間ヲ定ムルニ時ヲ以テシタルトキハ即時ヨリ之ヲ起算ス
- 第三條 期間ヲ定ムルニ日、週、月又ハ年ヲ以テシタルトキハ期間ノ初日ハ之ヲ算入セス但シ其ノ期間カ午前零時ヨリ始マルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 前項ノ場合ニ於テハ期間ノ末日ノ終了ヲ以テ期間ノ滿了トス
- 第四條 期間ノ末日カ大祭日、日曜日ニ當ルトキハ期間ハ其ノ翌日ヲ以テ滿了ス但シ行政廳ニ對スル期間ハ其ノ末日カ行政廳ノ休日ニ當ルトキハ其ノ休日ノ終了シタル翌日ヲ以テ滿了ス
- 第五條 期間ヲ定ムルニ週、月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ニ從ヒテ之ヲ算ス
- 週、月又ハ年ノ初メヨリ期間ヲ起算セサルトキハ其ノ期間ハ最後ノ週、月又ハ年ニ於テ其ノ起算日ニ應當スル日ノ前日ヲ以テ滿了ス但シ月又ハ年ヲ以テ期間ヲ定メタル場合ニ於テ最後ノ月ニ應當日ナキトキハ其ノ月ノ末日ヲ以テ滿了ス
- 第六條 土地收用法第十八條、第二十五條及第三十四條ノ期間ハ郵便ニ依リ書類ヲ差出シタル場合ニ於テハ其ノ遞送ニ要スル日時ヲ算入セス
- 第七條 通知ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ内務大臣カ定メタル場合ニ於テハ口頭ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得
- 第八條 書類ノ送達ニシテ送達者自ラ送達セサル場合ニ於テハ使丁又ハ書留郵便ニ依ルコトヲ得
- 第九條 數人カ一人ノ代理人ヲ有スル場合ニ於テ其ノ代理人ニ爲スヘキ送達ハ一通ノ書類ヲ以テ爲スコトヲ得一人カ數人ノ代理人ヲ有スル場合ニ於テ其ノ代理人ニ爲スヘキ送達ハ其ノ一人ニ之ヲ爲スコトヲ得

- 第十條 委任ニ因ル代理人アル場合ニ於テモ其ノ委任者ニ爲シタル送達ハ其ノ效力ヲ妨ケス
- 第十一條 無能力者ニ對スル送達ハ其ノ法定代理人ニ之ヲ爲スヘシ但シ委任ニ因ル代理人アルトキハ此ノ限ニ在ラス  
法人又ハ組合ニ對スル送達ハ其ノ代表者又ハ業務執行者ニ之ヲ爲スヘシ  
前項ノ代表者又ハ業務執行者數人アル場合ニ於テハ送達ハ其ノ一人ニ之ヲ爲スコトヲ得  
組合ニシテ業務執行者ヲ定メサル場合ニ於テハ送達ハ其ノ組合員ノ一人ニ之ヲ爲スコトヲ得
- 第十二條 現役及召集中ノ豫備、後備ノ軍籍ニ在ル下士以下ノ軍人ニ對スル送達ハ其ノ所屬ノ長官又ハ隊長ニ之ヲ爲スコトヲ得
- 第十三條 在監人ニ對スル送達ハ其ノ監獄ノ首長ニ之ヲ爲スヘシ
- 第十四條 送達ハ送達ヲ受クヘキ人ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得  
前項ノ規定ハ送達ヲ受クヘキ人カ其ノ地ニ於テ住所、居所又ハ事務所ヲ有スル場合ニ於テ其ノ受領ヲ拒ミタルトキハ之ヲ適用セス
- 第十五條 送達ヲ受クヘキ人其ノ住所、居所又ハ事務所ニ在ラサルトキハ其ノ送達ハ現場ニ在ル成年ノ同居者又ハ雇人ニ之ヲ爲スコトヲ得
- 第十一條第二項ノ場合ニ於テ代表者又ハ業務執行者事務所ニ在ラサルトキハ送達ハ現場ニ在ル他ノ役員又ハ成年ノ雇人ニ之ヲ爲スコトヲ得  
前二項ノ規定ニ依リ送達ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ送達ハ交付スヘキ書類ヲ其ノ地ノ市町村長ニ預ケ送達ノ告知書ヲ作り之ヲ住所又ハ居所ノ門戸ニ貼付シ且近隣ニ住居スル者二人以上ニ口頭ヲ以テ通知シテ之ヲ爲スコトヲ得
- 第十六條 法令上ノ理由ナクシテ送達書類ヲ受領セス又ハ受領スルコト能ハサルトキハ其ノ書類ヲ送達ノ場所ニ差置クコトヲ得此ノ場合ニ於テハ送達人ハ其ノ調書ヲ作ルヘシ



第十七條 書類ノ送達ヲ受領シタル者ハ其ノ場所及年月日時ヲ記載セル受領書ヲ交付スヘシ  
前項ノ受領證ヲ交付セス又ハ交付スルコト能ハサルトキ又ハ第十五條第三項ノ規定ニ依リ送達ヲ爲シタルトキハ送  
達人ハ其ノ調書ヲ作ルヘシ

第十八條 送達ヲ受クヘキ者ノ住所、居所又ハ事務所不明ナルトキハ收用又ハ使用スヘキ土地所在ノ市町村長ニ於テ  
之ヲ公告スヘシ

前項ノ場合ニ於テ公告ノ日ヨリ一週間ヲ經過シタルトキハ送達ヲ爲シタルモノト看做ス

第十九條 書類ノ送達ニ關スル規定ハ通知ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二十條 訴願及訴訟提起期間ノ計算法ハ訴願法行政裁判法及民事訴訟法ノ規定ヲ適用ス

第二十一條 書留郵便ニ依リテ爲ス送達ニ付テハ郵便ニ關スル法令ノ規定ヲ適用ス

附 則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七條

本法ノ規定ハ水ノ使用ニ關スル權利其ノ他土地ニ關スル所有權以外ノ權利ノ收用又ハ使用ヲ爲  
ス場合ニ之ヲ準用ス

第八條

本法ノ規定ハ土地ニ屬スル土石砂礫ノ收用ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二章 事業ノ準備

第九條

事業ノ準備ノ爲必要アルトキハ起業者ハ事業ノ種類及立入ルヘキ土地ノ區域ヲ定メ地方長官ノ  
許可ヲ得テ土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲スコトヲ得但シ此場合ニ於テ宮内省又ハ國ノ起業ニ係ルトキ

ハ宮内大臣又ハ主務大臣ハ之ヲ地方長官ニ通知スヘシ

地方長官前項ノ許可ヲ與ヘ又ハ通知ヲ受ケタルトキハ起業者、事業ノ種類及立入ルヘキ土地ノ區域ヲ公  
告シ又ハ之ヲ其ノ土地占有者ニ通知スヘシ

第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者カ事業ノ準備ノ爲其ノ土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲ス  
場合ニ於テハ本條ノ許可又ハ通知ヲ要セス

第十條

前條ノ場合ニ於テハ起業者ハ立入ルヘキ日ヨリ五日前ニ其ノ日時及場所ヲ市町村長ニ通知スヘシ  
市町村長ハ之ヲ公告シ又ハ其ノ土地占有者ニ通知スヘシ

邸内ニ立入ル場合ニ於テハ起業者ハ豫メ其ノ占有者ニ通知スヘシ  
日出前日没後邸内ニ立入ル場合ニ於テハ起業者ハ特ニ行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十一條

第九條ノ規定ニ依ル測量又ハ検査ノ爲必要アルトキハ起業者ハ行政廳ノ許可ヲ得テ障害物ヲ  
除却スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ障害物ノ除却ヲ爲ス場合ニ於テハ起業者ハ三日前ニ其ノ所有者及占有者ニ通知スヘシ

第三章 事業ノ認定

第十二條

土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ハ内閣之ヲ認定ス但シ軍機ニ關スル事業ハ此限ニ在  
ラス

第十三條

起業者カ内閣ノ認定ヲ受ケムトスルトキハ事業計畫書及圖面ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シテ内務  
土地收用法



大臣ニ申請スヘシ内務大臣ハ之ヲ審査シ内閣ニ提出スヘシ  
宮内省又ハ國ノ起業ニ係ルトキハ宮内大臣又ハ主務大臣ハ事業計畫書及圖面ヲ添ヘ内務大臣ニ協議ヲ爲  
シ之ヲ内閣ニ提出スヘシ

**第十四條**

内閣カ認定ヲ爲シタルトキハ起業者及事業ノ種類竝起業地ヲ公告スヘシ

**第十五條**

天災地變ニ際シ急施ヲ要スル事業ノ爲土地ヲ使用スルトキハ郡市長ハ其ノ事業ノ認定ヲ爲ス  
コトヲ得

前項ノ使用ノ期間ハ六箇月ヲ超ユルコトヲ得ス

軍事上臨時急施ヲ要スル事業ノ爲土地ヲ使用スルトキハ主務大臣ハ使用スヘキ土地ノ區域ヲ郡市長ニ通  
知スヘシ

**第十六條**

起業者カ郡市長ノ認定ヲ受ケムトスルトキハ事業ノ種類、使用スヘキ土地ノ區域及使用ノ期  
間ヲ定メ郡市長ニ申請スヘシ

**第十七條**

郡市長カ認定ヲ爲シタルトキハ起業者、事業ノ種類、使用スヘキ土地ノ區域及使用ノ期間ヲ  
土地所有者及占有者ニ通知スヘシ

郡市長カ第十五條第三項ノ通知ヲ受ケタルトキハ使用スヘキ土地ノ區域ヲ土地所有者及占有者ニ通知ス  
ヘシ

**第十八條**

起業者カ内閣ノ認定ノ公告ノ後三箇年内ニ第十九條ノ申請ヲ爲ササルトキハ其ノ認定ハ效力  
ヲ失フ

**第四章 收用ノ手續**

**第十九條**

内閣ノ認定ノ公告ノ後起業者ノ申請ニ依リ地方長官ハ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ヲ公告  
シ又ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

軍機ニ關スル事業ニ付テハ主務大臣ハ地方長官ニ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ヲ通知シ地方長官ハ之  
ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

**第二十條**

前條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後ハ起業者ハ其ノ土地ニ立入り土地物件ヲ調査スルトコトヲ得  
前項ノ場合ニ於テハ起業者ハ立入ルヘキ日ヨリ三日前ニ其ノ日時及場所ヲ其ノ土地占有者ニ通知スヘシ

日出前日没後ハ占有者ノ承諾アルニ非サレハ邸内ニ立入ルコトヲ得ス

**第二十一條**

第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者カ必要ト認ムルトキハ土地所有者又ハ關係  
人ト共ニ土地物件ニ關スル調査ヲ作ルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ土地所有者又ハ關係人カ調査ヲ作ルコトヲ拒ミタルトキハ起業者ハ市町村長ノ立會ヲ  
以テ之ヲ作ルコトヲ得但シ市町村長カ起業者ナルトキ又ハ起業者ニ對シ第四十條第二項ニ掲ケタル關係  
ヲ有スルトキハ此限ニ在ラス

土地所有者又ハ關係人カ調査ノ必要ヲ認メタルトキハ前二項ノ規定ヲ準用ス  
起業者、土地所有者及關係人ハ本條ノ規定ニ依リ作りタル調査ノ記載事項ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ  
得ス



**第二十二條** 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者ハ其ノ土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲土地所有者及關係人ニ協議ヲ爲スヘシ  
前項ノ協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ起業者ハ收用審査會ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得

**第二十三條**

收用審査會ノ裁決ヲ求メムトスルトキハ起業者ハ其ノ申請書ニ左ニ掲ケタル書類ヲ添ヘ地方長官ニ差出スヘシ但シ軍機ニ關スル事業ニ付テハ事業計畫書及圖面ヲ添フルコトヲ要セス

一 事業計畫書及圖面

二 市區町村別ニ左ニ掲ケタル事項ヲ記載シタル書類

收用又ハ使用スヘキ土地ノ番號、地目

收用又ハ使用スヘキ土地ノ面積及其土地ニ在ル物件ノ種類、數量但シ土地物件カ分割ヲ來スヘキ場合

ニ於テハ其ノ全部ノ面積建坪等ヲ併記スヘシ

損失補償ノ見積金額及内譯

收用ノ時期又ハ使用ノ時期、期間

土地所有者及關係人ノ氏名、住所

收用審査會ノ裁決ヲ求メタルトキハ起業者ハ同時ニ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

**第二十四條**

前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ地方長官ハ之ヲ市町村長ニ下付スヘシ市町村長ハ豫メ公告ヲ爲シ一週間之ヲ公衆ノ縦覽ニ供スヘシ

**第二十五條**

土地所有者及關係人ハ前條縦覽期間ノ初日ヨリ二週間内ニ地方長官ニ意見書ヲ差出スコトヲ得

**第二十六條**

地方長官ハ前條ノ期間ヲ經過シタル後收用審査會ヲ開クヘシ

**第二十七條**

收用審査會ハ開會ノ日ヨリ一週間内ニ裁決ヲナスヘシ但シ地方長官ハ必要ト認ムルトキハ二週間内ノ延期ヲ爲スコトヲ得

**第二十八條**

收用審査會カ前條ノ期間内ニ裁決ヲ爲ササルトキハ地方長官ハ事情ヲ具シ内務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ内務大臣ハ收用審査會ニ一定ノ期間内ニ裁決ヲ爲スヘキコトヲ命シ又ハ之ニ代テ裁決ヲ爲スヘキコトヲ地方長官ニ命スルコトヲ得

收用審査會カ前項ノ期間内ニ裁決ヲ爲ササルトキハ地方長官ハ之ニ代テ裁決ヲ爲スヘシ

**第二十九條**

收用審査會カ招集ニ應セス又ハ成立セサルトキハ地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ之ニ代テ裁決ヲ爲スコトヲ得事業ノ急施ヲ要スルトキ亦同シ

**第三十條**

收用審査會カ裁決ヲ爲シタルトキハ其ノ裁決書ノ謄本ヲ添ヘ地方長官ニ報告スヘシ

**第三十一條**

前條ノ報告ヲ受ケ又ハ收用審査會ニ代テ裁決ヲ爲シタルトキハ地方長官ハ裁決書ノ謄本ヲ起業者、土地所有者及關係人ニ送達スヘシ

**第三十二條**

軍機ニ關スル事業又ハ内閣ノ認定シタル事業ノ施行ニ因リテ必要ヲ生シタル道路、堤防其ノ他公用ニ供スル工作物ノ新築、改築又ハ増築ノ爲土地ヲ收用又ハ使用スルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ直ニ本章ノ規定ニ依ルコトヲ得



◎土地收用法ニ關スル件(明治三十三年四月十九日內務省訓令第九號)

第一條 土地收用法第三十二條ノ規定ニ依リ許可ヲ與フル場合ニ於テ其ノ起業地内ニ土地收用法施行令第三條ニ掲ケタル土地アルトキハ本大臣ニ稟伺ノ上處分スヘシ

第二條 以下(大正元年十一月內務省訓令第二十四號ニ依リ削除)

第三十三條 郡市長カ認定ヲ爲シ又ハ第十五條第三項ノ通知ヲ受ケタル時ハ第十七條ノ通知ノ後起業者ヲシテ直ニ其ノ土地ヲ使用セシムルコトヲ得但シ損失ノ補償ニ關シテハ本法ノ規定ニ依ルヘシ

第三十四條 起業者カ第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後一箇年内ニ收用審査會ノ裁決ヲ求メサルトキハ其ノ公告又ハ通知ハ效力ヲ失フ

第五章 收用審査會

第三十五條

收用審査會ハ內務大臣ノ監督ニ屬シ左ニ掲ケタル事項ヲ定メテ收用又ハ使用ノ裁決ヲ爲ス

モノトス

- 一 收用又ハ使用スヘキ土地ノ區域
  - 二 損失ノ補償
  - 三 收用ノ時期又ハ使用ノ時期、期間
- 起業者ノ申請カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ違反スルトキハ收用審査會ハ却下ノ裁決ヲ

爲スヘシ

第三十六條 收用審査會ハ會長一人委員六人ヲ以テ之ヲ組織ス

第三十七條 會長ハ地方長官ヲ以テ之ニ充ツ議事其ノ他ノ會務ヲ統理シ會ヲ代表ス

第三十八條 委員ハ高等文官及府縣名譽職參事會員各三人ヲ以テ之ニ充ツ

高等文官ニシテ委員タルヘキ者ハ內務大臣之ヲ命シ府縣名譽職參事會員ニシテ委員タルヘキ者ハ其ノ互選トス

第三十九條 收用審査會ハ委員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

收用審査會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第四十條 委員カ起業者、土地所有者又ハ關係人ナルトキハ收用審査會ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス委員カ起業者、土地所有者若クハ關係人ノ配偶者、四親等内ノ親族、戸主、家族、代理人及保佐人ナルトキ又ハ起業者、土地所有者若クハ關係人タル市町村ノ市參事會員、町村長、合名會社ノ社員、合資會社及株式合資會社ノ無限責任社員、株式會社ノ取締役及監查役其ノ他法人ノ理事及監事ナルトキ亦前項ニ同シ

本條ノ規定ニ依リ委員ノ數減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ地方長官ハ左ニ掲ケタル順序ニ從ヒ其ノ本條ノ規定ニ抵觸セサル者ノ内ヨリ臨時ニ指名シテ之ヲ補充スヘシ

- 一 府縣名譽職參事會員
- 二 府縣名譽職參事會員ノ補充員



三 府縣會議員

第四十一條 收用審査會ノ裁決ハ起業者、土地所有者及關係人ノ申立タル範圍ヲ超ユルコトヲ得ス

第四十二條 收用審査會ハ必要ト認ムルトキハ鑑定人ヲ選ヒ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得

前項ノ鑑定人ニ付テハ第四十條ノ規定ヲ準用ス

第四十三條 收用審査會ハ必要ト認ムルトキハ起業者、土地所有者又ハ關係人ヲ呼出シ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得

收用審査會ハ事實參考ノ爲必要ト認ムルトキハ收用又ハ使用スヘキ土地以外ノ土地所有者ヲ呼出シ其ノ供述ヲ聽クコトヲ得

第四十四條 裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ會長之ニ署名捺印スヘシ

裁決書ノ謄本ニハ會ノ印章ヲ捺捺スヘシ

第四十五條 鑑定人及事實參考人ハ旅費及手當ヲ請求スルコトヲ得

第四十六條 二府縣以上ニ渉ル事業ニ係ルトキハ關係地方長官ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ合同シテ收用審査會ヲ開クコトヲ得

◎土地收用法第四十六條ニ依ル合同收用

審査會ニ關スル件(明治三十三年三月三十一日勅令第一〇一號)

第一條 合同收用審査會ヲ開カムトスルトキハ關係地方長官協議ヲ爲シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ協議調ハサルトキ

ハ内務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

第二條 合同收用審査會會長ハ開會地ノ地方長官ヲ以テ之ニ充テ其ノ委員ハ關係府縣收用審査會委員ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 土地收用法第二十六條乃至第二十九條ニ規定シタル地方長官ノ職權ハ合同收用審査會ヲ開キタル場合ニ於テハ開會地ノ地方長官之ヲ行フ

第四條 合同收用審査會ノ費用ニシテ府縣ノ負擔スヘキモノノ中高等文官ニ非サル委員ノ旅費ハ其ノ所屬府縣ノ負擔トシ其ノ他ハ關係府縣ノ分擔トス

附 則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六章 損失ノ補償

第四十七條 土地所有者及關係人ノ受クル損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ

損失ノ補償ハ各人別ニ之ヲ爲スヘシ但シ其ノ各人別ニ見積リ難キトキハ此限ニ在ラス

第四十八條 收用スヘキ土地物件ニ付テハ相當ノ價格ニ依リ其ノ損失ヲ補償スヘシ

使用スヘキ土地ニ付テハ其ノ土地及近傍類地ノ料金ニ依リ其ノ損失ヲ補償スヘシ

第四十九條 土地ノ一部ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ殘地ノ價格ヲ減シ其ノ他殘地ニ關シ損失ヲ生スヘキトキハ其ノ損失ヲ補償スヘシ

第五十條 土地ノ一部ヲ收用スルニ因リテ殘地ヲ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ土地所有者ハ其ノ全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

土地收用法



**第五十一條** 收用又ハ使用スヘキ土地ニ在ル物件ハ移轉料ヲ補償シテ移轉セシムヘシ但シ物件ノ分割ヲ來シ其ノ全部ヲ移轉スルニアラサレハ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ所有者ハ其ノ全部ノ移轉料ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ物件ヲ移轉スルニ因リテ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ所有者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

**第五十二條** 前條ノ移轉料ニシテ其ノ物件ノ相當價格ヲ超ユル場合ニ於テハ起業者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

**第五十三條** 土地ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ通路、溝渠、塙柵其ノ他ノ工作物ノ新築、改築、増築又ハ修繕ヲ爲ス必要ヲ生スル時ハ其ノ費用ヲ補償スヘシ

**第五十四條** 前數條ニ規定シタルモノノ外土地ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ土地所有者及關係人ノ通常受クヘキ損失ハ之ヲ補償スヘシ

**第五十五條** 土地ノ使用カ三箇年以上ニ亘ルトキ又ハ土地ノ形質ヲ變更スルトキ若ハ使用スヘキ土地ニ建物アルトキハ所有者ハ其ノ土地ノ收用ヲ請求スルコトヲ得但シ空間ヲ使用スル場合ニ於テ土地ノ使用ヲ妨ケサルトキハ此ノ限ニ在ラス

**第五十六條** 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後行政廳ノ許可ヲ得スシテ土地ノ形質ヲ變更シ又ハ工作物ノ新築、改築、増築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加増置シタル土地所有者又ハ關係人ハ之ニ關スル損失ノ補償ヲ請求スルコトヲ得ス

**第五十七條** 第九條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ土地ニ立入り測量、検査又ハ調査ヲ爲スニ因リテ他人ニ及ホシタル損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ

**第五十八條** 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者カ事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地所有者又ハ關係人ノ受ケタル損失ハ之ヲ補償スヘシ

**第五十九條** 前二條ノ補償ニ付キ協議調ハサルトキハ地方長官ノ決定ヲ求ムルコトヲ得此場合ニ於テハ第二十一條及第四十一條乃至第四十五條ノ規定ヲ準用ス

### 第七章 收用ノ效果

**第六十條** 起業者ハ收用又ハ使用ノ時期迄ニ補償金ヲ拂渡スヘシ  
左ニ掲ケタル場合ニ於テハ補償金ヲ供託スルコトヲ得

- 一 補償金ヲ受クヘキ者カ其ノ受領ヲ拒ミタルトキ又ハ之ヲ受領スルコト能ハサルトキ
- 二 起業者カ過失ナクシテ補償金ヲ受クヘキ者ヲ確知スルコト能ハサルトキ
- 三 起業者カ收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アルトキ但シ補償金ヲ受クヘキ者ノ請求アルトキハ起業者ハ自己ノ見積金額ヲ拂渡スヘシ
- 四 起業者カ補償金拂渡ノ差押又ハ假差押ヲ受ケタルトキ

**第六十一條** 土地所有者及關係人ハ收用又ハ使用ノ時期迄ニ土地物件ヲ引渡シ又ハ物件ヲ移轉スヘシ但シ左ニ掲ケタル場合ニ於テハ起業者ノ請求ニ依リ市町村長ハ土地所有者及關係人ニ代ルモノトス



一 土地所有者及關係人カ土地物件ヲ引渡シ又ハ物件ヲ移轉スルコト能ハサルトキ  
二 起業者ノ過失ナクシテ土地所有者及關係人ヲ確知スルコト能ハサルトキ

**第六十二條** 起業者カ收用又ハ使用ノ時期迄ニ補償金ノ拂渡又ハ供託ヲ爲ササルトキハ收用審査會ノ裁決ハ其ノ効力ヲ失フ但シ土地所有者及關係人カ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

**第六十三條** 土地物件ヲ收用スルトキハ收用ノ時期ニ於テ所有權ハ起業者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス土地ヲ使用スルトキハ其ノ權利ハ使用ノ時期ニ於テ起業者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ使用ノ期間其ノ行使ヲ停止セラル但シ使用ヲ妨ケサルモノハ此ノ限ニ在ラス

**第六十四條** 收用審査會ノ裁決ノ後收用又ハ使用スヘキ土地物件カ土地所有者又ハ關係人ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ滅失又ハ毀損ハ起業者ノ負擔ニ歸ス

**第六十五條** 先取特權、質權又ハ抵當權ハ其ノ目的物ノ收用又ハ使用ニ因リテ債務者カ受クヘキ補償金ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡前ニ差押ヲ爲スヘシ

**第六十六條** 收用ノ時期ヨリ二十箇年内ニ事業ノ廢止其ノ他ノ事故ニ因リテ收用シタル土地ノ全部又ハ一部カ不用ニ歸シタルトキハ舊所有者又ハ其ノ相續人ハ補償價格ヲ以テ之ヲ買受クルコトヲ得但シ第五十條ノ規定ニ依リテ收用シタル殘地ハ其ノ接續部分ノ不用ニ歸シタル時ニ非ラサレハ之ヲ買受クルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ買受ハ第三者ニ對シテモ其ノ効力ヲ有ス  
第一項ノ期間内ニ於テ收用シタル土地ヲ他ノ軍機ニ關スル事業又ハ内閣ノ認定シタル事業ニ供スルトキ

ハ不用ニ歸シタルモノト看做サス

**第六十七條** 前條ノ不用ノ土地アルトキハ起業者ハ舊所有者又ハ其ノ相續人ニ通知スヘシ但シ起業者ノ過失ナクシテ之ヲ確知スルコト能ハサルトキハ少クトモ三回ノ公告ヲ爲スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二箇月内又ハ第三回ノ公告終了ノ日ヨリ六箇月内ニ舊所有者又ハ其ノ相續人カ買受ノ通知ヲ爲ササルトキハ其ノ權利ヲ失フ

### 第八章 費用ノ負擔

**第六十八條** 起業者、土地所有者及關係人カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル手續其ノ他ノ行爲ヲ爲シ又ハ義務ヲ履行スル爲ニ要シタル費用ハ各其ノ負擔トス

**第六十九條** 收用審査會ニ要シタル費用ハ命令ヲ以テ別ニ負擔者ヲ定メタルモノヲ除クノ外府縣ノ負擔トス第五十九條ノ場合ニ要シタル費用ニ付テ亦同シ

第七十二條ノ規定ニ依リ收用審査會ノ裁決ヲ取消シタル場合ニ於テ更ニ開クヘキ收用審査會ニ要シタル費用ハ之ヲ起業者、土地所有者及關係人ニ負擔セシムルコトヲ得ス

### ◎土地收用法第六十九條ニ依リテ發スル命令ノ件

(明治三十三年三月三十一日勅令第一〇二號)

第一條 收用審査會ノ費用中左ニ掲ケタルモノハ起業者ノ負擔トス

一 鑑定人及事實參考人ノ旅費及手當

二 裁決書謄本ノ調製費

### 土地收用法



三 郵便及電信料

四 備人料

五 其ノ他内務大臣ノ指定シタルモノ

第二條 收用審査會ノ費用中收用審査會會長及高等文官ニシテ委員タル者ノ旅費ハ所屬官廳ノ經費ヲ以テ之ヲ支辨ス

第三條 土地收用法第五十九條ノ場合ニ要シタル費用ニ付テハ前二條ノ規定ヲ準用ス

附 則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七十條 第七十三條第一項ノ規定ニ依リ地方長官カ義務者ノ爲スヘキ事項ヲ自ラ執行シ又ハ他人ヲシ

テ執行セシメタル爲ニ要シタル費用ハ府縣ノ負擔トス

府縣ハ前項ノ費用ヲ各其ノ義務者ヨリ徴收スルコトヲ得但シ其ノ義務者ノ受領スヘキ補償金ヲ以テ之ニ

充ツルコトヲ得

第七十一條 土地所有者又ハ關係人ノ負擔スヘキ費用ハ第六十一條但書ノ場合ニ於テハ市町村ノ負擔ト

ス

前項ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第九章 監督、強制及罰則

第七十二條 收用審査會カ其ノ權限ヲ超エ又ハ法令ノ規定ニ違反シテ爲シタル裁決ハ内務大臣之ヲ取消

スコトヲ得

第七十三條

義務者カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ依ル義務ヲ履行セス又ハ之ヲ履行スルモ一定ノ期間内ニ終了スル見込ミナキトキハ地方長官ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ他人ヲシテ之ヲ執行セシ

ムルコトヲ得

義務者カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ依ル義務ヲ履行セサル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依

ルコト能ハサルトキハ地方長官ハ直接ニ之ヲ強制スルコトヲ得

第七十四條

前章ノ規定ニ依リ私人ノ負擔スヘキ費用ヲ支出セサル者アルトキハ行政廳ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徴收スルコトヲ得

前項ノ費用ニ付テハ行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス

第七十五條

收用審査會員人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタルトキハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其ノ賄賂ヲ贈與シ又ハ贈與スルコトヲ約シタル者亦同シ

第七十六條

第十一條ノ規定ニ違反シ行政廳ノ許可ヲ得スシテ障害物ヲ除却シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十七條

第九條又ハ第十條ノ規定ニ違反シ行政廳ノ許可ヲ得スシテ土地ニ立入りタル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十八條

故ナク鑑定人タルコトヲ拒ミタル者又ハ鑑定人カ故ナク鑑定ヲ爲スコトヲ拒ミタルトキハ四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十九條

鑑定人トシテ收用審査會ニ呼出サレタル者ハ詐偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ重禁



錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ詐偽ノ鑑定ヲ爲サシメタル者亦同シ

**第八十條** 鑑定人又ハ第四十三條第二項若ハ第五十九條ノ規定ニ依リ呼出ヲ受ケタル者故ナク出頭セサルトキハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

**第十章 訴願及訴訟**

**第八十一條** 收用審査會ノ裁決ニ對シテ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

收用審査會ノ違法裁決ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル訴願訴訟ハ裁決書謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ二週間ヲ經過シタルトキハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

本法ノ規定ニ依リ通常裁判所ニ出訴ヲ許シタル事項ニ關シテハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

**第八十二條** 收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ裁決書謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三ヶ月ヲ經過シタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ訴訟ハ收用審査會ニ對シテ之ヲ提起スルコトヲ得ス

**第五十九條**ノ規定ニ依ル地方長官ノ決定ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス

**第八十三條** 本法ノ規定ニ依ル訴願訴訟ハ事業ノ進行及土地ノ收用又ハ使用ヲ停止セス

**附 則**

**第八十四條** 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

**第八十五條** 明治二十二年法律第十九號土地收用法ノ規定ニ依リ收用又ハ使用ニ關シテ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ本法ノ規定ニ依リテ爲シタルモノト看做ス

明治二十二年法律第十九號土地收用法ノ規定ニ依リ收用シタル土地ニ關シテハ第六十六條ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

明治八年太政官達第百三十二號公用土地買上規則ニ依リ買上ケ現ニ國有タル土地ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本條ノ規定ヲ準用ス

**◎土地收用法第八十五條第三項ニ基ツキテ發スル命令ノ件** (明治三十三年三月三十日勅令第一〇三號)

明治八年太政官達第百三十二號公用土地買上規則ニ依リ買上ケ引續キ國有ニ屬スル土地ニ付テハ左ノ各號ノ一ニ該當スル土地ヲ除クノ外土地收用法第八十五條第一項及第二項ノ規定ヲ準用ス

一 公用土地買上規則第四則但書又ハ第八則ノ規定ニ依ラスシテ買上ケタル土地

二 府縣郡市町村其ノ他公共團體ニ於テ土地收用法施行ノ際現ニ修理保存費ヲ負擔スル土地

三 明治三十二年勅令第三百三十三號第一條ノ規定ニ依リ帝國ノ臣民又ハ法人ニ於テ所有權ヲ取得スルコトヲ得ヘキ土地

四 土地收用法施行前不用ニ歸シタル土地

五 土地收用法施行前第三者ニ讓渡スヘキ契約ヲ爲シタル土地

**附 則**

土地收用法



本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

◎公用土地買上規則ニ依リ買上ケ又ハ土地收用法ニ依リ收用シタル土地處分等ノ場合ニ於ケル取扱方ノ件(明治三十三年五月十八日 內務省訓令第五二五號)

第一條 明治八年太政官達第三百二十二號公用土地買上規則ニ依リ買上ケ又ハ土地收用法ニ依リ收用シタル土地ニ關シ賣拂、讓與、交換等ノ處分ヲ爲シ若ハ官有地中他ノ種目ニ組換(例ハ公用ニ供スル土地ヲ他ノ公用ニ供シ又ハ)爲スコトヲ要スルトキハ本大臣ニ稟請スルモノハ稟請書ニ、其應限リ處分シタルモノハ官有土地増減異動報告中摘要及事由欄内ニ左ノ事項ヲ詳記スヘシ

- 一 公用土地買上規則ニ依リ買上ケタル土地ニシテ本年勅令第百三號規程各號ノ一ニ該當スルモノニ在テハ其事由
  - 二 公用土地買上規則ニ依リ買上ケタル土地ニシテ本年勅令第百三號規程各號ノ一ニ該當セサルモノ及土地收用法ニ依リ收用シタル土地ニ在テハ舊所有者ニ於テ買受クルコトヲ得サルニ至リタル事由(公用土地買上規則ニ依リ買上ケタル土地ニ在テハ舊所有者ニ於テ買受クルコトヲ得サルニ至リタル事由)
- キ國有ニ屬シ居リシモノナリ、土地收用法第六十六條第一項規  
定ノ期間ヲ經過シ期間内ニ買受ノ通知ヲ爲ササルモノナリノ類
- 第二條 公用土地買上規則ニ依リ買上ケ又ハ土地收用法ニ依リ收用シタル土地ヲ各廳ニ於テ其所有ニ供セムトスルカ爲メ例ニ依リ支障ノ有無ヲ問合セ來リタルトキ前條一號、二號ニ掲ケルカ如キ事由アルモノハ其事由又舊所有者ニ於テ買受クルコトヲ得ヘキモノアルトキハ其事由ヲ回答書ニ詳記スヘシ

右訓令ス

第八十六條 收用審査會ノ爲スヘキ職務ハ北海道及沖繩縣ニ於テハ地方長官之ヲ行フ

郡長ノ爲スヘキ職務ハ支廳長又ハ島司ヲ置キタル地ニ於テハ支廳長又ハ島司之ヲ行ヒ支廳長又ハ島司ヲ

置カサル地ニ於テハ支廳長又ハ島司ニ準スヘキ吏員之ヲ行ヒ支廳長又ハ島司ニ準スヘキ吏員ヲ置カサル地ニ於テハ町村長ニ準スヘキ吏員之ヲ行フ

市長ノ爲スヘキ職務ハ北海道及沖繩縣ニ於テ區長ヲ置キタル地ニ於テハ區長之ヲ行フ

町村長ノ爲スヘキ職務ハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ町村長ニ準スヘキ吏員之ヲ行ヒ町村長ニ準スヘキ吏員ヲ置カサル地ニ於テハ郡長ニ準スヘキ吏員之ヲ行フ

第八十七條 明治二十二年勅令第百五號東京市區改正土地建物處分規則其ノ他別段ノ定アルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

第八十八條 明治二十二年法律第十九號土地收用法明治二十三年法律第五十四號土地收用協議會規則及明治三十二年法律第七十二號ハ之ヲ廢止ス

◎土地收用法施行令(明治三十三年三月三十一日勅令第九九號)

第一條 土地收用法第十條第三項及第十一條第一項ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ市町村長之ヲ行フ

第二條 土地收用法第九條、第十一條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ起業者ノ爲土地ニ立入り又ハ障害物ヲ除却スル者ハ其ノ證票ヲ攜帶スヘシ

日出前日没後邸内ニ立入ル者又ハ障害物ヲ除却スル者ハ行政廳ノ許可證ヲ攜帶スヘシ

◎內務省ノ起業ニ係ル土木事業ニ關シ攜帶スル證票雛形ノ件(大正三年一月十六日 內務省告示第七號)



明治三十三年勅令第九十九號土地收用法施行令第二條ニ依リ内務省ノ起業ニ係ル土木事業ニ關シ土地ニ立入り又ハ障害物ヲ除却スル者ノ身分ヲ證明スヘキ證票ノ雛形左ノ通定ム(雛形略)

**第三條** 起業者カ内閣ノ認定ヲ受ケントスル場合ニ於テ起業地内ニ左ニ掲ケタル土地アルトキハ其ノ土地ニ關スル調査及圖面ヲ申請書ニ添付スヘシ

一 御陵墓地及御料地

二 國有地

三 現ニ公用ニ供スル土地

四 社寺境内地

五 名所、舊蹟及古墳墓

◎土地收用法ニ依リ起業者ヨリ事業認定ノ

申請ヲ爲シタル場合ニ關スル件(明治三十五年七月三十日内務省訓令第一四號)

明治三十三年法律第二十九號土地收用法第十三條ニ依リ起業者ヨリ事業認定ノ申請ヲ爲シタル場合ニ於テ其事業施行ノ爲御料地及國有林野ニ潰地ヲ要スルモノアルトキハ(御料局)支廳若ハ(御料局事務所)ノ所管ノ御料地ニ付テハ當該支廳長若ハ(事務所長)ニ其ノ他ノ御料地ニ付テハ(御料局長)ニ又國有林野ニ付テハ大林區署長ニ支障ノ有無ニ付協議ヲ遂ケ事業認定申請書進達ノ際該協議ノ顛末ヲ具申スヘシ

**第四條** 土地收用法第十四條ノ規定ニ依ル公告ハ官報ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

**第五條** 内閣ノ認定ノ公告ノ後事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地收用法第十九條ノ申請ヲ爲スノ必

要ナキニ至リタルトキハ起業者ハ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

地方長官前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ公告スヘシ

**第六條** 土地收用法第二十一條ノ規定ニ依リ調査ヲ作りタル者ハ之ニ署名又ハ捺印スヘシ

**第七條** 土地收用法第二十四條ノ規定ニ依リ公告ヲ爲シタルトキハ市町村長ハ縦覽期間ノ始期ヲ地方長官ニ報告スヘシ

**第八條** 土地收用法第三十二條ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ工事計畫書及圖面ヲ添ヘ左ニ掲ケタル事項ヲ記載シ出願スヘシ

一 工事ノ種類

二 收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目

三 其ノ必要ヲ生セシメタル事業トノ關係

本條ノ場合ニ於テハ第三條ノ規定ヲ準用ス

**第九條** 土地收用法第三十二條ノ規定ニ依リ許可ヲ與ヘタルトキハ地方長官ハ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ト共ニ起業者及工事ノ種類ヲ公告シ又ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

**第十條** 土地收用法第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地ヲ收用又ハ使用スルノ必要ナキニ至リタルトキハ起業者ハ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

地方長官前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ公告シ又ハ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

**第十一條** 收用審査會會長及委員ニハ旅費ヲ支給ス

土地收用法